

第54回 日本生態学会プログラム

会 期 2007年3月19日(月)～23日(金)
会 場 愛媛大学(共通教育棟、グリーンホール、
法文学部2号館、総合情報メディアセンター)

学会会長 菊沢 喜八郎 大会会長 柳沢 康信
企画委員長 難波 利幸 実行委員長 大森 浩二



日本生態学会第54回大会(ESJ54)実行委員会

〒790-8577 松山市文京町2-5 愛媛大学沿岸環境科学研究センター内

TEL: 089-927-9643 FAX: 089-927-9630

電子メール taikai@mail.esj.ne.jp

大会公式ホームページ <http://www.esj.ne.jp/meeting/54/>

目 次

第 54 回日本生態学会大会

● 大会日程概略	3
● 注意事項	4
● 大会会場への交通案内	9
● 会場案内図	10
● 懇親会場への交通案内	15
● 大会日程一覧表	16
● 学会賞授賞式・受賞記念講演	19
● 公開講演会	19
● シンポジウム・フォーラム・自由集会一覧	20
● 企画シンポジウム	23
● 公募シンポジウム	24
● 自由集会	36
● 一般講演（口頭発表）	56
● ポスター発表	68
● 参加登録者一覧	89

第 55 回日本生態学会大会（2008 年 3 月 福岡）のご案内	102
-----------------------------------	-----

大会日程概略

各種委員会 3月19日(月) 法文学部2号館

外来種検討作業部会	9:00～11:00	委員会室	2
生態系管理専門委員会	9:00～11:00	委員会室	4
将来計画専門委員会	9:30～11:30	委員会室	3
大規模長期生態学専門委員会	11:30～13:30	委員会室	1
自然保護専門委員会	11:30～13:30	委員会室	2
保全生態学研究刊行協議会	14:00～16:00	委員会室	1
日本生態学会誌刊行協議会	14:00～16:00	委員会室	2
生態学教育専門委員会	14:00～16:00	委員会室	3
Ecological Research 刊行協議会	14:00～16:00	委員会室	4
大会企画委員会	14:00～16:00	Room I	
全国委員会	17:00～20:00	委員会室	4

受賞講演・総会 3月21日(水) 9:00～12:00 グリーンホール(Room A)

生態学会賞/生態学会功労賞/生態学会宮地賞/ER 論文賞授賞式
生態学会賞受賞者および功労賞受賞者挨拶
生態学会宮地賞受賞記念講演
総会

公開講演会 3月23日(金) 9:30～12:00 グリーンホール(Room A)

日本生態学会第10回公開講演会
テーマ：地球生態系の現在と未来 - 21世紀 COE4 拠点の成果から -

一般講演・シンポジウム・フォーラム・自由集会

シンポジウム(企画・公募)・フォーラム 3月20日(火)、21日(水)、22日(木)
一般講演(口頭発表) 3月20日(火)、22日(木)
一般講演(ポスター発表) 3月20日(火)、21日(水)、22日(木)

懇親会 3月21日(水) 18:00～20:00 愛媛県民文化会館真珠の間

「エコカップ 2007 in Matsuyama」のご案内
生態学会に合わせて開催されてきた親善フットサル大会(5人制のミニサッカー)を、3月18日(日)に開催します。会場は愛媛大学樋又グラウンドです。詳しくは、以下のエコカップ・ホームページをご覧ください。
<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~ecology/ecocup.html>

注意事項

受付

- 3月19日(月)17時から受付を開始します。
- 会場では必ず名札を付けてください。
- シンポジウムならびに一般講演が始まる3月20日(火)朝は受付の混雑が予想されます。当日受付の方はお早めにお越しになることをお勧めします。この日は朝8時から受付を始めます。
- 受付での混雑を避けるために法文学部2号館2階に設置された受付へは1階の東側入り口からの一方通行となります。そこから、2階に上がっていただき、受付終了後は2階の西側階段から退出していただきます。当日は係りのものが誘導しますので、恐れ入りますがその指示に従ってください。詳しい順路は、案内図に記入しています。
- ウェブでの参加申込みは <http://www.esj.ne.jp/meeting/54/> で引き続き受け付けています。当日受付(一般7,500円、学生5,000円)も可能ですが、できる限り事前の申込みと振込をお願いします。なお、3月2日(金)以降に振り込まれた方は、必ず“郵便振込の受領書”をご持参ください。
- **ポスター発表のセッション・講演番号と展示会場の対応表は、大会受付にて要旨集とともに配布すると同時に、ポスター会場に貼り出しますので、確認してください。また、2月中には大会公式ホームページにも掲載予定です。**

一般講演(口頭発表)

- 口頭発表は、すべて会場備え付けのパソコン(OSはWindowsXP)と液晶プロジェクター(解像度1024×768)を使用したマイクロソフト・パワーポイント(Windows版PowerPoint2003以降)あるいはPDFによる発表に限定させていただきます。コンピューターの持ち込み使用はできません。
- 発表用ファイルの作成方法:上記の使用機器類及び「事前にお送りいただいた発表用ファイルを各会場のパソコンのハードディスクにあらかじめインストールしておく」ことをふまえ、発表用ファイルを準備される際は以下の点にご注意下さい。
 1. パワーポイントファイルはWindows版PowerPoint2003以降のバージョンで動作可能なこと。標準的なフォントを使用し、アニメーションを設定しないこと。なお、Mac OSで作成した場合、必ずWindowsファイルに変換し、各自Windows機で動作確認をしてください。
 2. パワーポイントあるいはPDFファイルはファイルサイズができるだけ小さいこと(上限5MB、推奨2MB以下/写真を多用される方は液晶プロジェクターの解像度(1024×768)を考慮して必要最小限の解像度に変更してから使用)。
- 提出期限:2007年3月2日(金)17:00です。大会公式ホームページにて登録してください。各自のファイル名は自動で作成されます。期限までに発表用ファイルが登録されない場合には、“発表ができません”のでご注意ください。なお、パソコンと液晶プロジェクターを使用しないで発表される場合は、同期日までに電子メールで、その旨を taikai@mail.esj.ne.jp にご連絡下さい。
- ファイル登録の連絡:ファイル登録確認後、自動で確認のメールを返信します。ファイルを登

録したにもかかわらず、確認メールが届かなかった場合は、その旨電子メールにて taikai@mail.esj.ne.jp までご連絡ください。

- 講演時間は、発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。一鈴 10 分、二鈴 12 分、三鈴 14 分 30 秒です。時間は厳守して下さい。
- パソコンの操作は、最初のスライドを表示するところまではオペレーター（会場係）が行います。その後の操作（スライドの進行）は、講演者自身で行うことも、会場のオペレーター（会場係）に指示することも可能です。
- 座長：各講演者が次の講演の座長をしてください。最初の座長は、大会実行委員会に対応します。

一般講演（ポスター発表）

- ポスター会場は 9 時から利用可能です。ポスターは 10 時 30 分までに展示を完了し、当日 16 時から 17 時の間に撤去してください。
 - 展示場所は、ポスター会場の案内デスク（共通教育講義棟 3 階と総合情報メディアセンター 1 階）付近の展示ボードに講演番号で指示されています。
 - ポスター会場は、第 1 会場（共通教育講義棟 3 階 - 5 階：PA～PG）と第 2 会場（総合情報メディアセンター 1 階：PH と PP）とに分かれますのでご注意ください。
 - ポスター展示ボードの大きさは 90cm×210cm（縦長）です。
 - ポスター貼り付け用のピンや画鋏は各自でご用意下さい。セロハンテープは使用できません。
 - ポスター発表のコア・タイムは、3 日とも 12 時 00 分～14 時 00 分です。この時間帯に発表者はポスターの前で説明をしてください。
 - ポスター賞の対象となる発表には、ボードに応募を示す表示が貼り付けてあります。ポスター賞に応募しているにもかかわらず表示がない場合にはすぐに「ポスター発表案内デスク」（会場内に設置されている）に連絡ください。
 - ポスター賞の発表、表彰は 16 時から 17 時にポスター第 1 会場の案内デスクで行います。応募された方はこの時間においでください。「最優秀賞」受賞ポスターは特設掲示板（総合情報メディアセンター 1 階廊下）に特別展示されます。受賞者の方は展示の移動にご協力ください。
- **ポスター発表のセッション・講演番号と展示会場の対応表は、大会受付にて要旨集とともに配布すると同時に、ポスター会場に貼り出しますので、確認してください。また、2 月中には大会公式ホームページにも掲載予定です。**

ポスター賞に応募された皆さんへ

日本生態学会は、若手研究者を奨励するために、優秀なポスター発表に賞を贈ります。ポスター賞は新潟大会から生態学会大会企画委員会が中心となって運営されています。大会実行委員会ではなく、日本生態学会が公認した表彰となったことをご承知おきください。

ポスター賞の運営方法の要点はつぎの通りです。以下の点に注意して発表ポスターを準備ください。

1. 選考および受賞の単位

分野ごとに審査を行い、各分野で「最優秀賞」（1 名；“該当者なし”もある）および「優秀賞」（1、2 名）を選出します。

2. 分野

プログラムに記載されている 23 分野（20 日 7 分野、21 日 7 分野、22 日 9 分野）ごとに審査されます。応募数が少ない分野では、「最優秀賞」（あるいは「優秀賞」）だけとなることもあります。

3. 展示時間と発表時間

一般のポスターを掲示する時間は発表日の 9 時から 10 時 30 分までですが、審査を迅速に進めるためにポスター賞対象ポスターは発表日の 10 時までに展示してください。また、発表者はコア・タイムには必ずポスターのそばにいて、質問などに対応してください。

この 2 点は審査上必須の条件です。守っていただけない場合は審査対象外となりますので、十分に注意ください。

4. 審査の要点

以下のような観点から審査されますので、十分に理解して準備ください。

< 第 1 段階審査 >

(A) 短時間でポスター発表の魅力を伝える能力

ポスター発表の重要な特徴のひとつに、数多くある発表の中から「選んでもらえる」（見てもらえる、説明を聞いてもらえる）能力が問われることがあります。参加者に足を止めてもらえなければポスター発表は始まりません。「選んでもらう」ためには、良いタイトル、良い要旨は不可欠ですし、視線を引きつける工夫も必要でしょう。また、短時間でおおまかな内容を伝える「わかりやすさ」も重要でしょう。第 1 次審査では限られた時間で聴衆をキャッチする能力が問われます。「キャッチ能力」に優れた発表だけが第 2 段階審査の対象となります。

< 第 2 段階審査 >

第 2 段階では発表技術点、研究の質にわけて審査されます。

(B) 発表技術 は、

（ポスターを見て）

（ 1 ）字・図表が遠くからでもわかる、（ 2 ）情報過多でない、（ 3 ）説明なしでも要点が理解できる、（ 4 ）話の流れ（文章構造・論理展開）

（説明を聞いて）

（ 5 ）説明がわかりやすい、（ 6 ）説明時間が適度、（ 7 ）質問への応答が端的かつ的確、（ 8 ）聴衆全体に対する気配り、

について審査されます。

(C) 研究の質 は、

（ 1 ）新規性・独創性、（ 2 ）データの質・量、（ 3 ）解析方法の妥当性、

（ 4 ）議論・結論の妥当性、

について審査されます。

第1段階審査に発表者は立ち会う必要はありません。審査員の方に余裕をもって審査していただくために、展示開始時間を早めました。第1段階審査で絞り込まれた発表は(B)と(C)について評価されます。第2段階審査はコア・タイムを中心に行われます。この時間には必ずポスターのそばにいてください。この時間外にもポスターのそばにいてくださることは審査員の方に余裕をもって審査いただけるので歓迎します。(B)、(C)の合計点に基づき、分野ごとに「最優秀賞」および「優秀賞」を選出します。

シンポジウム(企画・公募)・フォーラム

- 設定された時間内に終了するように進行をお願いします。時間延長はできません。
- シンポジウム・フォーラムの発表には液晶プロジェクターが使用できます。液晶プロジェクターに接続するコンピューターおよび発表用ファイルは、シンポジウム企画者の責任で準備してください。

自由集会 サテライト集会

- 設定された時間内に終了するように進行をお願いします。時間延長はできません。
- 自由集会で使用できる機器は、液晶プロジェクターのみです。液晶プロジェクターに接続するコンピューターおよび発表用ファイルは、自由集会代表者の責任で準備してください。
- 自由集会には会場係がつきません。問題がありましたら大会本部までご連絡ください。
- 自由集会会場は、一般講演を行う共通教育講義棟と自由集会のみに使用される法文学部2号館の2会場に分かれますのでご注意ください。
- 19日に開催の自由集会に参加される方は、19日のうちに受付(19日17時~)をお済ませください。20日朝、受付の混雑が予想されますのでご協力御願います。
- サテライト集会の詳細は、各責任者にお問い合わせください。

懇親会

- 懇親会は3月21日(水)午後6時から、愛媛県県民文化会館 真珠の間(電話089-923-5111)にて行います。懇親会会場は、道後温泉の西側に位置し、大会会場から道後温泉(東)方向に徒歩10分のところにあります。今回は、愛媛県農水産業界のご後援により、会場において愛媛県特産物の屋台(無料)の出店も企画しています。
- 現在、大会参加の受付を継続していますが、大会開始時点において懇親会の定員(800名)に達していない場合のみ当日参加可能となります。早めの申し込みをお奨めします。

会場での飲食等

- 20日~22日の3日間 ポスター第1会場に休憩所を併設します。また、法文学部講義棟(3、4階)に設置された委員会室の一部をお昼の休憩所として解放します。ご利用ください。
- 休憩所では20日~22日の3日ドリンクサービスカウンター(お茶菓子付き)を設けます。
- 20日~22日の3日間、お食事は大会館1階の生協食堂をご利用ください。お弁当の販売も生協及び会場周辺の広場で行う予定です。
- 会場は全館禁煙となっています。喫煙は決められた場所をお願いします。

要旨集

- 大会に参加できない方で講演要旨集をご希望の方は、大会実行委員会にお申し込み下さい。一冊 3,000 円（送料込）で承ります。代金は郵便振替で、振替口座番号：01630-6-130333、口座名称：日本生態学会第 54 回大会実行委員会にお振り込みください。大会終了後に郵送します。

託児所の案内

- 大会参加者が同伴するお子さんの託児を行います。ただし、事前に申込みをされた方に限りません。
- 対象年齢は、0 歳から小学校低学年までとしますが、ご相談に応じます。
- 託児時間は 3 月 20 日（火）～22 日（木）の 9 時から 17 時までです。
- 託児場所は、大学会館 2 階和室に設けます。
- 申込みは電子メールで、taikai@mail.esj.ne.jp までお願いします。託児を希望されるお子さんの年齢（学年）・人数と託児希望日時をご連絡下さい。追って、同意書等の申込みに必要な書類と詳細な内容をご連絡します。申込みの〆切は、3 月 9 日（金）です。なお、メールの表題は「託児所利用希望」とご入力下さい。

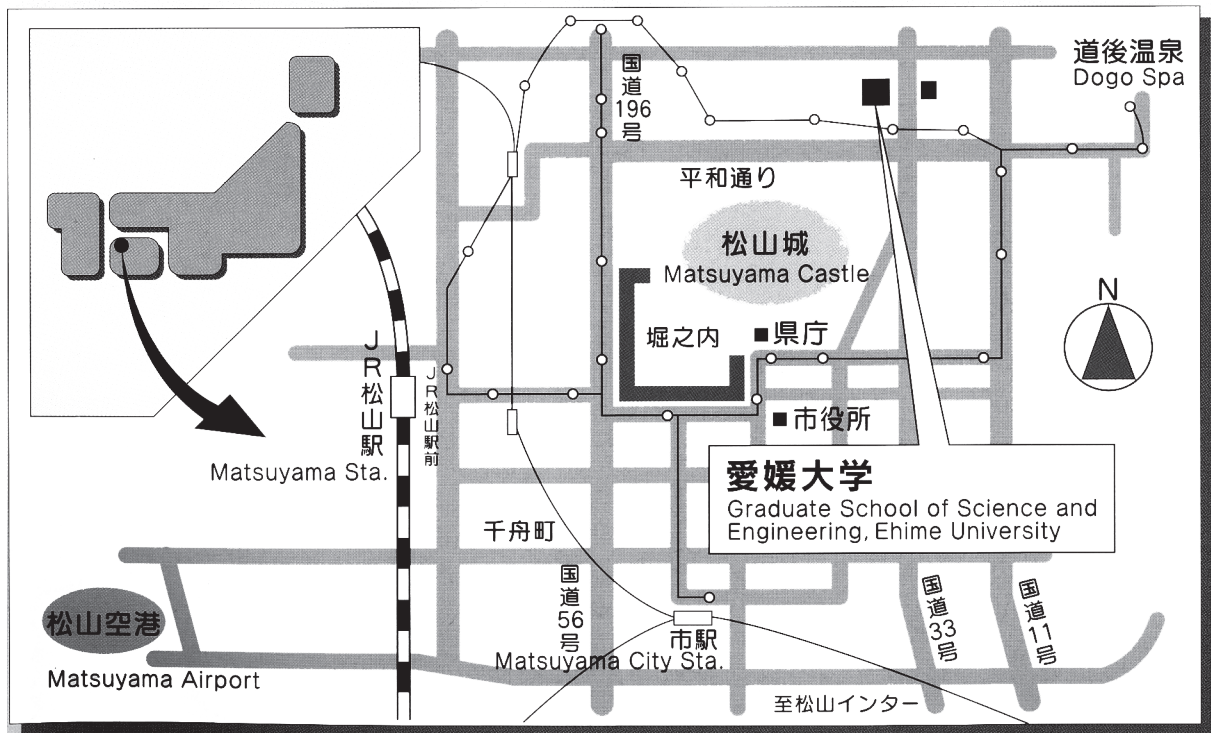
駐車場

- 自家用車でのご来場は一切できませんのでご注意ください。

会場までの交通及び宿泊

- 宿泊の予約については、以下のフジトラベルの宿泊 HP をご覧ください。大会公式 HP にもリンクしています。また、大会会場である愛媛大学までの交通また交通費についての情報も載せています。ご参考にしてください。

宿泊 HP：<http://www.fj-t.com/seitai/guide.html>



■ 大会会場 愛媛大学

松山市文京町 3 番 TEL/089-927-9046



各種交通機関
ホームページ

- 松山空港
<http://www.matsuyama-airport.co.jp/>
- 松山観光港
<http://www.kankoko.com/>
- JR 四国
<http://www.jr-shikoku.co.jp/>
- 伊予鉄道
<http://www.iyotetsu.co.jp/index.html>

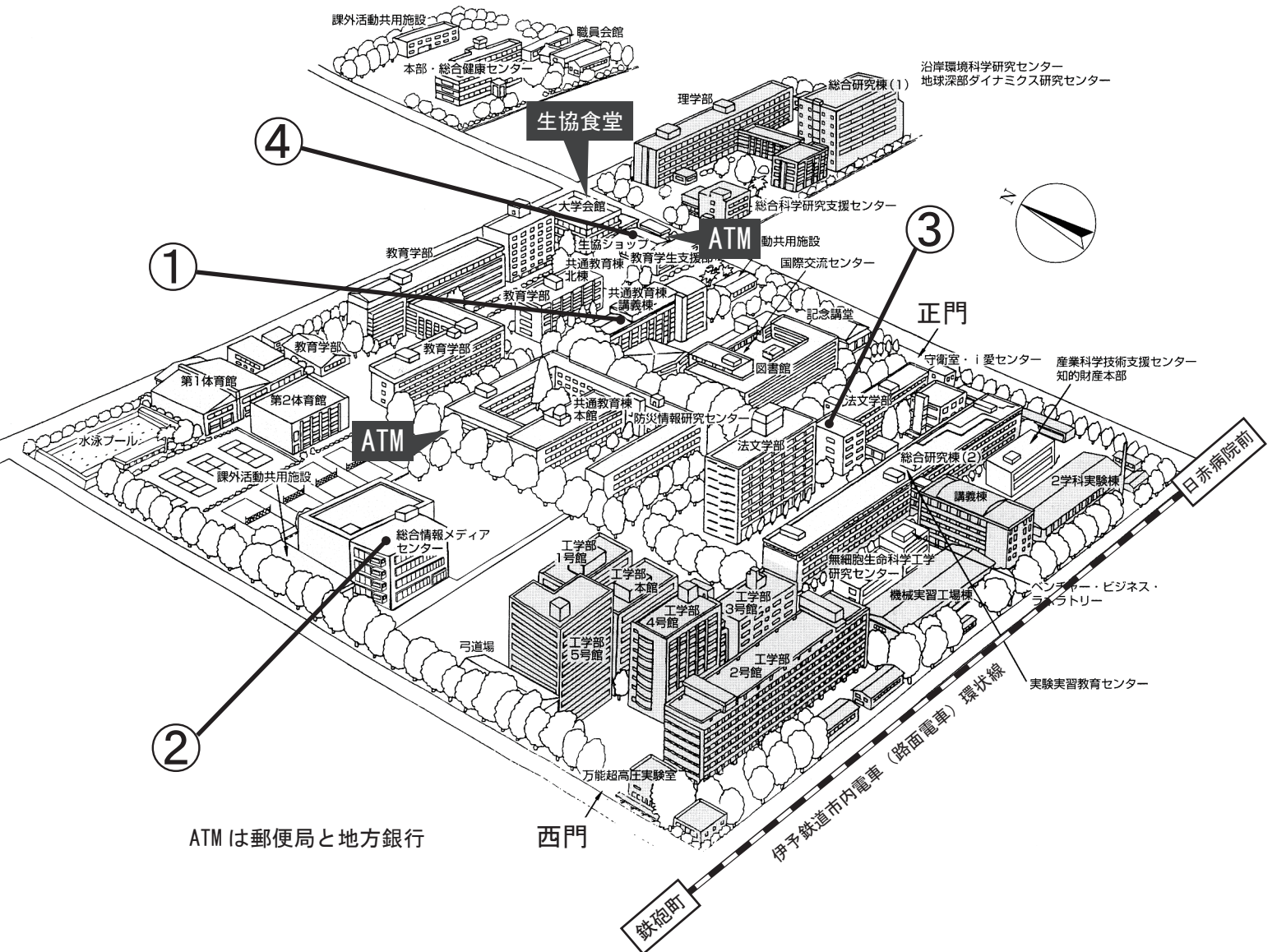
アクセス

□ JR松山駅から

—伊予鉄道市内電車をご利用の場合—
1, 2番(いずれも環状線)「赤十字病院前」下車, 北へ徒歩2~5分

—伊予鉄バスをご利用の場合—
都心循環東西線(東・西循環)「愛媛大学前」下車

会場案内図



ATMは郵便局と地方銀行

西門

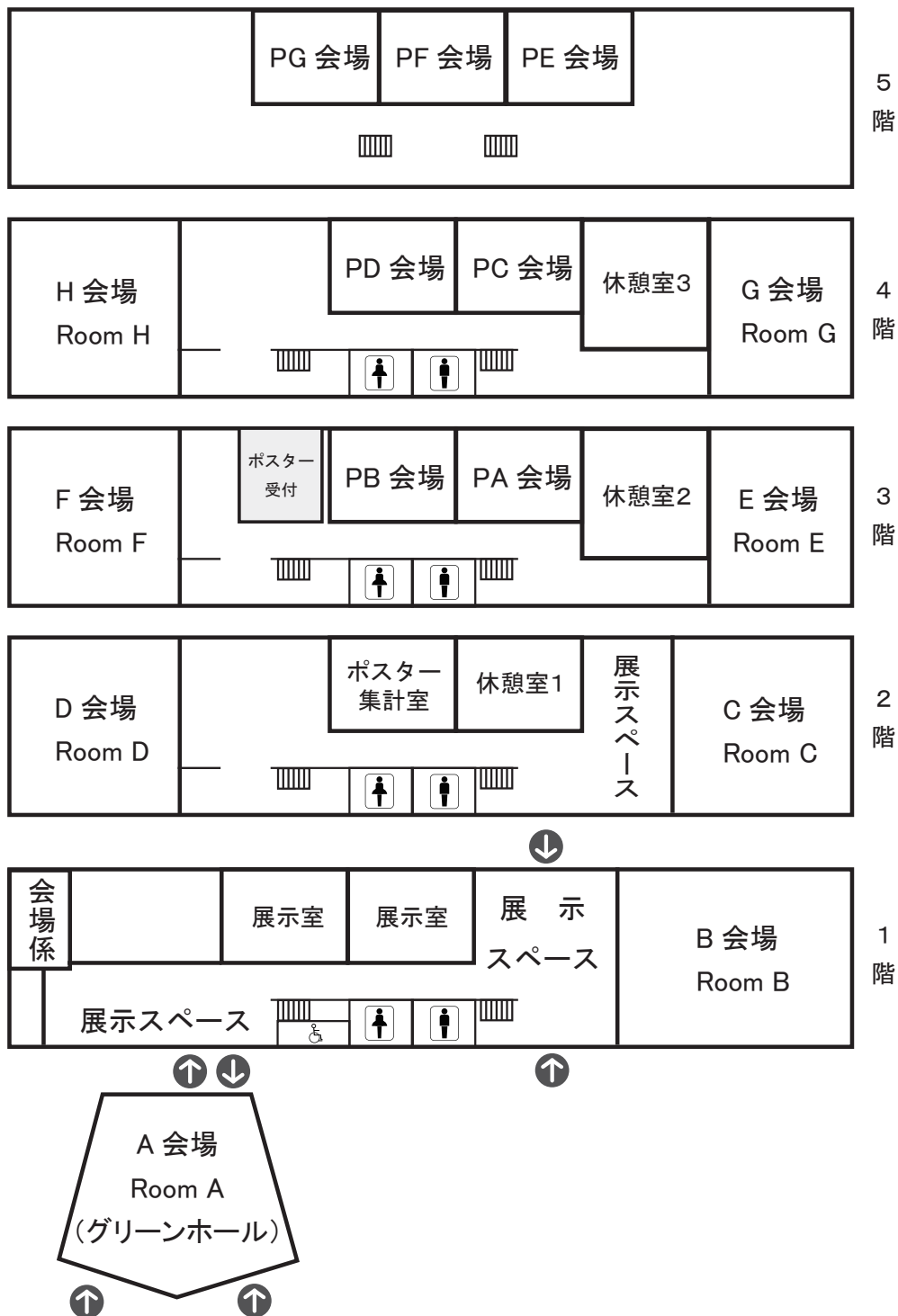
伊予鉄道市内電車 (路面電車) 環状線

鉄砲町

図中番号	建物名	会場
①	共通教育講義棟 グリーンホール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口頭発表, シンポジウム, 自由集会会場 : Room A-H 会場 ・ 第1ポスター会場 : PA-PG 会場
②	総合情報メディアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2ポスター会場 : PH-PP 会場 ・ 自然保護専門委員会特別展示 ・ ポスター賞受賞者展示
③	法文学部2号館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由集会会場 : Room I-K 会場 ・ 委員会室 : 1-4 ・ 受付 (Registration Counter) ・ 本部 (Headquarter of Committee)
④	大学会館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 託児室

① 共通教育講義棟・グリーンホール

- ・ 口頭発表会場，シンポジウム，自由集会会場：A-H 会場
- ・ 第1ポスター会場：PA-PG 会場



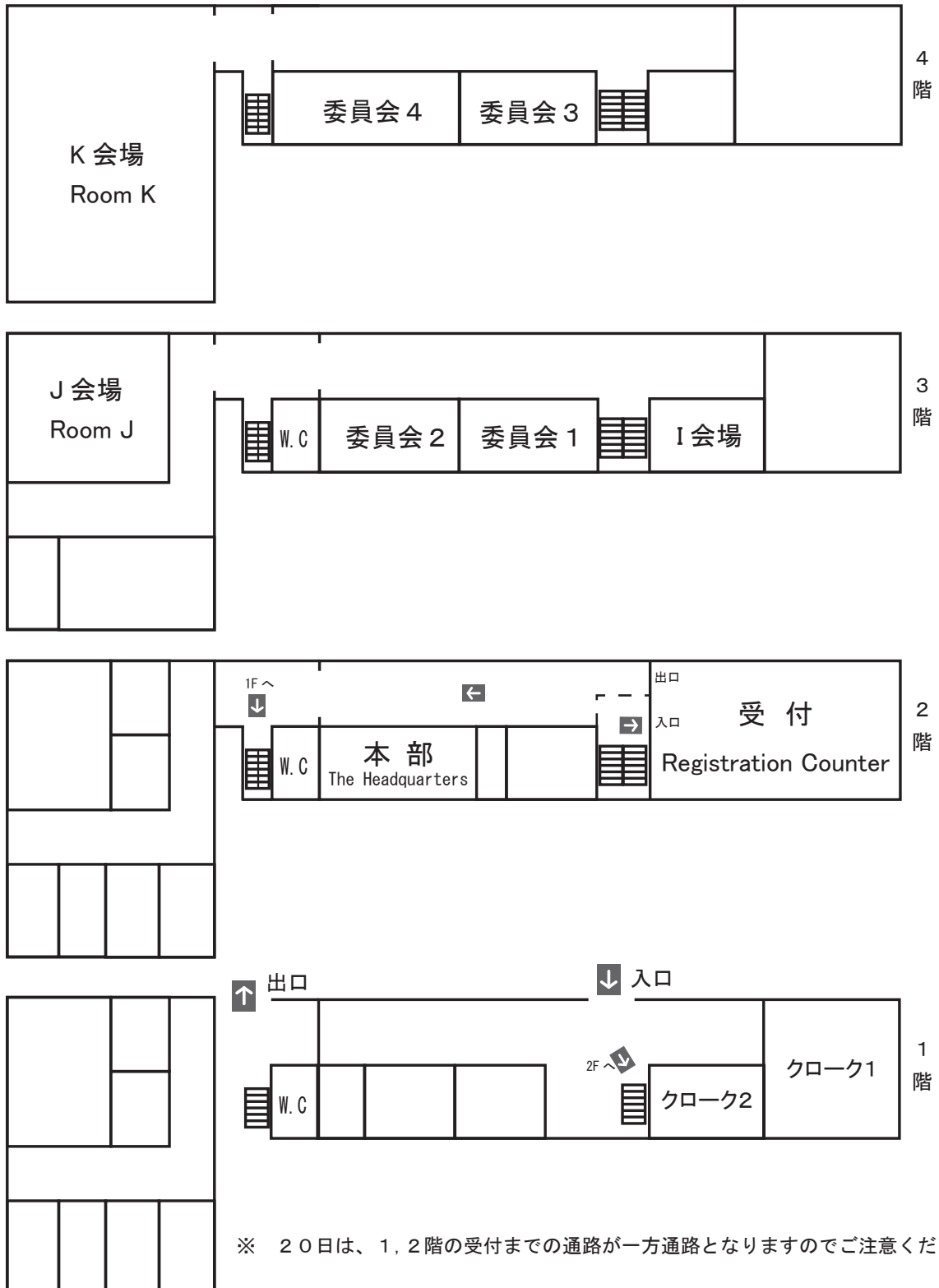
② 総合情報メディアセンター

・ 第2ポスター会場 : PH, PP 会場



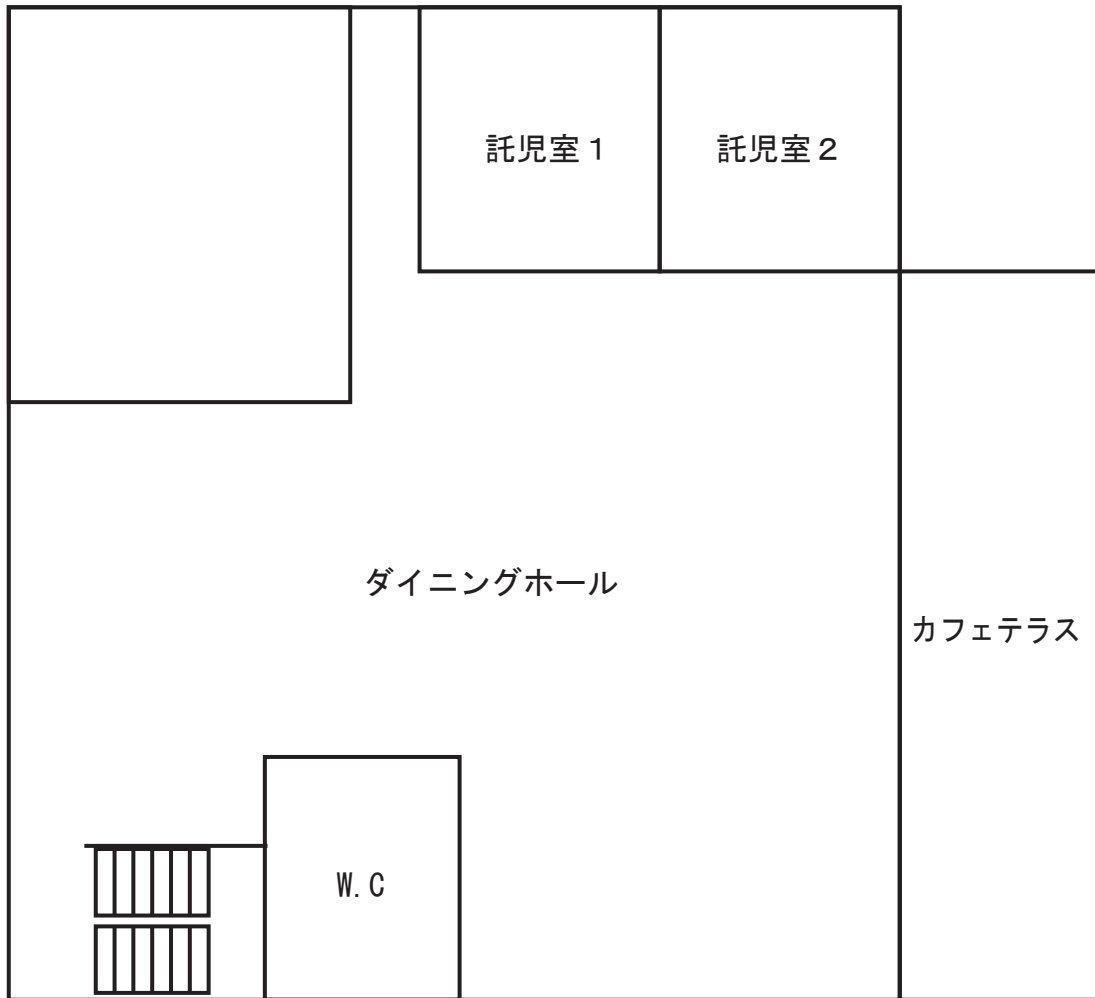
③ 法文学部2号館

- ・ 自由集会会場 : I, J, K 会場
- ・ 委員会室 : 1-4

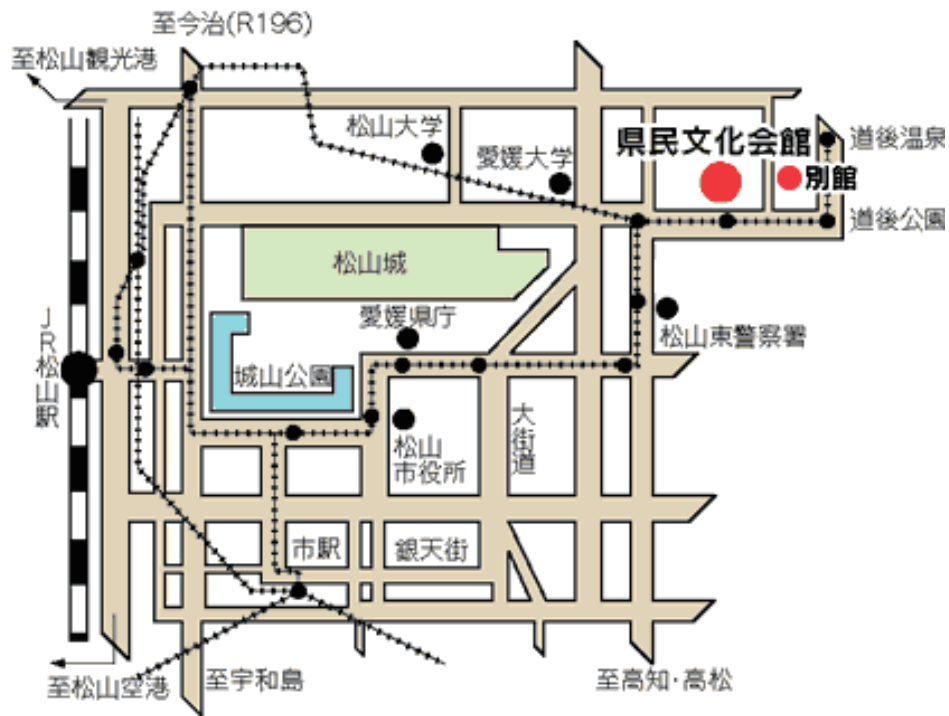


④ 大学会館2階

- ・ 託児室 1, 2



2階



■ 懇親会場 愛媛県県民文化会館（真珠の間）

松山市道後町2丁目5番1号 TEL (089)923-5111

愛媛大学から徒歩にて約10分

大会日程一覧表

3/19(MON) ① 共通教育講義棟 グリーンホール ③ 法文学部2号館

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
③	3F 委員会1				大規模長期		保全誌						
	3F 委員会2	外来種		自然保護		生態誌							
	4F 委員会3	将来計画					生態学教育						
	4F 委員会4	生態系管理					Ecological Research		全国委員会				
①	1F Room A										W01 群集と生態系		
	1F Room B										W02 外来植物の侵入影響		
	2F Room C										W03 地域生態系の合意形成		
	2F Room D										W04 生態的種分化		
	3F Room E										W05 外来マルハナバチ		
	3F Room F										W06 化学物質生態リスク		
	4F Room G										W07 マルチスケール		
	4F Room H										W08 小笠原自由集会		
③	3F Room I						大会企画				W09 新今西・新総合説へ		
	3F Room J										W10 陸域生態系とリン		
	4F Room K										W11 湿地構造と生物多様性		

大会日程一覧表

3/20(TUE) ① 共通教育講義棟 グリーンホール ② 総合情報メディアセンター ③ 法文学部2号館

			9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	1F	Room A	S01 微生物群集の不均一性						保全 (1)			W12 ベイズ統計データ解析		
	1F	Room B	S02 花粉一粒分析						植物生理生態 (1)			W13 群集生態と適応		
	2F	Room C	S03 生態系ネットワーク						生態系管理			W14 氾濫原の自然再生		
	2F	Room D	S04 生態学と政治・司法						群落	物質循環		W15 DNAバーコード		
	3F	Room E							英語 [English] (1)			W16 蜂合わせ		
	3F	Room F							行動	動物生活史		W17 生物の空間分布		
	4F	Room G							景観生態	遷移・更新		W18 物質分配の生理生態学		
	4F	Room H							動物群集			W19 特定外来生物防除		
③	3F	Room I										W20 竹林拡大・影響		
	3F	Room J										W21 ジャンボタニシ問題		
ポスター会場 ①②						ポスター								

3/21(WED) ① 共通教育講義棟 グリーンホール ② 総合情報メディアセンター ③ 法文学部2号館

			9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	1F	Room A	受賞講演・総会						T01 Stoichiometry and community dynamics			懇親会 愛媛県 県民文化会館 真珠の間		
	1F	Room B							S05 気候変動と熱帯林					
	2F	Room C							S06 希少樹種保全					
	2F	Room D							S07 ベントスの生活史					
	3F	Room E							S08 山地地形の扱い方					
	3F	Room F							S09 流域の保全					
	4F	Room G												
	4F	Room H							S10 生態系の評価手法					
③	3F	Room I												
	3F	Room J												
ポスター会場 ①②						ポスター								

大会日程一覧表

3/22(THU) ① 共通教育講義棟 グリーンホール ② 総合情報メディアセンター ③ 法文学部2号館

			9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	1F	Room A	T02 LTERとデータベース						保全 (2)			W22 博物館の生態学		
	1F	Room B	S11 遺伝子流動と集団維持						植物生理生態 (2)	植物個体群	W23 数理生態学のゆくえ			
	2F	Room C	S12 観測からモデリングへ						外来種			W24 生物の時間空間変動		
	2F	Room D	S13 チョウ類の保全						植物繁殖			W25 外来淡水産無脊椎動物		
	3F	Room E							英語 [English] (2)			W26 樹木の形作りと繁殖		
	3F	Room F	S14 京都盆地の景観復元						進化	数理	W27 侵入寄生生物			
	4F	Room G							種多様性	分子	W28 群落談話会			
	4F	Room H							動物個体群			W29 街に出よ！4		
③	3F	Room I										W30 亜熱帯林の保全		
	3F	Room J										W31 メイフェス		
ポスター会場 ①②						ポスター								

別会場 サテライト集会 種子散布研究会・フェノロジー研究会 (19:30-22:00)

3/23(FRI) ① 共通教育講義棟 グリーンホール

			9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	1F	Room A	公開講演会											

別会場 サテライト集会 アグロエコロジー研究会区 (23日~24日) 要予約

口頭発表 3月20日(火) (Oral Presentation, 20 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room A 保全 (1)	Room B 植物生理生態 (1)	Room C 生態系管理	Room D 群落
14:00	A1-01 用排兼用型水路ー水田間の魚類の移動について *皆川明子, 千賀裕太郎 (東京農工大学)	B1-01 温度・CO2濃度勾配型ビニールハウス内で育てた照葉樹と夏緑樹の生理生態 *宇佐美哲之(産総研), 及川武久(筑波大)	C1-01 枝葉の食痕からエゾシカの生息密度を予測する *明石信廣, 南野一博(北海道林試)	D1-01 インベントリーデータに基づく東アジア森林の現存量と生産量の把握 *清野達之(筑波大・生命環境), 松浦陽次郎(森林総研), 梶本卓也(森林総研・九州), 新山馨(森林総研), 山形与志樹(国立環境研)
14:15	A1-02 遺伝マーカーを用いた農業水路に生息するドジョウの個体群構造の推定ー多摩川流域を事例としてー *西田一也, 佐藤俊幸, 千賀裕太郎, 小原嘉明(東京農工大学)	B1-02 高CO2濃度環境下での冷温帯樹木シュートの蒸散と通水構造の変化 *江口則和(北大院農), 森井紀子(北大院農), 上田龍四郎(北海道ダルトン), 高木健太郎(北大生物圏セ), 船田良(農工大農), 日浦勉(北大生物圏セ), 笹賀一郎(北大生物圏セ), 小池孝良(北大院農学研究院)	C1-02 生きものの生息場所としての畑管理 *藤田正雄(自然農法セ・農試)・藤山静雄(信大・理)	D1-02 全国の農業水利施設およびその周辺環境に生育する植物の分布傾向の把握 *徳岡良則, 楠本良延, 山本勝利
14:30	A1-03 石狩川におけるカワヤツメ幼生の生息環境と摂餌生態 *柳井清治, 河内香織, 白川北斗(北海道工業大学), 笠原昇(北海道立水産孵化場)	B1-03 葉内CO2濃度に対する気孔コンダクタンスの応答 *鎌倉真依(奈良女子大・院・人間文化), 古川昭雄(奈良女子大・共生科学研究センター)	C1-03 除草剤と殺虫剤散布が農耕地の土壌棲息性昆虫の発生量に及ぼす影響 *白井洋一, 中谷至伸(農環研)	D1-03 植物社会学と民族生物学の手法を用いた植物群落の総合評価 *矢ヶ崎朋樹(国際生態学センター), 鈴木邦雄(横浜国大・院・環境情報), 武井幸久(福井工業高等専門学校), 平泉直美
14:45	A1-04 メタ群集の観点に立った干潟ベントス群集の保全 玉置昭夫(長崎大・水産)	B1-04 木本ツル植物3種の熱帯林々冠における光合成速度の日変化 *古川昭雄, Aichen Tay, Ahmad Makmom Abdulah, Muhamad Awang	C1-04 善光寺用水改修に併せたゲンジボタル保護策への一考察について *甲斐貴光(長野県長野地方事務所)	D1-04 日光戦場ヶ原湿原の25年間の植生変化 *奈良遥, 福嶋司, 吉川正人(東京農工大学)
15:00	A1-05 徳島県阿南市大瀧町人工干潟におけるシオマネキの現状と保全 *佐々木由実, 大田直友, 橋本温, 加藤研二(阿南高専専攻科・構造設計工学専攻), 石居玄, 佐古直樹(阿南市土木課), 飯山直樹(株式会社エコー建設コンサルタント)	B1-05 熱帯樹種ドリアン(Durio zibethinus Murray)の果実成長と果軸断面積との関係 *小川一治(名大・生命農学), A.M. Abdullah, M. Awang (UPM), 古川昭雄(奈良女・共生センター)	C1-05 地下工事による土壌水分の変化が植物へ及ぼす影響 *大西智佳(岡山大・院・環境学), 西垣誠(岡山大・環境学)	D1-05 戦場ヶ原の土砂堆積地に成立するズミ林の年輪解析からみた発達過程 *谷川敦子, 福嶋司, 吉川正人(東京農工大学院)

口頭発表 3月20日(火) (Oral Presentation, 20 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room E	Room F	Room G	Room H
	英語 [English] (1)	行動	景観生態	動物群集
14:00	E1-01 Variation in vertebral number in freshwater eels, genus <i>Anguilla</i> (Teleostei: Anguillidae): A legacy of life history, migration, and selection *S WATANABE, A SHINODA, J AOYAMA and K TSUKAMOTO (Ocean Research Institute, The University of Tokyo)	F1-01 ヤナギルリハムシにおける新葉への選好性と高いパフォーマンス *久保陽子(大阪府大院・理), 松岡美智子(大阪女大・理), 石原道博(大阪府大院・理)	G1-01 環境に配慮した道路づくり *中越信和(広島大・院・国際協力), 山田守(広島大・院・国際協力), 堀江直樹(日特建設・技術本部), 田中淳(日特建設・技術本部)	H1-01 熱帯雨林におけるアリ-半翅目-植物相互作用系 ~森林ギャップの効果~ *半田千尋, 市岡孝朗(京都大学 人間・環境学研究所)
14:15	E1-02 Optimal host behavior toward avian brood parasites *Takasu F (Nara Women's Univ), Stokke B, Moksnes A, Roskaft E (NTNU, Norway)	F1-02 カワトンボ属2種で異なるなわばり環境選好性と繁殖行動との関係 *鮫島由佳(京大・生態研センター), 椿宜高(京大・生態研センター)	G1-02 陸域と海をつなぐ地下水のはたらきと沿岸域の景観区分 菊池亜希良(広島大・院・国際協力)	H1-02 ヤナギの補償成長が節足動物群集の共存を促進する *内海俊介(京大・生態研セ), 中村誠宏(北大苫小牧), 大串隆之(京大・生態研セ)
14:30	E1-03 Impacts of snake predation on thermal biology of prey lizard Masami Hasegawa (Toho univ)	F1-03 行動特性が異なる寄主に対するアオムシコマユバチによる操作様式の比較 *田中晋吾, 大崎直太	G1-03 徳島県における湿生絶滅危惧植物の潜在的生育域類型と環境特性 *原田悦子(徳島大院・工学研究科), 小川誠(徳島県立博物館), 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館), 鎌田(徳島大学)	H1-03 林冠木個体全体への強い食害に対する植物形質と昆虫群集の応答 *小暮慎一郎(北大・低温研), 中村誠宏(北大・苫小牧研究林), 日浦勉(北大・苫小牧研究林), 戸田正憲(北大・低温研)
14:45	E1-04 Population genetics of adaptive speciation: Oligomorphic dynamics *Akira Sasaki (Kyushu Univ.) and Ulf Dieckmann (IIASA, Austria)	F1-04 適応的な分断色: 微小生息場所に依存した効果 *鶴井香織, 本間淳, 西田隆義(京大院農・昆虫生態)	G1-04 釧路湿原におけるハンノキ林の空間分布とその成因に関する研究 *中谷曜子(北大・院・農), 富士田裕子(北大植物園), 金子正美(酪農学園大)	H1-04 地球温暖化が北方森林生態系に与える影響: 電熱線を用いた野外操作実験 *中村誠宏, 日浦勉(北大・苫小牧)
15:00	E1-05 Can vertical transmission within the vector population facilitate persistence of dengue virus? Insights from a mathematical model. *Ben Adams (Kyushu University)	F1-05 感潮域に生息するメダカの生態 *佐藤晋太郎(弘前大学), 佐原雄二(弘前大学)	G1-05 航空写真を用いた半世紀にわたる里山林変動抽出 *小熊宏之(環境研)	H1-05 炭素・窒素安定同位体比からみたトビムシの食性解析 *菱拓雄(京大院・農), 兵藤不二夫(総合地球環境学研究所), 斎藤星耕, 武田博清(京大院・農)

口頭発表 3月20日(火) (Oral Presentation, 20 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room A 保全 (1)	Room B 植物生理生態 (1)	Room C 生態系管理	Room D 群落
15:15	A1-06 干潟の渡り鳥は減っているのか？－汐川干潟28年間の調査か－ *藤岡エリ子(汐川干潟を守る会), 木村妙子(三重大・生物資源)	B1-06 葉の表皮と葉肉組織の力学的役割 一新測定法の紹介と応用例－ *小野田雄介(コトレヒト大), Feike Schieving(コトレヒト大), Niels PR Anten(コトレヒト大)	C1-06 モウソウチク群落の表層土壌の水湿特性 *鳥居厚志(森林総研四国), 篠宮佳樹(森林総研四国)	D1-06 ポルネオ島の熱帯ヒース林の植生と土壌特性 高橋克明(京大・理)
15:30	A1-07 アオウミガメの産卵場所選択と保全対策 *立川賢一(流域総合研究会), Charuchinda, M. Mananunsap, S. (EMCOR, Thailand), 松田裕之(横浜国大・環境情報)	B1-07 葉群エルゴード仮説一個葉から群落光合成へ *菊沢喜八郎(石川県大), 八木誠, 大首雄司(京大生態研センター), 梅木清(千葉大園芸)	C1-07 過剰な栄養塩負荷が河川の水生植物群集に与えた影響 *片桐浩司(北大院・農((株)セ・プラン)), 矢部和夫(札幌市立大・デザイン), 中村太士(北大院・農), 櫻井善文((株)ドーコン)	D1-07 枯死有機物のバリエーションが森林の分解過程に与える影響 *上村真由子(神戸大), 檀浦正子(神戸大), 金澤洋一(神戸大), 小南裕志(森林総研関西)
15:45	A1-08 芦別山塊におけるナキウサギの生息地分布とその保全について 小島望(川口短大)	B1-08 シラカンバのシュート直径を決定する要因 *梅木清(千葉大・自然科学), 隅田明洋(北大・低温), 清野達之(筑波大・生命環境科学), 林恩美(千葉大・自然科学), 本條毅(千葉大・園芸)	C1-08 20世紀における中海生態系の突発的な富栄養化 *宮本康(鳥取県衛環研), 山田和芳,(島根大・汽水研), 香月興太(島根大・汽水研), 高田裕行(島根大・汽水研), 中山大介(島根大・汽水研), 山口啓子(島根大・生物資源), Hugo Coops(RIZA), 國井秀伸(島根大・汽水研)	D1-08 タイ北部の熱帯季節林におけるShorea obtusa落葉の分解過程 *大園享司, 武田博清(京大・農・森林生態), Dusit Seramethakun (Naresuan University Phayao Campus, Thailand)
16:00	A1-09 奄美大島におけるアマミノクロウサギの生息域の後退: エコロジカルトラップ概念は当てはまるか? *杉村乾(森林総研), 小高信彦(森林総研・九州)	B1-09 東シベリアのカラマツ老齢個体における短枝の長枝化現象 *城田徹央(北大低温研), 斎藤秀之(北大農), 福田正己(北大低温研), T. C. Maximov(シベリア凍土域生物研)	C1-09 マコモの生育基盤およびハクチョウの摂食がマコモの成長に与える影響 *岩淵藍子, 中野和典, 千葉信男, 野村宗弘, 西村修(東北大院, 土木)	D1-09 土壌呼吸による温暖化影響の評価 *梁乃申(国環研), 藤沼康実(国環研)

物質循環

口頭発表 3月20日(火) (Oral Presentation, 20 March, Tuesday Afternoon)

	Room E 英語 [English] (1)	Room F 行動	Room G 景観生態	Room H 動物群集
15:15	E1-06 Effect of heron breeding colony disappearance from forest canopy on the species diversity and biomass of understory plants *Ueno, Y. (Hokkaido Univ.), Hori, M. (Fisheries Research Agency), Noda, T. (Hokkaido Univ.)	F1-06 何故、分散前に交尾するのか? 廣田忠雄 (山形大・理・生物)	G1-06 メタ群集としての照葉樹林と非繁殖種の寄与 *小池文人(横浜国立大学), 鈴木誠(東京大学)	H1-06 適応的食物網の食物連鎖長 *二宮邦彦, 近藤倫生(龍谷大・理工)
遷移・更新				
15:30	E1-07 Allocation pattern that enables <i>Schima wallichii</i> to resprout - From a clipping experiment- *Hara, M., Kanzaki, M. (Kyoto Univ.), Kiyono, Y. (FFPRI), Ohta, S. (Kyoto Univ.), Hardjono, A., Rachmat, W. (PT MHP)	F1-07 ラジオテレメトリーを用いたトウキョウダルマガエルの移動追跡 *戸金大(明治大・農学), 福山欣司(慶應大・生物), 倉本宣(明治大・農学)	G1-07 極被陰下に生育するニセアカシア萌芽枝の葉寿命 *真坂一彦(北海道林試), 山田健四(北海道林試)	H1-07 群集ネットワークにおけるネスト構造 *坂戸克匡, 近藤倫生(龍谷大・理工)
動物生活史				
15:45	E1-08 Development of stand structure in larch forests that grow on permafrost *Osawa, A. (Kyoto Univ.), Kajimoto, T. (Forestry & For. Prod. Res. Inst.), Matsuura, Y. (Forestry & For. Prod. Res. Inst.), Hirobe, M. (Okayama Univ.), Miyaura, T. (Ryukoku Univ.), Zyryanova, O.A. (Sukachev Inst. Forest)	F1-08 ナガエノスギタケの発生に基づく本州中部でのモグラの営巣生態 *中井真理子(富山大・理), 横畑泰志(富山大・理), 橋屋 誠(富山県立中央植物園), 相良直彦(元京都大院・人間・環境学)	G1-08 富士山亜高山帯雪崩跡地における植生回復とパイオニアプラントの機能 *南佳典(玉川大・農)・渡辺功(日比谷花壇)	H1-08 肉食性水生昆虫の野菜生活 1. 機構 *宮坂仁, 加藤元海(愛媛大・沿岸)
16:00	E1-09 Collective deforestation induced by social learning under uncertainty of forest-use value *Satake, A. (Princeton Univ.), Janssen, M.A. (Arizona State Univ.), Levin, S.A. (Princeton Univ.), Iwasa, Y. (Kyusyu Univ.)	F1-09 安定同位体を用いたジュゴンの採食海草種の分析 *池田和子(自然環境研究センター), 三原正三(九大・比文), 米田政明(自然環境研究センター), 小池裕子(九大・比文)	G1-09 岩手山北東面における亜高山帯植生の分布と成立過程: 火山噴火にともなう土石流の影響 *山口健太(横国大・院・環境情報), 杉田久志(森林総研・東北), 土井宣夫(岩手県・総合防災室), 大野啓一(横国大・院・環境情報)	H1-09 肉食性水生昆虫の野菜生活 2. 共存 *加藤元海, 宮坂仁(愛媛大・沿岸センター)

口頭発表 3月20日(火)(Oral Presentation, 20 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room A 保全(1)	Room B 植物生理生態(1)	Room C 生態系管理	Room D 物質循環
16:15	A1-10 大気CO2濃度の増加による海洋酸性化が生物に与える影響 *栗原晴子, 加藤庄司, 松井正明, 石松惇(長崎大学・海セ)	B1-10 生育段階の異なる胡楊の形態が異なる葉の生理生態学的特性 *門田有佳子(岡山大院), 三木直子(岡山大院), 吉川賢(岡山大院)	C1-10 釧路湿原達古武沼における底生動物の分布と分布決定要因 *高村典子, 上野隆平, 中川恵(国環研), 伊藤富子, 大高明史, 桑原康裕, 蛭田眞一, 若菜勇, 上野洋一, 仲島広嗣	D1-10 根を含む樹木個体呼吸のユニバーサルスケーリング 森茂太(森林総研東北)
16:30		B1-11 モンゴル半乾燥地における優占種Caragana microphyllaの展葉の降雨への同調 *山田義裕(岡大・環境学研究科), 吉川賢(岡大・環境学研究科), 高山晴夫(鹿島建設株式会社技術研究所), 三木直子(岡大・環境学研究科)	C1-11 伊勢湾櫛田川河口デルタの生態系構造 *野原精一, 井上智美, 樋渡武彦, 木幡邦男(国立環境研究所)	D1-11 琵琶湖北湖沖合における溶存酸素動態-酸素安定同位体比を用いて *陀安一郎(京大・生態研セ), 由水千景(JST), KIM Chulgoo, 槇洗, 西村洋子(京大・生態研セ), 後藤直成(滋賀県大・環境科学), 永田俊(京大・生態研セ)
16:45		B1-12 クワ科植物の多様な乳液成分が被食防衛に果たす役割 *今野浩太郎(農業生物資源研), 小野裕嗣(食総研), 中村匡利, 立石剣, 和佐野直也, 平山力, 田村泰盛, 服部誠, 小山朗夫(農業生物資源研), 河野勝行(国研センター沖縄・現野茶研)	C1-12 エクセルギーに基づく河川生態環境評価法の開発 赤松良久(琉球大・工)	D1-12 炭素・窒素安定同位体比による西シベリア・チャニー湖魚類群集の食物網解析 *金谷弦(東北大・東北アジア研究セ), Elena N Yadrenkina, Elena I Zuykova(ロシア科学アカデミー・シベリア支部), 菊地永祐, 鹿野秀一(東北大・東北アジア研究セ), 溝田智俊(岩手大・農), 土居秀幸(Univ. of Washington), Nataliya I Yurlova(ロシア科学アカデミー・シベリア支部)
17:00			C1-13 個体群動態モデルを用いた地域別管理の提案 *太田碧海(横国大院), 松田裕之(横国大院), 立澤史郎(北大), 高橋裕史(森林総研), 常田邦彦(自然研)	D1-13 都市~山地の森林における鳥類排泄物の安定同位体比を用いた食性解析 *藤田素子, 小池文人(横浜国大院・環境情報)
17:15			C1-14 社会動態と生態動態のカップリング:湖の水質管理を例に *巖佐庸, 鈴木ゆかり(九大・理・生物), 横溝裕行(横国大)	

口頭発表 3月20日(火) (Oral Presentation, 20 March, Tuesday Afternoon)

Time	Room E	Room F	Room G	Room H
	英語 [English] (1)	動物生活史	遷移・更新	動物群集
16:15	E1-10 Information behind the seasonal variation in nitrate discharge from forested ecosystems *Ohte, N. (Univ. Tokyo), Fujimoto, M. and Mimasu, Y. (Kyoto Univ.)	F1-10 安定同位体比を用いた沿岸魚類の回遊パターン推定 *福森香代子 (愛媛大・沿岸), 奥田昇 (京大・生態研), 柳沢康信 (愛媛大・理), 山岡耕作 (高知大院・黒潮圏)	G1-10 カナダ東部で発生した記録的な ice storm はブナ・カエデ林の更新にどのように影響したのか? *高橋耕一 (信州大・理), Arii, K., Lechowicz, M.J. (McGill Univ.)	H1-10 諏訪湖における魚類群集動態 *小関右介, 原田祐子, 箱山洋 (中央水研)
16:30	E1-11 Cultural landscape component in maritime and islands of Korea *Sun-Kee Hong, Yoon-Seon Lee (Mokpo National Univ., Korea)	F1-11 マイクロサテライトによるヒメサスライアリのコロニー数推定 松本崇 (京大・人環), 市岡孝朗 (京大・人環), 濱口京子 (森林総研), 山根正気 (鹿児島大・理)	G1-11 斜面スケールの草原-森林移行帯モデル *石井励一郎 (地球環境フロンティア研究センター), 鈴木力英 (地球環境フロンティア研究センター), Dennis Dye (地球環境フロンティア研究センター)	H1-11 The effects of hermit crabs on calcareous alga *Miyoko Kurimoto, Mutsunori Tokeshi (Kyushu univ. AMBL)
16:45	E1-12 GIS for Water Quality Using Advance Ion Chromatography *Nguyen Thi Minh Nguyet (IDEC, Hiroshima Univerisity), Prof. TANAKA Kazuhiko (IDEC, Hiroshima Univerisity)	F1-12 ウラナミジャノメにみられる特異な化性の地理的変異 *鈴木紀之, 西田隆義 (京大農・昆虫生態)		H1-12 和歌川河口干潟におけるヤドカリ類3種の分布 谷口浩一, *古賀庸憲 (和歌山大・教育)
17:00		F1-13 ゴール形成ハバチにおける長いシュートへの産卵選好性-落葉による死亡の回避戦略 *井関高平, 石原道博		
17:15				

口頭発表 3月22日(木)(Oral Presentation, 22 March, Thursday Afternoon)

Time	Room A 保全 (2)	Room B 植物生理生態 (2)	Room C 外来種	Room D 植物繁殖
14:00	A3-01 環境要因がフナ の活動余地量に及ぼす影響: 生息場所環境評価への基 礎研究 *山中裕樹(京 大・生態研), 神松幸弘 (地球研), 遊磨正秀(龍谷 大・理工)	B3-01 広葉樹10種の葉の 水分生理特性 *三好林 太郎, 岡田直紀(京都大 学農学研究科)	C3-01 淀川におけるブル ーギルの食性 *内藤馨, 平松和也(大阪府水生生 物センタ -)	D3-01 ブナヒメシクイの 食害に適応したブナ種子の 発達経過 *鎌田直人(東 大演習林), 小谷二郎(石 川林試), 澤田晴雄(東大 演習林)
14:15	A3-02 サンゴ礁沿岸浅場 の微小景観構造とカクレク マノミの生息地評価 *服 部昭尚(滋賀大・教育・ 理数情報)	B3-02 常緑および落葉広 葉樹の道管形成とフェノロ ジーの関係 *高橋さや か, 岡田直紀(京大農)	C3-02 人工音響によるブ ルーギルの採餌抑制 *米倉竜次, 大原健一, 望 月聖子, 斉藤薫(岐阜県 河川研), 片野修(中央 水研)	D3-02 個々のトチノキ種子 に含まれる二次代謝物質 エスシンの定量と、アカネ ズミによる選択的な摂食 *山元得江(秋田県立大・ 生資), 星崎和彦(秋田 県立大・生資), 吉澤結 子(秋田県立大・生資), 木村靖夫(鳥取大・農), 小林一三(秋田県立大・ 生資)
14:30	A3-03 中国図門江下流区 域の湿地保存価値評価 *Wei-Hong Zhu1), Vinh Nan1) Junichi Imanishi2) Yukihiro Morimoto2) 1) Department of Geography, Yanbian University, China 2) Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University, Japan	B3-03 標高の異なる湿原 における多年生草本の窒 素獲得競争と窒素利用 *及川真平、神山千穂、彦 坂幸毅(東北大・院・生 命)	C3-03 多摩川に侵入した フロリダマミズヨコエビの微 生息環境および消長 *金田彰二(日本工学院環 境), 倉西良一(千葉県立 中央博), 佐竹潔(国環 研), 石綿進一(神奈川県 環境科学センター), 清水 高男(淡水ベントス研), 平良裕之(生物科学研)	D3-03 野生ドリアンの更新 にオランウータンが与える 影響 *中島啓裕, 北山兼 弘(京大生態研セン ター)
14:45	A3-04 釧路湿原における 北海道開発局の広域湛水 実験跡地の植生遷移 *富士田裕子(北大植物 園)	B3-04 降雨に含まれる窒 素が樹木実生の成長・競争 関係に与える影響、および 鋸屑による窒素負荷緩和 の検討 *酒井暁子, 藤 巻玲路, 金子信博(横国 大・環境情報)	C3-04 小笠原諸島におけ るグリーンアノール防除の 方針と効率的な捕獲方法 *戸田光彦, 中川直美, 鶴 柄直純(自然環境研究セ ンター)	D3-04 フタバガキ科 <i>Shorea laxa</i> の繁殖・更新過 程と断片林化の影響 * 竹内やよい(総合地球環 境学研究所), 中川弥智子 (名古屋大・生命農学), 中静透(東北大・生命科 学)
15:00	A3-05 土壌シードバンクを 用いた湖岸植生の再生:5 年間の変化 *西廣淳, 西 口有紀, 西廣(安島)美 穂, 鷲谷いづみ	B3-05 タイ熱帯季節林に おける炭素同位体を用いた 成長輪の検出 *大橋伸 太, 岡田直紀(京都大学 農学研究科)	C3-05 昆虫類の侵入と進 化的重要単位 *五箇公 一, 米田昌浩(国立環境 研), 岡部貴美子(森総 研), 後藤哲雄(茨城大・ 農)	D3-05 開花密度の違いが 熱帯高木 <i>Shorea acuminata</i> (フタバガキ科) の交配パターンに与える影 響 *内藤洋子, 神崎護 (京大・院・農), 大林恭 子(東北大・院・農), Lee, S.L., Norwati, M(FRIM), 奥田敏統(広島 大・院・総合科学), 津村 義彦(森林総研)

口頭発表 3月22日(木)(Oral Presentation, 22 March, Thursday Afternoon)

Time	Room E	Room F	Room G	Room H
	英語 [English] (2)	進化	種多様性	動物個体群
14:00	E3-01 Mathematical study on microbial cometabolism *Nakaoka S. (Shizuoka Univ), Takeuchi Y. (Shizuoka Univ.)	F3-01 カタクリはどちらを向いて咲くの? *丑丸敦史 (神戸大), 川瀬大樹 (京大), 今村彰生 (京都学園大)	G3-01 孤立したミズナラ巨木樹幹に飛来する甲虫相一周辺カラマツ林との比較一 大澤正嗣 (山梨県森林総合研究所)	H3-01 ミズナラ堅果の豊凶にもとづくアカネズミ個体群の動態予測 * 齊藤隆 (北大FSC), J. O. Vik, N. C. Stenseth (オスロ大), 鷹西俊和, 早柏慎太郎, 大森正明, 森田俊雄, 植村滋, 前川光司 (北大FSC)
14:15	E3-02 Species abundance patterns in a general community model *Kei Tokita (Osaka University), Tobias Galla (ICTP, Italy)	F3-02 インドー太平洋の栽培共生 畑啓生 (京大・理)	G3-02 吉野川河口干潟における底生成物の分布特性 赤松伸祐 (徳島大学)	H3-02 エゾシカの爆発的增加:2地域の比較 *梶光一 (東京農工大・農), 高橋裕史 (森林総研・関西), 岡田秀明 (知床財団), 小平真佐夫 (知床財団), 山中正実 (知床財団)
14:30	E3-03 Relationship between body size and density: species level or individual level? *Takafushi, T (Kyushu Univ.), Tokeshi, M. (Kyushu Univ.)	F3-03 スギの一耐病性重複遺伝子の集団遺伝学的解析 *萬歳明香, 田村美帆, 佐々木学美 (九大・理・生物), 二村典宏, 篠原健司, 津村義彦 (森林総合研究所), 楠見淳子, 館田英典 (九大・理・生物)	G3-03 植物プランクトンにおける富栄養化のパラドックス *吉村仁, 泰中啓一 (静大創造院), 宮崎龍雄, 富樫辰也, 向坂幸雄 (千葉大海洋バイオ), 中桐斉之 (兵庫県立大環境)	H3-03 食物環境の年次変動が競争を介してニホンザルの個体群パラメータに及ぼす影響 *辻大和 (東大・院農), 高槻成紀 (東大・博物館)
14:45	E3-04 The effect of geographic distance on similarity of community dynamics in rocky intertidal sessile assemblages *Tsuji no, M. (Hokkaido Univ.), Hori, M. (FEIS, FRA), Nakaoka, M. (Chiba Univ.), Yamamoto T. (Kagoshima Univ.), Noda T. (Hokkaido Univ.)	F3-04 カイヤドリヒドラ類の遺伝的分化 *小林亜玲 (京都大・理), 五箇公一 (国立環境研), 深見裕伸 (京都大・理), 久保田信 (京都大・理)	G3-04 Does complementary resource use enhance ecosystem functioning? A model of light competition in plant communities *Shigeo YACHI (RIHN), Michel LOREAU (McGill University)	H3-04 諏訪湖フナ個体群の動態と生活史:生息地間のネットワークに着目して *箱山洋, 川之辺 素一, 小関右介, 原田祐子
15:00	E3-05 Evaluation of summer heat stress in rocky intertidal communities: Implication on effects of future climate changes *Shiraishi T, Nakaoka M, Kumagai N (Chiba Univ), Hori M (National Research Institute of Fisheries and Environment of Inland Sea), Noda	F3-05 カンモンシロアリのキャスト決定要因 *北出理, 大平しおり, 浅野晶子, 林良信 (茨城大・理)	G3-05 親木による密度依存効果が植物の多種共存に与える効果 *岩田繁英 (静岡大学), 竹内康博 (静岡大学), 今隆助 (九州大学)	H3-05 沖繩本島と慶良間列島におけるサンゴメタ個体群の危機 *酒井一彦, 岩田幸一 (琉球大・熱生研), 向草世香 (長崎大・生産科学)

口頭発表 3月22日(木)(Oral Presentation, 22 March, Thursday Afternoon)

Time	Room A 保全 (2)	Room B 植物個体群	Room C 外来種	Room D 植物繁殖
15:15	A3-06 九州・阿蘇の草原における立地条件および諸管理が植物の種組成に及ぼす効果 小路敦 (九州沖縄農業研究センター)	B3-06 異なる生育地における海草コアマモに関する比較研究 *矢部徹 (国立環境研究所・生物圏), 吉田友彦, 木村賢史 (東海大・海洋), 石井裕一 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター), 桑江朝比呂 (港湾空港技術研究所・海洋水工部)	C3-06 外来生物の防除における重点対策地域の選定～外国産ヒラタクワガタを例に～ *郡麻里, 五箇公一 (国立環境研)	D3-06 タマノカンアオイの種子生産と光環境要因 坂江格 (東京薬科大学大学院生命科学研究科生態学研究室)
15:30	A3-07 重油煤塵の暴露がヤマザクラの生理生態に及ぼす影響 *中根周歩, 馬卓良, 尹朝熙, 田上公一郎 (広島大学・院・生物圏科学)	B3-07 洪水攪乱後の那賀川河口砂州における塩生湿地植物の再侵入 *内八重 (徳島大・院・工), 鎌田 (徳島大・院・工)	C3-07 外来昆虫と外来植物の相互作用に植生が与える影響 *犬塚直寛, 大串隆之 (京大・生態学研究センター)	D3-07 雪解け時期と花の形が、二型花柱性植物の性投資に与える影響 *辻沢央, 酒井聡樹 (東北大・院・生命科学)
15:45	A3-08 維管束植物の絶滅リスク評価—レッドリスト掲載種判定のために— *宗田一男 (横浜国大・院・環境情報), 藤田卓, 矢原徹一 (九大・理), 松田裕之 (横浜国大・院・環境情報)	B3-08 木曾川下流域ケレップ水制周辺に生育するタコノアシ個体群の立地環境 *師井茂倫, 比嘉基紀, 大野啓一 (横浜国立大・院・環境情報)	C3-08 体内寄生性マルハナバチポリプダニの生態と潜在的感染力 *米田昌浩 (国立環境研), 古田春樹, 土田浩治 (岐阜大・応用生物), 岡部貴美子 (森総研), 五箇公一 (国立環境研)	D3-08 花粉媒介者の干渉による閉鎖花率の説明 *西田隆義 (京大農), 高倉耕一 (大阪市環境研), 西田佐知子 (名大博物館)
16:00	A3-09 日本産リュウノヒゲモの遺伝的多様性について *金子有子 (琵琶湖・環境科学研究センター), 浜端悦治 (滋賀県立大学)	B3-09 南九州におけるスダジイとツブラジイおよび雑種の分布パターン 小林悟志 (情・シ研究機構)	C3-09 セイヨウオオマルハナバチがエゾエンゴサクの種子生産に与える影響 *堂園いくみ, 横山潤 (東北大学・院・生命科学)	D3-09 雌雄異株クローナル植物ヤチヤナギの性比とその分布 *井上みずき (京大院・農・森林生物), 石田清 (森林総研・関西)

口頭発表 3月22日(木)(Oral Presentation, 22 March, Thursday Afternoon)

	Room E	Room F	Room G	Room H
Time	英語 [English] (2)	進化	種多様性	動物個体群

15:15	E3-06 The community structure – stability relationship in marine fouling communities studied in field experiments in Tokyo bay *Yamakita, T (Chiba Univ.), Link, H (Heidelberg Univ.), Nakaoka, M (Chiba Univ.), Lenz, M (IFM-GEOMAR), Wahl, M (IFM-GEOMAR)	F3-06 Prey-predator cycle and adaptive change Hiroyuki Matsuda (Yokohama National University)	G3-06 落葉広葉樹実生の成長と生存のトレードオフ関係 清和研二(東北大学 院 農)	H3-06 有明海および八代海における危急種シカメガキの遺伝学的解析 *荒西太士, 飯塚祐輔(宮崎大・農)
--------------	---	---	---	---

数理

15:30	E3-07 Filtration capacity of Unionids: re-evaluation from an ecosystem functioning perspective *JN Negishi (PWRI, Aqua Restoration Research Center), I Katano (PWRI, Aqua Restoration Research Center), Y Kayaba (PWRI, Aqua Restoration Research Center)	F3-07 Lotka-Volterra方程式の定性的パーマネンス Josef Hofbauer (ウィーン大学), *今隆助(九州大学), 齋藤保久(静岡大学)	G3-07 ブナ葉緑体ハプロタイプと適応的形質との関係:ブナ産地試験地のデータ解析の結果から *高橋誠(林育セ), 後藤晋(東京大院・農), 梶幹男, 渡邊敦史(林育セ), 福田陽子(林育セ 北海道)	H3-07 オオタカ個体群の遺伝構造 *高木義栄(森林総研・北海道), 河原孝行(森林総研・北海道), 北村尚士(EFP), 遠藤孝一(オオタカ保護基金), 工藤琢磨(森林総研・北海道)
--------------	---	---	--	---

分子

15:45	E3-08 Metacommunity-level coexistence mechanisms in rocky intertidal sessile assemblage evaluated by microsite analysis *Noda T, Tsujino M(Hokkaido Univ), Yamamoto T(Kagoshima Univ), Hori M(National Research Institute of Fisheries and Environment of Inland	F3-08 個体群生態学の第一原理とその応用 佐藤一憲(静岡大・工)	G3-08 マガキのミトコンドリアDNA調節領域の比較遺伝学的解析 *沖本宜音, 荒西太士(宮崎大・農)	H3-08 アリとアブラムシの両方のマイクロサテライトで追跡する共生関係の季節変化 八尾泉(北大院・理・新自然史)
16:00	F3-09 周期的環境下における分布域拡大:積分差分方程式モデル *川崎廣吉, 重定南奈子(同志社大・文化情報)	G3-09 遺伝的に異なる系統が存在する北海道マイマイガにおける遺伝子流動 *山口博史, 渡辺崇, 塚越英晴, 時下進一, 山形秀夫, 東浦康友(東薬大・生命)	H3-09 ヤナギルリハムシの寄主利用動態:子のパフォーマンスは重要か? *江草佐和子, 西田隆義, 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)	

口頭発表 3月22日(木)(Oral Presentation, 22 March, Thursday Afternoon)

Time	Room A 保全 (2)	Room B 植物個体群	Room C 外来種	Room D 植物繁殖
16:15	A3-10 ブナの遺伝的地域特性に配慮した種苗配布範囲設定に関する分子系統地理学的研究 *菅野学, 陶山佳久(東北大・農), 原正利(千葉中央博), 高橋誠, 渡邊敦史(林木育種センター), 清和研二(東北大・農)	B3-10 隠れた個体群動態:迅速な進化が捕食-被食関係を隠す *吉田丈人(東京大・総合文化), Jones, LE, Ellner, SP, Hairston, NGJr (Cornell Univ)	C3-10 輸入される雑草~外来雑草種子が穀物に混入するプロセスの解明~ *下野嘉子, 小沼明弘(農環研)	D3-10 余剰胚珠の進化を説明する新仮説:受精胚珠間の資源競争を制御する雌親の戦略 *酒井聡樹(東北大生命科学)

16:30

16:45

口頭発表 3月22日(木)(Oral Presentation, 22 March, Thursday Afternoon)

Time	Room E 英語 [English] (2)	Room F 数理	Room G 分子	Room H 動物個体群
16:15		F3-10 ニッチ利用の柔軟性 が変動環境下での多様性を 促進する *山内淳, 三木健 (京都大学・生態研センター)	G3-10 白樺湖におけるカ プトミジノコの系統解析 *渋谷浩之, 小林拓, 時下進 一, (東薬大・生命) 坂本 正樹, 河鎮龍, 花里孝幸, (信州大学産地水環境教 育研究センター) 太田敏 博, 山形秀夫, (東薬大・ 生命)	H3-10 マイマイガ性比異 常雌の10年間の頻度変化 *東浦康友, 山口博史, 五 十嵐章裕, 小野菜々子, 塚越英晴, 時下進一, 山 形秀夫(東薬大・生命), 石原通雄(兵庫医大・生 物)
16:30		F3-11 形質ベース群集モ デルによる生態系影響評 価の試み 田中嘉成(国 立環境研)	G3-11 DNAソースとしての 糞の評価及び種・性判定法 の開発—ロシア極東に生息 するネコ科動物の糞を用い て *杉本太郎(北大・環 境科学), 永田純子(森林 総研), Vladimir Aramilev (ISUNR), Alexander Belozor (ISUNR), 東正剛(北大・ 環境科学), Dale R. McCullough (California Univ.)	H3-11 熱帯と温帯地域の 土壌微生物が地上部生物 の多様性創出に及ぼす影 響 *安田弘法, 俵谷圭 太郎, 村山秀樹, 佐藤 智, 西澤隆, 村山哲也, 豊増知伸, 三浦幸福, 原 広光, 上田紘司, 駒嶺翔 (山形大・農), Suhardi, A. Trisyono, Suputa, Witjaksono, Purnomo (ガジャマダ大 学), E. Purnomo, (ラン ブンマンクラート大)
16:45		F3-12 湖の水質汚染にお けるcatastrophic regime shiftとその抑制 *鈴木ゆ かり(九大・理), 巖佐 庸(九大・理)		

ポスター発表 3月20日(火)10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

動物繁殖

- P1-001** ミゾゴイの繁殖生態 —東京における繁殖事例から— 川名国男 (一般)
- P1-002#** イモゾウムシの交尾行動 *熊野了州 (沖縄病害虫防除セ), 小濱継男 (沖縄農研セ)
- P1-003** 河口干潟におけるマメコブシガニの繁殖生態 小林哲 (佐賀大学農学部)
- P1-004** 高緯度サンゴ群集の放卵放精パターン 野澤洋耕 (黒潮生物研究所)
- P1-005#** ミョウガガイにおける矮雄間の精子競争 *尾崎有紀 (奈良女子大・院・人間文化), 岩口伸一, 遊佐陽一 (奈良女子大・理)
- P1-006#** メスの近親交配回避に対するオスの繁殖戦略 *布施名利子, 粕谷英一 (九大・理・生態)
- P1-007#** スズムシの雌における期待余命に応じた配偶戦略 *栗和田隆, 粕谷英一 (九州大・理・生態)
- P1-008#** 雌の交尾頻度が高い集団の雄は、精子競争能力が高いか? : アズキゾウムシを用いた集団間比較 *川平清香, 桜井玄, 粕谷英一 (九大・理・生態科学)
- P1-009#** 寄主植物の生育環境が、ヒメクロオトシブミの揺籃作成に与える影響 *水町衣里 (京大・農), 小林知里 (京大・人環), 大澤直哉 (京大・農)
- P1-010** 雄への投資が卵を大きくする *大秦正揚, 岸茂樹 (京大院・農・昆虫生態)
- P1-011#** 三重県櫛田川水系産のシロヒレタビラ *Acheilognathus tabira tabira* の産卵母貝種選択とその要因 *前田玄 (大阪教育大・院・教育), 北村淳一 (京大・理), 川細綾子, 長田芳和 (大阪教育大・教員養成)
- P1-012#** 単為生殖能力は性を雌に偏らせるか? *川津一隆 (京大院・農), 松浦健二 (岡大院・環境), 藤崎憲治 (京大院・農)

動物個体群

- P1-013** 酒匂川水系 (神奈川県) におけるヒゲナガカワトビケラ (*Stenopsyche marmorata*) 個体群の遺伝的構造 *林 義雄 (大阪府大院・理), 谷田一三 (大阪府大院・理)
- P1-014#** 沖縄島におけるオキナワコキクガシラコウモリのエコーケーションコールの地域変異と遺伝的分化 *吉野元 (東北大・生命科学), Kyle Armstrong (京大・博), 伊澤雅子 (琉球大・理), 横山潤, 河田雅圭 (東北大・生命科学)
- P1-015#** アメリカザリガニ (*Procambarus clarkii*) における形態と行動の左右非対称性 *東保しょう子, 堀道雄 (京大・理)
- P1-016#** 安定同位体から探る在来型コイと移入型コイの食性と栄養段階 *松崎慎一郎 (東大・農・日本学術振興会), 馬淵浩司 (東大・海洋研), 高村典子 (国立環境研究所), 西田睦 (東大・海洋研), 鷺谷いづみ (東大・農)
- P1-017** 繁殖移動と個体群の安定性 *仲澤剛史 (京大・生態研セ), 山村則男 (京大・生態研セ)
- P1-018** 房総半島におけるニホンジカの個体群構造: 分子データに基づく景観遺伝学的解析からわかったこと *吉尾政信 (東大・生物多様性), 浅田正彦, 落合啓二 (千葉県博), 宮下直 (東大・生物多様性), 立田晴記 (国環研・生態リスク)
- P1-019#** 野ネズミ個体群の種子の豊凶に伴う密度変動の要因 *三田瞬一, 星崎和彦 (秋田県立大学生物資源科学部)
- P1-020#** 採食環境に対する個体の不完全な情報が個体群存続に及ぼす影響 天野達也 (農環研・生物多様性)
- P1-021** 野生ホンザルの個体数変動 杉浦秀樹 (京大・霊長研), 田中俊明 (梅光学院大・子ども), 揚妻直樹 (北海道大・北方フィールド科学センター), 早川祥子 (京大・霊長研), 香田啓貴 (京大・霊長研), 早石周平 (琉球大学・大学教育センター), 柳原芳美 (総合地球環境研究所), 半谷吾郎 (京大・霊長研), 藤田志歩 (山口大・農), 松原幹 (京大・霊長研), 宇野壮春 (宮城のサル調査会), 清野未恵子 (京大・動物), 鈴木真理子 (京大・霊長研), 西川真理 (京大・動物), 室山泰之 (京大・霊長研)
- P1-022#** 同一集団に共存する右巻と左巻のカタツムリは鏡像対称か *中寺由美, 浅見崇比呂 (信州大・理) Somsak Panha, Chirasak Sutcharit (Chulalongkorn Univ.)
- P1-023#** コアジサシの個体数変動が空間的に同調する範囲とそのメカニズム-分散と餌資源- *森田博之, 藤田剛, 樋口広芳 (東京大学・農・生物多様性科学)
- P1-024#** チャイロキツネザル種間雑種個体群のマイクロサテライトDNA分析 *田中美希子, 田中洋之, 平井啓久 (京大・霊長研)
- P1-025#** ブナ種子の豊作による野ネズミ個体群の変動メカニズム *西友香理 (新潟大・院・自然科学), 箕口秀夫 (新潟大・農)
- P1-026** コテングコウモリのねぐら利用と社会 平川浩文 (森林総研・北海道)
- P1-027** フトエダミドリイシ集団の遺伝的構造 *磯村尚子 (琉球大・理工・21世紀COE), 日高道雄 (琉球大・理・海洋自然)
- P1-028#** ウスキシロチョウにおける幼虫表現多型に及ぼす密度効果 *儀間朝宜, 辻和希 (琉大・農)
- P1-029#** 森林の分断化が野ネズミの分布に与える影響 *渡邊淳之介 (北大・環境科学院), 館絢花 (北大・農), 紺野康夫 (帯広畜産大・畜産), 石橋靖幸 (森林総合研究所), 斉藤隆 (北大・FSC)
- P1-030#** シロウオ二型の異所的な雑種群における遺伝的混合比と表現型変異 *高橋明香, 小北智之 (福井県立大・生物資源)
- P1-031#** 個体群動態はどのスケールで安定化する? *秋山耕治, 西田隆義 (京大院・農・昆虫生態)
- P1-032#** 鏡像体の生存率は適応進化するか *宇津野宏樹 (信州大・理), 浅見崇比呂 (信州大・理)
- P1-033** 房総半島におけるシカ個体群の空間動態と駆除戦略 *藤田剛 (東大・農・生物多様性), 鈴木牧 (東大・演習林), 山道真人 (東大・農・生物多様性), 落合啓二, 浅田正彦 (千葉県博), 宮下直 (東大・農・生物多様性)
- P1-034#** 真社会性アブラムシの個体群動態と兵隊率決定要因~ササコナフキツノアブラムシの兵隊率は捕食者密度で決まっている!?~ *服部充 (信大・理・生物), 市野隆雄 (信大・理・生物, 信大・山岳研)
- P1-035#** 北海道東部浦幌地域に生息するヒグマ集団の遺伝子構造解析 *森洋輔 (日本大学大学院生物資源科学研究科), 佐藤喜和 (日本大学生物資源科学部), 伊藤哲治 (日本大学大学院生物資源科学研究科)
- P1-036** ウスバシロチョウの遺伝学的研究 *岩田典子, 野田智昭 (岐大・応用生物)
- P1-037#** マイクロサテライトマーカーを用いたヒグマの血縁関係推定 *伊藤哲治, 佐藤喜和, 森洋輔, 間野勉
- P1-038#** 房総半島におけるシカの分散速度の calibration による推定 *山道真人, 藤田剛 (東大院・農), 鈴木牧 (東大・演習林), 落合啓二, 浅田正彦 (千葉県博), 宮下直 (東大院・農)
- P1-039** 安定同位体による長野県のツキノワグマの食性解析 *中下留美子 (東京農工大・農), 後藤光章 (NPO 信州ツキノワグマ研究会), 泉山茂之 (信州大学・農), 林秀剛 (NPO 信州ツキノワグマ研究会)

ポスター発表 3月20日(火) 10:30-16:00

(#: ポスター賞対象発表)

P1-040 石垣島のアオウミガメ産卵個体群の現状 *阿部 寧, 洪野拓郎 (西海水研), 谷崎樹生, 石井久和 (石垣ウミガメ研)

P1-041# real simulation of single species model *中道康文 (筑波大・生命共存), 徳永幸彦 (筑波大・生命共存)

P1-042 岐阜県白川村におけるツキノワグマの生息環境の選択性 *松本歩 (岐阜大・応用生物), 村瀬豊 (岐阜大・クマ研), 加藤春喜 (トヨタ白川郷自然学校), 中村幸子 (岐阜大・大学院・連獣), 鈴木透 (EnVision), 立木靖之 (EnVision), 浅野玄 (岐阜大・応用生物), 坪田敏男 (岐阜大・応用生物)

P1-043 (キャンセル)

P1-044 諏訪湖のオオクチバスとブルーギルの分布 *川之辺素一 (長野県水産試験場諏訪支場), 箱山洋 (中央水産研究所)

P1-045 大阪府北部の里山に生息するチョウ類2種の遺伝的多様性 *井上欣勇, 平井規央, 石井実 (大阪府大院・生命)

生態系管理

P1-046# 樹齢1000年の森林資源循環型エコシステムマネジメントの構築-伊勢神宮 式年遷宮用材保続生産に向けて- *中島徹, 白石則彦 (東京大学)

P1-047 房総半島のニホンザル生息域の変動 - 2006年アンケート調査から- *岩崎巨典 (農環研), デイビッド スプレイグ (農環研)

P1-048 四国南西部、三本杭におけるニホンジカの自然植生への影響について *奥村栄朗, 酒井敦, 奥田史郎, 伊藤武治 (森林総研・四国)

P1-049 房総半島におけるシカ密度依存的な下層植生相の変化 *鈴木牧, 宮下直, 蒲谷肇, 浅田正彦, 落合啓二, 丹下健

P1-050# 貯水ダムが河畔林の構造と立地環境に及ぼす影響 *高橋まゆみ, 中村太士 (北大・農)

P1-051 森林および草地のエコトーンにおける森林性オサムシの環境選択行動 *山下英恵 (東大院, 農学生命), 桐谷圭治 (伊東市), 富樫一巳 (東大院, 農学生命)

P1-052 房総半島における大型哺乳類による農業被害とランドスケープ構造の関係性 *高田まゆら (東大院・農), 鈴木牧 (東大・演習林), 落合啓二, 浅田正彦 (千葉県博), 宮下直 (東大院・農)

P1-053# 琵琶湖堆積物における安定同位体、リグニン由来フェノール、化色素の変化: 過去100年間の人間活動の影響 兵藤不二夫 (地球研), 槻木(加) 玲美 (佐賀大・有明), 東順一 (京大・農), 占部城太郎 (東北大・生命), 中西正巳 (京大・生態セ), 和田英太郎 (地球フロンティア)

P1-054 琵琶湖沿岸食物網の基礎生産構造-ベントスの安定同位体比からわかること- *荏部甚一, 武山智博, 酒井陽一郎, 奥田昇, 陀安一郎 (京大・生態研)

P1-055 ヤクシカの個体群動態と生息地管理 *立澤史郎 (北大・文・地域), 高橋裕史 (森林総研・関西), 松田裕之 (横国大・環境情報), 常田邦彦 (自然環境研究センター)

P1-056 NOAA画像による西シベリア内陸性塩水湖の環境モニタリング *鹿野秀一 (東北大・東北アジア), 河野公一 (東北大・高等教育), 工藤純一 (東北大・東北アジア), ユルノフA (動物生態分類研・ロシア科学アカデミーシベリア支部), 菊地永祐 (東北大・東北アジア)

P1-057 干潟底質の有機物分解機能に影響を及ぼす要因 *広木幹也 (国立環境研), 千賀有希子 (立正大・地球環境), 野原精一 (国立環境研)

P1-058# 釧路湿原達古湖における流域開発がマリモの生残に与えた影響 *安楽相 (北大院・農), 若菜勇 (阿寒湖畔EMC), 佐藤大樹 (北大院・農), 中村太士 (北大院・農),

高村典子 (国環研), 中川恵 (国環研), Arni Einarsson (Myvatn Research Station, Iceland)

P1-059 関東地方における遺伝子組換えナタネの逸出状況-2006年度の調査結果報告- *西沢 徹, 中嶋信美, 玉置雅紀, 青野光子, 久保明弘, 佐治 光 (国立環境研 生物圏環境研究領域)

P1-060 化学物質の生態影響 - 亜鉛のリスクを評価する - 加茂将史, 村馬孝治, 内藤航

P1-061# 生物の安定同位体比から見た琵琶湖内湖の地理的特性と土地利用形態 *柴田淳也, 由水千景, 大川聡, 西村洋子 (京大・生態セ), 眞壁明子 (東工大・総合理工), 永田俊, 奥田昇 (京大・生態セ)

P1-062# ダム湖と流域生態系をつなぐ濁水中のリンの挙動について *齋藤大輔, 菊池亜希良, 中越信和 (広島大・国際協力), 永田智久, 坂村晃 (国交省中国地方土師ダム管理所)

P1-063 房総半島におけるシカ妊娠率の空間変異とその要因 *安藤大介 (東大・院・農), 鈴木牧 (東大・農), 浅田雅彦, 落合啓二 (千葉県中央博物館), 宮下直 (東大・院・農)

P1-064 「下流域への栄養塩負荷を最小限にする森林伐採管理方法の探究」 *草加伸吾 (琵琶湖博・琵琶研セ), 金子有子 (琵琶研セ), 徳地直子 (京大フィールド科学), 籠谷泰行, 浜端悦治 (滋県立大)

P1-065# 森林攪乱と生態系管理-カナダ・クートニー国立公園の亜高山帯林における大規模火事の果たす役割- 森 章, Kenneth P. Lertzman (サイモンフレイザー大学)

P1-066# 河口干潟における有機物分解量の推定: 潮汐の影響を考慮した評価 *佐々木晶子 (産総研・中国センター), 萩森優 (広島大・院・生物圏), 中坪孝之 (広島大・院・生物圏), 星加章 (産総研・中国センター)

P1-067 化学物質の生態リスク評価 - 手法および課題 - 林 彬勤 (産総研)

P1-068 枯死木の幹円板から再現した知床半島における過去200年間のシカによる樹皮剥ぎ履歴 *石川幸男 (専修大道短大), 山中正実, 橋本勝, 熊本将志, 野別貴博 (知床財団), 長谷部真 (日本工営)

P1-069# 林床植物の生産性勾配はシカの採食圧を変化させるか? - 大規模操作実験による検証 - *日野貴文, 揚妻直樹, 日浦勉 (北大・苫小牧研究林)

P1-070# 東京湾産シャコ *Oratosquilla oratoria* 個体群動態の生活史感度解析 *中嶋美冬 (国立環境研究所), 田中嘉成 (国立環境研究所), 児玉圭太 (国立環境研究所), 堀口敏宏 (国立環境研究所)

P1-071# 絶滅危惧植物個体群への農村環境の変化の影響評価-キキョウを対象として- *吉田聡子 (横浜国立大), 日鷹一雅 (愛媛大), 渡邊修 (信州大), 松田裕之 (横浜国立大)

P1-072# 東京都奥多摩町雲取山周辺における二次草原の変化: ニホンジカの増加と「お花畑」への影響 *大橋春香 (東京農工大学大学院), 星野義延 (東京農工大学), 大野啓一 (千葉県立中央博物館)

P1-073 ダム下流における河床付着膜の特徴と支川合流の影響 *皆川朋子 (土木研究所・自然共生研究センター), 片野 泉 (同), 萱場祐一 (同), 河口洋一 (九州大学・工)

P1-074 生態系シミュレーションモデルのデータ管理の為にデータマネジメントシステムの開発 小川 安紀子 (京大, 農)

保 全

P1-075 絶滅危惧植物シラタマホシクサの発芽特性-個体群変異- *増田理子 (名工大・都市社会), 水野秀俊 (名工大・社発), 岩井貴彦 (名工大・社工)

ポスター発表 3月20日(火)10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

- P1-076 落葉広葉樹二次林の断片化がオオムラサキの個体数に及ぼす影響** 小林隆人(宇都宮大学農学部)
- P1-077 湿原創生を目指した水田跡地の多様な初期植生** 竹原明秀(岩手大・人文社会)
- P1-078# カワシンジウガイの絶滅はさまざまな環境の変化によって起こる** *秋山吉寛(北大地球環境科学), 岩熊敏夫(北大環境科学院)
- P1-079# 宮崎県串間市里山地域における草地フロラの生態学的解析** *河野円樹(東大・院・新領域), 河野耕三(宮崎県立宮崎農業高等学校), 大澤雅彦(東大・院・新領域)
- P1-080 屋久島西部林道で見られた拡幅工事計画中止後の道路景観変化** *揚妻直樹(北大・フィールド科学センター), 揚妻-柳原芳美(苫小牧市博物館・友の会), 大谷達也(森林総研・九州), 杉浦秀樹(京大・霊長類研)
- P1-081 日光白根山のシラネアオイ保全に対するアプローチ** *上野晴子(栃林七), 生井潔(栃農試), 天谷正行(栃農試)
- P1-082# ニホンアマガエルをさらに20倍増やす方法** 平井利明(東北大・院農)
- P1-083 狩猟統計にみる九州のリス科動物の捕獲数の推移** *安田雅俊(森林総研・九州)
- P1-084# ボルネオ島における塩場を中心とした哺乳動物の種多様性と塩場依存性** *松林尚志(東農大・農), Peter Lagan, Noreen Majalap, Joseph Tangah(マレーシア国サバ州森林局), Jum Rafiah Abd. Sukor(マレーシア国サバ州生物局), 北山兼弘(京大・生態研七)
- P1-085 小笠原産絶滅危惧種ナガバキブシの現状** 安部哲人(森林総研)
- P1-086# サクラマス生息に及ぼす投入倒木の効果とそのメカニズム-生活段階による空間利用に着目して-** *永山滋也(北海道大・農), 河口洋一(九州大・工), 中野大助(北海道大・農), 中村太士
- P1-087 植生図からみた北海道の鳥獣保護区** 玉田克巳(北海道環境科学研究センター)
- P1-088 放棄水田の掻き起こしによる植生の保全について** *柳沢直(岐阜県立森林文化アカデミー)・岡部愛(愛媛大・理)
- P1-089 大峰山脈前鬼における森林の現状** *松井淳, 森野里美, 小林泰彦(奈良教育大学), 辻野亮, 湯本貴和(総合地球環境学研究所), 今村彰生(京都学園大学), 布施健吾(屋久島自然史研究会), 宮西裕美, 小田さつき, 細井まゆみ, 大川智史, 高田研一(森林再生支援センター)
- P1-090 野生鳥類が持つ病原体の空間解析** *長雄一(道環研), 浅川満彦(酪農大・獣医), 金子正美(酪農大・環境)
- P1-091 野生動物救護からの環境評価の試み** *井淵美希(岐阜大・救護七), 浅野玄, 柳井徳磨(岐阜大・獣), 江村正一(岐阜大・医), 坪田敏男(岐阜大・獣)
- P1-092 ため池に分布する淡水魚モツゴの種内外来状況を探る** *高村健二, 高村典子, 中川恵(国立環境研), 田中哲夫, 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館), 村上俊明(地域生態系保全)
- P1-093# 小笠原固有種ムニンフトモモにおける遺伝的多様性および遺伝構造の解明** *兼子伸吾(広島大・院・国際), 井鷲裕司(京大・院・農), 中越信和(広島大・院・国際), 延島冬生(東京都小笠原村)
- P1-094# 樹幹着生蘚苔類に見る西大台ブナ林30年の環境変化** *佐久間大輔(大阪市立自然史博物館), 木村全邦(森と水の源流館), 道盛正樹(大阪自然史センター)
- P1-095 多摩川におけるカワラノギク保全のための情報管理** *倉本宣, 岡田久子(明治大学農学部)
- P1-096 北海道北部の山地湿原における水質環境** *酒井絢也(北海道大学大学院環境科学院), 植村滋(北海道大
- 学北方フィールド科学センター), 矢部和夫(札幌市大 デザイン)
- P1-097 ため池におけるトンボの種構成と環境要因との関係**: NMDS およびクラスター分析を用いた解析 *浜崎健児, 山中武彦, 田中幸一, 中谷至伸, 岩崎亘典, David S. Sprague(農環研)
- P1-098# 耕作放棄水田における放棄年数と土壌シードバンク種組成の関係** 山田晋(農業環境技術研究所), 大久保悟(東京大・農), 北川淑子(東京大・農), 武内和彦(東京大学・農)
- P1-099 日本の絶滅危惧淡水魚類を対象とした生息地ポテンシャルの時空間的変動** *亀山哲(国立環境研究所), 福島路生(国立環境研究所), 韓美德(筑波大学), 島崎彦人(国立環境研究所), 金子正美(酪農学園大学)
- P1-100 絶滅危惧植物タデスミレの生育環境と個体群構造** *尾関雅章, 大塚孝一, 須賀丈(長野県環境保全研究所), 小山泰弘(長野県林業総合センター)
- P1-101# 北東北におけるニホンザルの生息地評価に基づくリスク管理手法の検討** *江成広斗(農工大・連農), 鈴木透(EnVision)
- P1-102# ミゾコウジュの保全生態学研究: 移植地における存続条件の解明** 関貴史(九大・理)
- P1-103# 調査努力量の偏りはツバメの空間分布予測にどう影響するか** *リングホーファー 萌奈美, 藤田剛, 樋口広芳(東大・農・生物多様性),
- P1-104 湖底土壌シードバンクの種多様性とそれに関わる要因** *黒田英明, 西廣淳, 鷲谷いづみ(東大院・農)
- P1-105# ヤクシカの餌場としての林道: 食物現存量からの評価** *寺田千里(筑波大・生物資源学類), 立澤史郎(北大・文・地域), 川村貴志(屋久島まるごと保全協会), 藤岡正博(筑波大・農技センター)
- P1-106# 針広混交林開拓跡地における植生の変遷** 庄山紀久子(北大・環境科学)
- P1-107# 奄美大島における希少種イシカワガエルの生息適地の推定~GISを用いた評価~** 川崎菜葉, 亘悠哉(東大院・農), 山下亮, 落合智, 戸田敏久, 西真弘, 野口浩人, 登博志, 福田稔, 松田悦郎, 山室一樹, 山口良彦, 吉原隆太, 琉子盛夫(奄美マングースパスターズ), 追田拓, 永井弓子(奄美野生生物保護センター), 宮下直(東大院・農)
- P1-108# 屋久島照葉樹林におけるヤクシカ個体数密度増加にともなう階層別の植生変化** *幸田良介, 藤田昇(京大・生態研), 辻野亮(地球研), 野間直彦(滋賀県立大)
- P1-109# 教育現場における高校生による環境保全活動の実践例** *鹿野陽太(福島県立福島高等学校)(現所属:北海道大学水産学部海洋生物生産科学科2年)
- P1-110# 農作物被害を起こすニホンザルの群れはヒトの動きに応じて遊動様式を変えるのか?** 山田彩(京大霊長研)
- P1-111# 下北半島の猿害問題における農家の被害意識の重層的構造** *鈴木克哉
- P1-112 生物多様性から見た河畔林の効果** 小幡和男(茨城県自然博物館)
- P1-113 群馬県内のサクラソウ群生地における花柱構成比と結実率の関係** *石川真一(群馬大・社会情報), 増田和明(群馬県中之条小学校), 大森威宏(群馬県立自然史博物館)
- P1-114# 長野県中南部のため池における水生植物の組成と環境条件との関係** *福島敬彦(信州大院・農学), 大窪久美子(信州大学農学部)
- P1-115 ライチョウコクシジウム(Eimeria uekii)の胞子形成時間から見た「宿主-寄生体」関係 ~Host-Parasite interaction~ *市川陽子(日本大・生), 永井里菜, 倉倉孝明(山岳環境研究所), 村田浩一**

ポスター発表 3月20日(火) 10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

P1-116 教材が生物多様性保全を訴える *畑田 彩(総合地球環境学研究所), 市川昌広(総合地球環境学研究所), 中静透(東北大学)

P1-117 Fluctuation of Inorganic Nitrogen Concentration in Surface Water of Wetlands in Higashi-hiroshima, West Japan. Haidari, A.M., Amiri, B.J., Nakane, K. (Hiroshima Univ.)

P1-118# 福井県版レッドデータブックの実物標本を用いた普及教育の実践例とその効果 *佐藤友香(福井市自然史博物館)

P1-119# 長野県上伊那地方の水路における水生植物の分布と立地環境条件との関係 *御池俊輔(信州大・農), 大窪久美子(信州大・農)

P1-120 長野県上伊那地方の水田地域におけるバッタ類群集の構造と立地環境との関係 大窪久美子(信大・農), 伊藤藤子(信大・農), 水野敦(信大院・農), 四方圭一郎(飯田美博), 中村寛志(信大・農), 小林正明(飯田女短)

P1-121# 個体ベースモデルによる人為攪乱後の島嶼亜熱帯林の再生過程の解析 藤井新次郎(鹿大・院・教), 久保田康裕(鹿大・教)

P1-122 (キャンセル)

P1-123# 宮川流域におけるアジメドジョウの支流間スケールでの分布を決める要因 *加藤雅之, 原田泰志(三重大・生物資源)

P1-124 オオルリシジミの食草であるクララの訪花昆虫相 村田浩平*, 岩田真木郎, 岡本智伸(九州東海大学農学部)

P1-125# 千葉県沿岸におけるアマモ *Zostera marina* メタ個体群の長期変動 *渡辺健太郎, 仲岡雅裕(千葉大学・自然科学), 石井光廣(千葉県水産総合研究センター), 近藤昭彦(千葉大・環境リモセン)

P1-126# シデコブシの開花フェノロジーと種子生産 *鈴木節子(名大院生命農), 玉木一郎(名大院生命農), 石田清(森林総研関西), 戸丸信弘(名大院生命農)

P1-127 渡良瀬遊水地におけるハイパースペクトルリモートセンシングを用いた絶滅危惧植物の潜在的生育適地の推定 *石井潤, 盧珊, 船越翔, 清水庸, 戸並知大, 安島美穂, 大政謙次, 鷲谷いづみ(東京大院・農)

P1-128 水路からの導水による湿原植生の再生 *白川勝信(芸北 高原の自然館)

P1-129# 野生サクラソウ集団における環境応答性の遺伝的変異 *吉田康子(筑波大・生命環境), 本城正憲(東大・農学生命科学), 北本尚子, 大澤良(筑波大・生命環境)

P1-130# 葉緑体 DNA の塩基多型を指標とした絶滅危惧種カッコソウとシコクカッコソウにおける遺伝的分化の把握と識別マーカーの開発 *大谷雅人(東大院・農), 上野真義(森林総研), 津村義彦(森林総研), 鷲谷いづみ(東大院・農)

P1-131 屋久島における絶滅危惧植物数種の生育地の推定 *田川 哲(九大・院・理), 矢原徹一, 中澤 幸, 藤田 卓

P1-132 サロベツ湿原における草原性鳥類の生息地評価 *鈴木透(EnVision), 高田雅之(北海道環境研), 玉田克己(北海道環境研)

P1-133 創出したヨシ群落における絶滅危惧種ヒヌマイトンボの個体群動態 *東 敬義(三重県埋蔵文化財センター), 渡辺 守(筑波大学・生物科学系)

P1-134# 都市近郊及び里やま地域におけるカヤネズミの生息適地モデル *澤邊久美子(大阪府立大・院・生命環境), 夏原由博(京都大・院・地球環境学堂)

P1-135# 琉球列島のサンゴ礁における陸水流入と栄養塩動態 *森本直子(琉球大・理工), 酒井一彦(琉球大・熱生研), 長尾正之(産総研・地質), 鈴木淳(産総研・地質)

P1-136 深泥池湿原の表層水質とビュルテの空間分布 高

橋淳子(京都大・生態研センター), 辻野亮(地球研), 竹門康弘(京都大・防災研)

P1-137# 北海道東部浦幌周辺地域におけるヒグマの生息地評価モデル *嶋崎暁啓(日大・院・森林動物), 佐藤喜和(日大・生物資源・森林動物), 佐藤信彦(日本生態系協会)

P1-138# 絶滅危惧種ヒヌマイトンボの生息地として創出したヨシ群落の発達に関わる環境要因 *森本正俊, 山村靖夫(茨城大・理・生態), 渡辺 守(筑波大・生物科学系)

P1-139 試験放鳥されたコウノトリの生息地利用 *内藤和明, 大迫義人, 池田 啓(兵庫県立大・自然研)

P1-140# ため池の水生植物の種組成は何で決まるか? *樋口伸介(神戸大・自然科学), 赤坂宗光(国立環)中川恵(国立環), 高村典子(国立環), 角野康郎(神戸大・理)

P1-141# 異なる水環境の撒き出し実験による湿地草本群落の種組成の違い *田中夏美, 林田光祐(山形大・農)

P1-142 海浜植物 14 種の埋土 3 年後の発芽能力 *澤田佳宏(兵庫県立大・自然博)

P1-143# 西宮市におけるキシノウエトタゲモの分布と生息場所の条件 *大家 理絵, 遠藤 知二(神戸女学院大・人間科学)

P1-144 絶滅危惧種ヒヌマイトンボの生息地として創出したヨシ群落の 4 年間の動態 *寺本悠子, 渡辺 守(筑波大学・環境科学)

P1-145 録音装置を用いたカエル類モニタリングの試み *福山欣司(慶応大学・生物学教室), 岩井紀子(東大院・農学生命), 大河内 勇(森林総研)・草野 保(首都大学東京・理工学研究科・生命科学), 栗山由佳子(田んぼとあそぶ会), 竹中 踐(北海道東海大学)・長谷川雅美(東邦大・理), 森田敏弘・亀山 剛(広島ダルマガエルの会), 谷地森秀二(四国自然史科学研究センター), 渡辺伸一(千葉県博)

P1-146 河川の流量変化が魚類に与える影響—実験河川を用いた流量制御実験— *佐川志朗, 秋野淳一, 矢崎博芳, 真田誠至, 萱場祐一(土研・自然共生セ)

P1-147# 冷温帯林におけるシカ類の植生食害が土壤動物群集におよぼす影響 - 四半世紀前の群集と比較して *齋藤星耕, 菱拓雄, 水田瞳, 清水昭宏, 金子信博, 武田博清

P1-148# ため池の生物多様性保全に必要な空間スケールについて 赤坂宗光(国環研), 角野康郎(神戸大), 三橋弘宗(兵庫県人と自然の博物館), 青木典司(神戸市), 高村典子(国環研)

P1-149# 日本の絶滅危惧植物個体群の 10 年間の変遷—環境省版レッドリスト見直し調査の結果から— *藤田卓(九大・理), 小川誠(徳島県博), 勝山輝男(神奈川県博), 角野康郎(神戸大・理), 川窪伸光(岐阜大・応用生物), 芹沢俊介(愛教大・生物), 高橋英樹(北大・総合博物館), 高宮正之(熊本大・理), 藤井伸二(人間環境大・環境保全), 松田裕之, 宗田一男(横国大・環境情報), 横田昌嗣(琉大・理), 米倉浩司(東北大・植物園), 矢原徹一(九大・理)

P1-150# 伊豆大島における伊豆諸島固有種サクユリの分布 *菊地哲理, 倉本宣(明治大・農)

植 物 生 活 史

P1-151 林床性草本トチバナニンジン(ウコギ科)の生活史戦略 岡崎純子, 小紫由美子(大阪教育大・教員養成)

P1-152 トドマツの先端枝への資源分配は被陰や切除で変化するか—炭素安定同位体を用いたトレース実験— *長谷川成明, 甲山隆司(北大・院・地球環境)

P1-153# 落葉広葉樹実生における成長・防御・貯蔵内のトレード・オフ関係 *今治安弥(東北大・院・農), 酒井暁子(横国大・院・環境情報), 上里季悠(北大・環境科学), 松木佐和子(岩手大・農), 清和研二(東北大・院・農)

ポスター発表 3月20日(火)10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

- P1-154#** 林床性多年生草本植物オオバナノエンレイソウにおける実生定着と菌根菌の関係 *山岸洋貴, 大原雅 (北大・院・環境科学), 富松裕 (首都大・理工), 橋本靖 (帯畜大・環境)
- P1-155** 屋久島照葉樹の葉寿命推定の階層ベイズモデル 牛原阿海, *久保拓弥, 甲山隆司 (北大・地球環境)
- P1-156#** トウカイコモウセンゴケの発芽特性にみられる集団内多様性 *中野真理子 (石川県立大・環境科学), 木下栄一郎 (金沢大・自然計測応用研究センター)
- P1-157#** 開所に生育する落葉広葉樹の樹冠上部における当年枝特性の樹高依存性 *宮田理恵, 甲山隆司 (北大・環境科学院)
- P1-158#** 高山草本植物ミヤマリンドウの多年草の役割 川合由加, 工藤岳 (北大・環境科学)
- P1-159#** 林床性多年生草本バイケイソウ (*Veratrum album* sub.*oxysepalum*) の生活史研究 *加藤優希, 荒木希和子, 大原雅 (北大・院・環境科学)
- P1-160** ツルアジサイの更新過程 *金子洋平 (新潟大院・自然科学), 本間航介 (新潟大・農)
- P1-161#** 半寄生一年生植物ママコナの成長におけるホストの重要性 *三宮直人・堀良通 (茨城大・理・生態)
- P1-162** 高知県室戸市におけるカミガモソウの生活史, 生育環境および過去3年間の動態 *三宅尚, 中川赴, 和田久美子, 石川慎吾 (高知大・理), 三宮直人 (茨城大・院・理工)
- P1-163** ナタメ属2種とアリの生態学的研究 *山城明日香 (徳島大・院・人間自然環境), 山城考 (徳島大・総合科学)

植 物 繁 殖

- P1-164** 森林の断片化がクロビタヤの種子生産と遺伝子流動に与える効果 *永光輝義 (森林総研), 堀田万佑子 (北大), 田中健太 (シェフィールド大), 日浦勉 (北大)
- P1-165** 埋土種子集団を形成・維持する植物の生態的特性についてのメタ解析 本田裕紀郎 (東大・院・農学生命科学)
- P1-166** チュウゴクザサの開花特性 *阿部佑平 (京大院農), 柴田昌三 (京大フィールド研)
- P1-167** 北方林樹木グイマツの花芽形成における *LEAFY* 相同遺伝子の発現と気象要因 *岩崎 (葉田野) 郁 (岡山県生物科学総合研究所), 内山和子 (北海道林試), 小野清美 (北大・低温研), 渡辺一郎, 八坂通泰, 来田和人 (北海道林試), 小川健一 (岡山県生物科学総合研究所), 原登志彦 (北大・低温研)
- P1-168** 14年間における、アオモリトドマツ樹冠上部の主幹長に対する当年枝長・球果数の依存性について 関剛 (森林総研・東北)
- P1-169#** フランス・オルヌ県アランソンのセイヨウトネリコ (*Fraxinus excelsior*) 採種園における花粉によるジーン・フローの年次変化 宮本尚子 (林木育種センター), Christian RAQUIN, Paola BERTOLINO, Marie-Elise MORAND-PRIEUR, Beatrice ALBERT, Etienne KLEIN, Nathalie FRASCALIA-LACOSTE (パリ南 (XI) 大学)
- P1-170#** 林冠閉鎖のタイミングは春植物の生産と繁殖にどう影響するのか? *井田崇 (北大・院・環境科学), 工藤岳 (北大・環境科学)
- P1-171** 開葉・開花フェノロジーが異なるウルシ属2種における繁殖投資と繁殖コスト *松山周平 (京大院・農), 嵩元道徳 (京大フィールド研)
- P1-172#** スズランの地下茎によるクローン成長が個体群の空間的構造に与える影響 *荒木希和子 (北大・院・環境科学), 島谷健一郎 (統計数理研究所), 大原雅 (北大・院・環境科学)
- P1-173#** エゴノキの繁殖器官の減少過程における樹木個体間変異: key-factor/key-stage 分析による解析 長瀬ほなみ (名大院・生命農), 福本浩士 (三重県), 梶村恒 (名大院・生命農)
- P1-174** サワギキョウにおける花序内花間性投資パターン: 花序サイズによる違い *板垣智之, 酒井聡樹 (東北大・院・生命科学)
- P1-175** 萌芽再生したアオダモのデモグラフィと稚樹バンクとしての役割 滝谷美香 (北海道林試道東支場), 大野泰之 (北海道林試), 八坂通泰 (北海道林試), 渡辺一郎 (北海道林試), 松木佐和子 (岩手大学), 中川昌彦 (北海道林試)
- P1-176** ガズミ属の交配様式と開花フェノロジー *吉本敦子 (金沢大・院・自然計測), 中野真理子 (石川県立大), 笠木哲也, 木下栄一郎 (金沢大自然計測)
- P1-177#** 食われた果実は落とすのか?—ヤマモモ樹上果実と落下果実における食害率の比較— *藤田真梨子, 松井淳 (奈良教育大学), 寺川眞理 (広島大学), 駒井古実 (大阪芸術大学), 湯本貴和 (総合地球環境学研究所)
- P1-178** 花と種子の生産コスト: フクジュソウの繁殖コストの評価 堀端聡, 長谷川成明, *工藤岳 (北大院・地球環境)
- P1-179** コバノミツバツツジの開花期と自家和合性の個体間変異 *河村耕史 (森林総研・関西), 石田清 (森林総研・関西)
- P1-180** 多年生草本レンゲショウマ個体群の齢・サイズ構造と雌性繁殖投資 *鈴木まほろ (岩手県立博物館), 木村恵 (東大ア生セ)
- P1-181#** オオバナノエンレイソウにおける自殖性の適応的意義 *久保田渉誠, 亀山慶晃, 大原雅 (北大・院・環境科学)
- P1-182#** 種子発芽動態の違いがツユクサ属植物の性分配変異に与える影響: 理論と検証 土松隆志 (東大・広域システム), 酒井聡樹 (東北大・生命科学), 渡邊幹男 (愛知教育大・生物), 伊藤元己 (東大・広域システム)
- P1-183** Is it an ill community that fouls its own nestedness? ~これから論文を書く私達のために~ Sakai, S. (Kyoto Univ.) and *Toquenaga, Y. (Univ. Tsukuba)
- P1-184** 発達した株構造を持つ雌雄異株低木シロモジの性差 *松下通也, 戸丸信弘 (名大院・生命農)
- P1-185#** キスゲとハマカンゾウでは花粉管の伸長パターンが異なる-雑種形成を制限する要因となるのか? *安元暁子, 新田梢, 矢原徹一
- P1-186** コナラのモジュールにおける葉と果実の数とサイズとの関係について *岩渕祐子 (東農工大・女性キャリア支援・開発センター), 星野義延 (東農工大・共生科学技術研究院)
- P1-187#** 4年続けて伐採した低木・亜高木種の萌芽特性 *菅原未知登, 百瀬邦泰, 二宮生夫 (愛媛大), 林田光祐 (山形大)
- P1-188#** 異なる資源分配様式で繁殖器官を発達させるムラサキシキブ属2種 *伊藤愛, 菅原未知登, 百瀬邦泰, 二宮生夫 (愛媛大)
- P1-189** トチノキの果実あたり種子数の変動 *川口英之, 幸田怜子 (島大・生資), 館野隆之輔 (鹿大・農), 名波哲 (大市大・理), 井鷲裕司 (京大・農)
- P1-190** コナラ・ミズナラの雄花序および堅果の成熟前落下パターンと豊凶の関係 小谷二郎 (石川県林業試験場)
- P1-191#** 食害がヒメシャガの繁殖に与える影響: 開花時期に依存して、つぼみ・花・果実への食害頻度は異なるのか? *小黒芳生, 酒井聡樹
- P1-192** 葉の被食は種子の質的防御を高めるか? ~コナラ堅果のタンニン量~ *岩井隆昌 (金沢大大学院・自然), 田辺慎一 (里山科学館キョロロ), 木村一也, 木下栄一郎, 中村浩二 (金沢大・自然計測セ), 田崎和江 (金沢大・理)

ポスター発表 3月20日(火) 10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

P1-193 窒素資源の異なるヒノキ林分におけるギャップ形成が種子生産様式に及ぼす影響 *中西麻美(京大・フィールド研), 稲垣善之(森林総研四国), 柴田昌三(京大・地球環), 平田啓一, 大澤直哉(京大・農)

植物生理生態

P1-194 ムカゴトランオの生理生態学的研究 *富田美紀(静岡大学・院・理学部), 増沢武弘(静岡大学・理・生物)

P1-195# 窒素固定植物の窒素利用戦略:異なる土壌窒素濃度条件下におけるミヤコグサの成長特性 *中田 望(首都大・理), 大曾根 陽子(森林総研), 可知 直毅(首都大・理)

P1-196 異なる光強度に馴化した落葉広葉樹の解剖学的構造および光合成特性 田中 格(山梨県森林総研)

P1-197 Effects of submergence with salt water on survival, growth and physiology of *Taxodium distichum* seedlings. *岩永史子(鳥取・農), 山本福壽(鳥取・農)

P1-198# 熱帯山地林における樹木葉リン画分 *日高周(京大・生態学研究センター), 北山兼弘(京大・生態学研究センター)

P1-199# 熱帯木本における枝径・葉面積関係の比較 *饗庭正寛(京大・生態研センター), 五十嵐秀一(愛媛大院・農学研究科), 中静透(東北大院・生命科学研究科)

P1-200# 八丈島におけるテングサ藻場の変化と沿岸域の栄養塩環境特性 *高瀬智洋, 田中優平(都島しょ農水総七・八丈), 黒川信(首都大・院理・生命科学), 野原精一(国立環境研・アジア自然共生)

P1-201# 水分条件がネコヤナギさし木苗のシュートフェノロジーおよび水分生理に及ぼす影響 *中井亜理沙, 木佐貫博光(三重大生物資源)

P1-202# 重油の煤塵がヤマザクラの根系の生長に与える影響 *田上公一郎, 尹 朝熙, 中根周歩(広島大・生物圏)

P1-203 一年生草本シロザの繁殖期における炭素・窒素経済と葉の老化 *安村有子(森林総研), 彦坂幸毅(東北大学)

P1-204 天然CO₂噴出地におけるオオイトドリ群落の炭素・窒素動態 *長田典之(東北大・院・生命科学), 小野田雄介(ユトレヒト大), 彦坂幸毅(東北大・院・生命科学)

P1-205 北極の氷河後退域で、植物体中の窒素・炭素同位体比は一定に保たれている *久米篤(富山大・理), 別宮有紀子(都留文科大学), 半場祐子(京都工芸繊維大), 中野隆志(山梨県環境科学研究所), 神田啓史(国立極地研究所)

P1-206# クロマツ旧葉の窒素動態:新葉の展開に果たす役割 *上田実希(京大院・農), 小山里奈(京大院・情報), 徳地直子(京大・フィールド研)

P1-207 冬緑性草本ヒガンバナにおける窒素の動態 *西谷里美(日本医大・生物), 中村敏枝(首都大学東京・生命科学), 可知直毅(首都大学東京・生命科学)

P1-208 小笠原生育樹種の機能タイプと樹幹木部構造との関係 *矢崎健一, 石田厚(森林総研), 中野隆志(山梨環境科学研)

P1-209# 冬季の過剰な光ストレスへの適応が樹木の生活環境に及ぼす影響 *宇梶徳史, 原登志彦(北大・低温研, JST・CREST)

P1-210# 地下水位の変動がウラジロハコヤナギの成長に及ぼす影響について *今田吾吾, 山中典和, 玉井重信(鳥取大・乾燥地研)

P1-211# 前年度の乾燥ストレスがダケカンバの形態と光合成機能に及ぼす影響 *田畑あずさ, 小野清美, 隅田明洋, 原登志彦

P1-212# Seasonal changes in leaf anatomy and photosynthetic nitrogen use efficiency in an evergreen understory shrub

*Onno Muller (Tohoku University), Riichi Oguchi (Tokyo University), Kouki Hikosaka (Tohoku University), Tadaki Hirose (Tokyo University of Agriculture)

P1-213# 異なる標高の湿原植物群集における種間光獲得競争 *神山千穂, 及川真平, 彦坂幸毅

P1-214 苗場山ブナ当年枝の樹皮呼吸速度と樹皮光合成速度の季節変化 *飯尾淳弘(静岡大農), 角張嘉孝(静岡大農)

P1-215 CO₂濃度の変化がポプラの葉の解剖学的特性に与える影響-個体におけるシステム的な制御- 宮沢真一(RITE), N.J.Livingston (Univ. of Victoria)

P1-216 ブナ林の異なる光環境下におけるブナ当年生実生の立ち枯れによる消失過程-病原菌の分離と発病率に関する抵抗要因- *市原 優(森林総研東北), 山路恵子(筑波大院・生命環境)

P1-217 ブナ林の異なる光環境下におけるブナ当年生実生の立ち枯れによる消失過程-病原菌に対する抗菌物質の同定とその変動- *山路恵子(筑波大院・生命環境), 市原優(森林総研東北)

P1-218# 熱帯山地林における葉寿命と個葉特性の多種間比較 *塩寺さとみ(北大・地球環境), 甲山隆司(北大・地球環境)

P1-219 稼がない陽葉・草本40種を用いた解析 岡島有規, 澤上航一郎, *館野正樹(東大・院・理・日光植物園)

P1-220 葉脈遮断および塩化水銀処理した葉の気孔反応 *原山尚徳, 石田厚(森林総研)

P1-221 Effects of submergence with salt water on growth and survival of *T. distichum* seedlings 岩永史子, 山本福壽(鳥取大学湖山町)

P1-222 小笠原における外来樹種アカギの侵入メカニズム-窒素環境変動下の外来種と在来種の応答- *大曾根陽子(森林総研), 矢崎健一(森林総研), 石田厚(森林総研)

P1-223 常緑広葉樹種と落葉樹種の葉展開戦略 *宮沢良行(九大・熱農研), 大槻恭一(九大・演習林)

P1-224 イネ科野生植物のC3/C4分類と日本国内における分布パターンの解析 半場祐子(京都工繊大・生物資源セ), 榎本敬(岡山大・資生研), 小林剛(香川大・農)

P1-225 部分被陰処理が葉の老化に与える影響の生育環境による違い 小野 清美(北大・低温研)

P1-226# 葉の一日光合成量の実測 小山耕平*, 菊沢喜八郎(石川県立大)

P1-227# 枝の位置による繁殖器官への転流パターンの違い 追立浩貴(大阪大・理), 宮坂仁(愛媛大・CMES), 中野伸一(愛媛大・農)

P1-228 根・茎・葉の割合は何によって決まっているか?-実生の場合で考える- 種子田春彦(東大院・理), 大曾根陽子(森林総研), 石田厚(森林総研)

P1-229 光環境計測における感光フィルムの使用可能範囲 *田代直明(九州大・演習林), 小林元(信州大・AFC)

P1-230 択伐後のササ植生に生育するブナ稚樹の樹冠非対称性 八木貴信(森林総研・東北)

P1-231 北米冷温帯針葉樹林の下層におけるツガとモミの共存機構-光獲得と光合成の視点から- 石井弘明・吉村謙一(神大院・自然科学)・E.D. Ford(ワシントン大学・森林資源)

P1-232 鳥取砂丘の植物の生理生態 2. 窒素利用に関して *小山里奈(京大・情報), 山中典和(鳥取大・乾地研), 大手信人(東大・農), 松尾奈緒子(三重大・生物資源), 嶋村鉄也(京大・AA研), 尾坂兼一(京大・農), 小山晋平(京大・農), 徳地直子(京大・フィールド研)

P1-233# 乗鞍岳におけるハイマツの光合成の制限要因 *永野聡一郎(東邦大・院・理), 中野隆志(山梨県・環境研), 久

ポスター発表 3月20日(火)10:30-16:00

(# : ポスター賞対象発表)

保田光政(静岡大・農), 池田武文(京都府大・農), 丸田恵美子(東邦大・理)

- P1-234 CO₂ 噴出地由来のオオバコの成長に対する栄養条件の影響** 中村伊都, 小野田雄介, 彦坂幸毅(東北大・院・生命科学)
- P1-235# 西表島前良川および後良川のマングローブ林の植生帯における窒素利用効率** *浦田悦子(横浜国立大学), 武生雅明(東京農業大学), 藤原一繪(横浜国立大学)
- P1-236# 熱帯樹木の対水ストレス戦略に関する生理生態学的研究** *近藤祥子, 酒井章子(京都大・生態研), 中静透(東北大・生命科学研)
- P1-237 樹木実生の根系発達様式-窒素施肥レベルに対する反応の種間比較-** *藤巻玲路, 酒井暁子, 金子信博(横浜国大・環境情報)
- P1-238 異なる光環境で生育させたアラカシとヒサカキの光合成特性** *石井義朗, 佐川桜子(岡山大院環境), 山田将司(岡山大農), 坂本圭児, 三木直子, 吉川 賢(岡山大院環境)
- P1-239 ダケカンバの葉面積が林分蒸発散量の季節変動に与える影響** *山田雅仁(北大・低温研), Kamil Laska(Masaryk Univ), 中井太郎, 戸田求, 隅田明洋, 原登志彦(北大・低温研)
- P1-240# 分枝と枝通導性の関係** *吉村謙一, 石井弘明(神戸大自然科学)
- P1-241# 常緑樹実生の冬の光合成産物のトレース** 杉浦大輔(東大理), 野口航(東大院理), 寺島一郎(東大院理)
- P1-242# 中国毛烏素沙地に生育する樹木の水分生理特性** *山本牧子, 玉井重信(鳥取大・乾地研), 吉川賢, 三木直子(岡山大・農), 王林和(内蒙古農業大), 山中典和(鳥取大・乾地研)
- P1-243# 「鳥取砂丘の植物の生理生態 1. 水利用: 酸素炭素安定同位体比を用いて」** *小山晋平(京大・農), 松尾奈緒子(三重大・生物資源), 大手信人(東大・農), 小山里奈(京大・情報), 山中典和(鳥取大・乾地研), 尾坂兼一(京大・農), 嶋村鉄也(京大・AA 研), 徳地直子(京大・フィールド研)
- P1-244# ヒノキの光合成・蒸散特性の時空間分布** *高梨聡, 小杉緑子, 松尾奈緒子, 松村光子(京都大・農)
- P1-245 初期定着期の針葉樹実生個体の光合成生産-スギ・アカマツ子葉の光合成能力におよぼす窒素養分の影響-** *白旗 学(岩手大・農), 橋本良二(岩手大・農)
- P1-246 カラマツ壮齢林・幼齢林における連続分光観測とGPPの推定** *中路達郎, 井手玲子(国環研), 高木健太郎(北大), 小熊宏之(国環研)
- P1-247 中国半乾燥地に生育する2種類のヨモギにおける成長と水分生理特性に水ストレスが与える影響** *佐々木梨華(岡山大農), 李佳陶, 三木直子, 石井義朗, 坂本圭児, 吉川賢(岡山大院環境)
- P1-248# 光環境の差異に対するハリギリ稚樹当年シュートの応答** *廣川純也(東農大・院・生物), 鈴木悌司(東農大・生物)
- P1-249 日本産土壌でのクズの生育** *森田沙綾香, 平舘俊太郎, 楠本良延, 山本勝利, 藤井義晴((独)農業環境技術研究所)
- P1-250# 異なる光条件下で生育するアラカシとヒサカキの水分通導機能および気孔応答調節** 小笠真由美, 三木直子, 石井義朗, 坂本圭児, 吉川 賢

ポスター発表 3月21日(水) 10:30-16:00

(#: ポスター賞対象発表)

物質循環・生産

- P2-001** 水田地帯と畜産地帯での余剰養分の発生量と河川水質 *三島慎一郎・神山和則
- P2-002#** Litterfall pattern in a cool temperate forest of central Japan over a ten-year period *Lee, M-S and Koizumi H. (Gifu Univ.)
- P2-003#** サケの死骸が陸上及び水界の落葉分解に与える直接的間接的影響 *河内香織(北海道工業大学), 丹羽慈(横浜国大・環境情報), 柳井清治(北海道工業大学)
- P2-004** 根の呼吸速度の季節変化と日中低下 *別宮(坂田)有紀子(都留文科大学), 坂田 剛(北里大学), 中野隆志(山梨県環境科学研究所)
- P2-005** 風速変動を考慮した落葉散布モデルに関する検証—小川群落保護林の2005年クリ落葉データから— *阿部俊夫, 坂本知己, 壁谷直記, 萩野裕章, 延廣竜彦, 野口宏典, 田中浩
- P2-006** 土壌呼吸のホットスポット—ボルネオ島熱帯林の林床に出没する謎のCO₂発生— *大橋瑞江(Finnish Forest Research Institute), 山根正気(鹿児島大・理), 久米朋宣(九大・農), 片山歩美(九大・農), 鈴木雅一(東大・農)
- P2-007** 流域地形の違いがもたらす森林河川水質の空間分布 *柴田英昭(北海道大), 徐小牛(北海道大), 小川安紀子(地球研), 吉岡崇仁(地球研)
- P2-008#** チベット高山草原の標高傾度に伴うセルロース分解と微小菌類相の関係 白水貴(筑波大院・生命環境), 廣田充(筑波大・菅平高原実験センター), 大塚俊之(茨城大・理), 千賀有希子(立正大・地球環境), 杜明遠(農環研), 下野綾子(国立環境研), 唐艶鴻(国立環境研)
- P2-009#** 都市近郊河川における付着微生物の有機物の生産とDOCの溶出 *四軒家省三, 中坪孝之(広島大・院・生物圏)
- P2-010** 岩手県・安比高原における土壌CO₂フラックスの時間変動 *橋本徹, 三浦寛(森林総研)
- P2-011** 北極の隆起海岸堆積物中に存在する有機炭素とその分解の可能性 *中坪孝之(広島大・院・生物圏), 吉竹晋平(広島大・院・生物圏), 内田雅己(極地研), 内田昌男(JAMSTEC), 小泉博(岐阜大・流域圏)
- P2-012** 南極半島におけるコケリターの分解と微生物バイオマス *内田雅己(極地研), 吉竹晋平(広島大・院・生物圏), Kim Ji Hee (KOPRI), 神田啓史(極地研)
- P2-013#** 高緯度北極陸上生態系の炭素収支過程における維管束植物の役割 *野田響(東大・院・農学生命), 村岡裕由(岐阜大・流域圏センター), 内田雅己(極地研), 中坪孝之(広島大・院・生物圏), 小泉博(岐阜大・流域圏センター)
- P2-014** 中部山岳地帯における生態系機能評価の試み *村岡裕由(岐大・流域圏セ), 吉野純(岐大・工), 斎藤琢, 李美善(岐大・流域圏セ), 牧雅康(京大・工), 児島利治(岐大・流域圏セ), 西田顕郎(筑大・農林工学), 玉川一郎, 秋山侃(岐大・流域圏セ), 安田孝志(岐大・工), 小泉博(岐大・流域圏セ)
- P2-015#** 都市近郊二次林へのモウソウチク侵入に伴う物質循環機構の変化 *小川遼, 福島慶太郎(京大院農), 徳地直子(京大フィールド研)
- P2-016#** 三瓶山の草地管理が土壌炭素分布特性に与える影響 *下田星見, 高橋佳孝(近畿中国四国農研センター)
- P2-017#** 冷温帯落葉広葉樹林におけるN₂Oフラックスの季節変動 *八代裕一郎(岐阜大), 稲富素子(地球フロンティア), 安立美奈子(農環研), 米村正一郎(農環研), 小泉博(岐阜大)
- P2-018#** ススキ草原とアカマツ林の純一次生産量の比較 *木谷好希(筑波大・院・環境科学), 鞠子茂(筑波大・院・構造生命)

- P2-019** 土壌C/Nの操作に対するイタドリ反応 *金子信博, 酒井暁子, 藤巻玲路(横浜国大・環境情報)
- P2-020#** 野外培養装置を用いた底棲藻類の安定同位体比および生産量の推定 大井美沙, 福森香代子(愛媛大・沿岸), 奥田昇(京大・生態研), 小泉喜嗣(愛媛水試), 武岡英隆(愛媛大・沿岸)
- P2-021#** ダケカンバ林床のチシマザサの炭素・水収支の推定と季節変化 *山口貴広, 山田雅仁, 戸田求, 中井太郎, 小野清美, (北大・低温研), 植村滋(北大・フィールド科セ), 隅田明洋, 原登志彦(北大・低温研)
- P2-022#** 二次遷移初期の冷温帯落葉広葉樹林における生態学的手法を用いた炭素動態の解明 *志津庸子, 曾出信宏, 李美善, 西脇愛, 車戸憲二, 小泉博(岐阜大・流域研究センター)
- P2-023#** 温帯湿原(深泥池)における浮島の浮沈と植物種が地下水質に与える影響 *嶋村鉄也(京大院・AA研), 伊藤雅之, 尾坂兼一(京大院・農), 大手信人(東大院・農), 竹門康弘(京大・防災研)
- P2-024#** 食物網は空間的にどこで分かれるのか? プラントン食物網による検証 土居秀幸(University of Washington), Zuykova, E. I. (Siberian Branch of Russian Academy Sciences), 菊地永祐(東北大・東北アジア研), 鹿野秀一(東北大・東北アジア研), Yurlova, N. I. (Siberian Branch of Russian Academy Sciences), Yadrenkina, E. N. (Siberian Branch of Russian Academy Sciences)
- P2-025#** 深泥池浮島湿原の植生とメタン生成の関係 *伊藤雅之(京大・院・農), 嶋村鉄也(京大・院・A・A研), 大手信人(東大・院・農学生命), 竹門康弘(京大・防災研)
- P2-026#** 霧の影響下にある熱帯季節林における物質流入量の評価 *小田智基(東京大), 田中延亮(JST), 鈴木雅一(東京大)
- P2-027** LAIに基づく冷温帯半自然草原のNPP推定 *関川清広, 川尻浩史, 藤島理(玉川大・農), 村岡裕由(岐阜大・流研センター), 西田顕郎(筑波大・農林工学), 鞠子茂(筑波大・院)
- P2-028** 降水量の異なるスギ・ヒノキ林土壌における水溶性物質の存在様式 稲垣善之, 鳥居厚志, 篠宮佳樹
- P2-029#** 選択的呼吸抑制法による土壌の糸状菌と細菌の呼吸割合 喜多智(東農工大・院・農), Cahyono Agus (Gadjah Mada University), 戸田浩人, 生原喜久雄(東農工大・院・農)
- P2-030#** モンゴル下水流入河川における硝化・脱窒の日変化~アイトポマー比による解析~ *眞壁明子(東工大・総理工), 木庭啓介(農工大・共生科学), 陀安一郎(京大・生態研), 高津文人(JST), 伊藤雅之(京大院・農), 由水千景(JST), 小川奈々子, 大河内直彦(海洋開発機構), 豊田栄(東工大・総理工), 吉田高弘(東工大・フロンティア), 永田俊(京大・生態研)
- P2-031#** 熱帯林生態系における樹木実生根の土壌低リン環境に対する適応:形態と酵素活性 *藤木泰斗(京大・農), 北山兼弘(京大・生態研)
- P2-032** 山地源頭溪流における土石流発生履歴と底生動物群集、落葉破碎の関係 *小林草平, 五味高志(京大防災研), 根岸淳二郎(自然共生研)
- P2-033** 日本の4つの異なる生態系における土壌呼吸速度と温度依存性 *安立美奈子(農環研), 稲富素子(地球フロンティア), 八代裕一郎, 菅尚子(岐阜大・流域圏), 根岸正弥(茨城大理学部), 西脇愛, 志津庸子(岐阜大・流域圏), 澤田佳宏(兵庫県立人と自然の博物館), 津田智(岐阜大・流域圏), 大塚俊之(茨城大理学部), 米村正一郎(農環研), 小泉博(岐阜大・流域圏)
- P2-034#** 安定同位体比、放射性同位体比を組み合わせた河川食物網の構造解析~予測と展望~ *石川尚人, 陀安一郎(京大・生態研)

ポスター発表 3月21日(水)10:30-16:00

(# : ポスター賞対象発表)

- P2-035# スギ人工林の成立に伴う窒素収支の変化** 福島慶太郎(京大院・農), 徳地直子(京大フィールド研), 籠野隆之輔(鹿児島・農), 嶋村鉄也(京大アジア・アフリカ研), 勝山正則(地球研)
- P2-036# 安定同位体を用いた土地利用履歴の異なる森林土壌における炭素・窒素動態** *新井宏受(京大院・農), 徳地直子(京大フィールド研), 木庭啓介(農工大・共生)
- P2-037# ミミズの C:N:P 化学量比と生活型との関係** *川口達也, 金子信博, Robert J. Blakemore(横国大院・環境情報), Nikita Eriksen-Hamel (McGill University, CANADA)
- P2-038# 生態系改変者としてのミミズの機能-重金属に対する生態学的可塑性の検討-** *藤井芳一, 金子信博(横国大院・環境情報)
- P2-039 放射性炭素同位体 (¹⁴C) を用いた、土壌圏炭素の平均滞留時間の推定** *大塚俊之(茨城大・理)・内田昌男(海洋研究開発機構)・近藤美由紀(岐阜大・流圏センター)・村山昌平(産総研)・松田あゆり(環境研)・安立美奈子・白戸康人(農環研)・米田穰・柴田康行(環境研)
- P2-040# 富士北麓冷温帯アカマツ林における土壌圏炭素動態** *根岸正弥(茨城大・理・生態), 安立美奈子(農環研), 山口貴広(北大・低温研), 高橋健太, 大塚俊之(茨城大・理・生態)
- P2-041 森林流域から流出する溶存有機物の生成・流出機構** *大塚泉(京大院農), 大手信人(東大院農), 藤本将光, 谷尾陽一, 谷誠(京大院農)
- P2-042# コクワガタ幼虫による腐朽材の炭素・窒素利用** *棚橋薫彦(東大・農)
- P2-043# 東アジア陸域生態系における炭素固定能力-渦相関法によるフラックス観測結果のレビュー-** *加藤知道(JAMSTEC/地球フロンティア)
- P2-044# 根呼吸の貢献度に着目した遷移段階の異なる森林における土壌呼吸速度の空間的不均一性の解明** *高橋健太(茨城大・理), 廣田充(筑波大・生命環境科学), 早瀬進, 根岸正弥, 大塚俊之(茨城大・理)
- P2-045# 北方林における土壌-大気間の温室効果ガスのフラックスとそれに関わる微生物の群集構造(2)** *堤正純, 小島久弥(北大・低温研), 植村滋(北大・北方生物圏フィールド科学センター), 山田雅仁, 隅田明洋, 原登志彦, 福井学(北大・低温研)
- P2-046# 青海・チベット高山草原における CO₂ フラックスの空間変動特性** *廣田充(筑波大・生命環境), 張鵬程(筑波大・生命環境), 古松(中科院・西北高原研究所), 唐艶鴻(国立環境研究所・生物)
- P2-047# アラスカウェットセッジにおけるメタン放出量とその安定同位体比** *鈴木希実(東工大・総理工), 木庭啓介(農工大・農), 松井洋平(OSU・Dept. Geological Sciences), 保原達(酪農学園大・環境システム), Shaver R. Gaius, Giblin Anne (MBL・The Ecosystems Center), 山田桂大(東工大・総理工), 吉田尚弘(東工大・フロンティア)
- P2-048# ボルネオ島熱帯雨林の土壌呼吸 -空間的ばらつき解明への挑戦-** *片山歩美(九大・農), 久米朋宣(九大・農), 大橋瑞江(フィンランド森林研究所), 熊谷朝臣(九大・農), 鈴木雅一(東大院・農), 大槻先生(九大・農)
- P2-049# タイ北部落葉熱帯季節林の土壌呼吸-年々変動の世界記録を更新か!?** *久米朋宣(九大農), 橋本昌司(森林総研), 田中延亮, 吉藤奈津子, 鈴木雅一(東大農)
- P2-050# 河川地形の階層構造に対応した堆積有機物と生産起源の分布動態** *今井義仁(京都大・工), 高津文人(京都大・生態研), 竹門康弘(京都大・防災研), 永田俊(京都大・生態研), 池淵周一(京都大・防災研)
- P2-051# 生態系の飢餓適応** *福井真(東大・広域システム), 嶋田正和(東大・広域システム)

- P2-052# メソコスム水槽におけるアマモの生産量と枯死量** *細川真也(港空研), 中村由行(港空研)
- P2-053 熱帯季節林域における二酸化炭素フラックスの季節変動** *金元植, 間野正美, 横沢正幸(農環研) 小森大輔, 鼎信次郎, 沖大幹(東大・生研)
- P2-054 非同化器官による林冠内の光減衰効果と吸光係数の評価** *千葉幸弘(森林総研), 右田千春(東大院)
- P2-055# 台風攪乱が亜熱帯林の生産量に及ぼす影響** *山田島崇文(鹿大・院・教), 久保田康裕(鹿大・教)
- P2-056# 照葉樹環境保全林における二酸化炭素固定量推定に関する研究** *宮内大策, 藤原一繪(横国大・院・環境情報)
- P2-057# MODIS 画像を使った生態系純生産量のスケールアップ手法の開発** *酒井徹, 粟屋善雄(森林総研), 遠藤貴宏, プラナブ・バルア, 安岡善文(東京大学)
- P2-058 窒素降下物量の増加はモンゴル高原の植生および遊牧にどう影響するか?** *衣笠利彦, 篠田雅人, 恒川篤史(鳥取大・乾地研)
- P2-059 幹材硬度と成長速度を用いた北タイ Doi Suthep 山地林構成樹種の生育特性の解析** *中島弘起, 武田博清(京大・農), スントン・カムヨン(チェンマイ大・農)

- P2-060 チベット高原における標高に伴う開花植物のバイオマスアロケーション** *沈海花(東大・農), 李瑞成(中国科学院), 下野綾子(国立環境研), 古松(中国科学院), 唐艶鴻(国立環境研), 鷲谷いづみ(東大・農)

数理・分子

- P2-061# 2消費者多生産者系における種間競争が多様性-安定性関係に及ぼす影響** *角谷夏子(大阪府大院・理), 難波利幸(大阪府大院・理)
- P2-062# うまい草とまじい草の存在がシカの個体群動態に及ぼす影響** *大野愛子(大阪府大院・理), 難波利幸(大阪府大院・理)
- P2-063 負の密度効果をもつ推移系の局所安定性解析2** 高田壮則, 甲山隆司(北大・地球環境), 中島久男(立命館大・理工)
- P2-064 条件的寄生の動態に関する2重格子モデル** *江副日出夫(大阪府大・理), 平賀裕子(大阪女大・理)
- P2-065 富栄養化の逆説と食物網構造** *舞木昭彦(北海道大学大学院水産科学院), 西村欣也(北海道大学大学院水産科学研究院)
- P2-066 主成分分析と検定** 粕谷英一(九大・理・生物)
- P2-067# 作物の病害規模における圃場サイズ依存性** *鈴木清樹, 佐々木頭(九大・理)
- P2-068 植食の季節性が植物の貯蔵物質の配分と補償成長に及ぼす影響** *林素行(京大生態研), 山内淳
- P2-069# ネムノキマメゾウムシが優位な競争者と共存する条件** *坂田はな(東大・広シ), 石原道博(大府・理), 嶋田正和(東大・広シ)
- P2-070# 侵入と防衛-テリトリー境界線を巡る攻防** *上原隆司(九州大・理), 土畑重人(東京大・広域システム), 巖佐庸(九州大・理)
- P2-071# ミミックの存在はモデルにとって本当に損なのか?** *本間淳(京大院・農・昆虫生態), 高倉耕一(大阪市環境研), 西田隆義(京大院・農・昆虫生態)
- P2-072 ボルネオミツバチ (*Apis koschevnikovi*) の系統地理** *田中洋之(京大・霊長研), 須賀丈(長野県環境保全研), Roubik, D.W. (STRI), Meleng, P., Chong, L. (Sarawak Forestry Corporation)

ポスター発表 3月21日(水)10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

- P2-073** ヒゲナガケンミジンコの個体群遺伝構造と移動分散 牧野渡 (東北大・生命科学)
- P2-074#** オオオサマシ亜属種間における浸透性交雑の制限要因 *長太伸章 (京大・院・理), 久保田耕平 (東京大・院・農), 八尋克郎 (琵琶湖博), 曾田貞滋 (京大・院・理)
- P2-075#** エゾクロテンの糞 DNA を用いた性判定と食性雌雄差 *三好和貴, 杉本太郎, 東正剛
- P2-076** 白樺湖カプトミジンコ (*Daphnia galeata*) 個体群の遺伝的組成 *小林拓, 渋谷浩之, 時下進一 (東薬大・生命), 坂本正樹, 河鎮龍, 花里孝幸 (信州大・山地下水環境教育センター), 太田敏博, 山形秀夫 (東薬大・生命)
- P2-077#** ヒラタシテムシの集団遺伝学的解析 *伊藤紀貴, 小林憲生, 加藤徹, 片倉晴雄 (北大・院理)
- P2-078#** 水生植物ヒルムシロ属における高温ストレス順応性の比較 *天野百々江 (神戸大・自然科学研究科), 飯田聡子, 岩崎 哲史, 深見泰夫, 乾秀之, 小菅桂子 (神戸大・遺伝子実験センター)
- P2-079#** サクラマスの遺伝構造解析-移動・分散に雌雄差はあるのか- *北西滋 (北大・院・地球環境), 山本俊昭 (日本獣医畜産大学), 東正剛 (北大・院・地球環境)
- 遷移・更新**
- P2-080** 林床土壌ブロックから発芽した先駆木本樹種の実生の動態:外挿すると見えること *竹中明夫 (国立環境研), 矢原徹一 (九州大)
- P2-081** カラマツ高齢人工林を構成する高木種個体群の構造と動態 長池卓男 (山梨県森林研), 高野瀬洋一郎 (新潟大)
- P2-082** 大台ヶ原の衰退林における防鹿柵がトウヒ稚樹の生残と成長に及ぼす影響 *木佐貫博光, 中井亜理沙, 灘本明子, 林佐智子, 脇野雅子 (三重大生資)
- P2-083** 北海道北部のササかき起こし地における炭素貯留量の時系列的な変化 *青山圭一 (北大・院・環境), 吉田俊也 (北大・北方生物圏フィールドセ)
- P2-084#** 倒木上でのエゾマツおよびトドマツの発芽に倒木上の環境条件が与える影響 *飯島勇人, 渋谷正人 (北大院農)
- P2-085** 東讃地域の里山におけるモウソクチク侵入林の構造と動態 *小林 剛, 幸喜章朗, 山本 新, 澤木祐作, 吉本敬史, 杉原ちさと, 宗本一平, 高橋美登, 石田智之 (香大・農)
- P2-086** 洞爺丸台風による風倒攪乱後 50 年間の森林動態 *石橋聰, 高橋正義 (森林総研北海道), 鷹尾元 (森林総研)
- P2-087** 照葉樹天然林における下層群集の構造と動態 *真鍋 徹 (北九州自・歴博), 西村尚之 (名古屋産業大・環境情報), 山本進一 (名古屋大・生命農学)
- P2-088#** 四国・大野ヶ原におけるブナとウラジロモミの個体群構造 *神岡新也, 二宮生夫, 百瀬邦泰 (愛媛大・農)
- P2-089#** ケヤキ天然集団における当年生実生の動態:発生と生存に及ぼす要因は何か? *岩泉正和, 高橋誠, 矢野慶介, 小野雅子, 久保田正裕, 宮本尚子 (林木育種センター), 生方正俊 (JICA)
- P2-090** 岡山県毛無山におけるブナ実生の 10 年間の変遷と光環境 西本 孝 (岡山県自然保護センター)
- P2-091#** 三宅島 2000 年噴火後 6 年間の植生変化 *川越みなみ (筑波大・生物資源), 上條隆志 (筑波大・生命環境), 樋口広芳 (東京大・農学生命科学), 加藤拓 (茨城県農業総合センター)
- P2-092** 湧水湿地におけるハンモック上植物群集の構造と動態 *肥後睦輝, 川井 武, 中村朱芳
- P2-093#** ギャップサイズの違いが土壌栄養塩と植物を介して植食者に及ぼす影響 * 川瀬 悟 (北大・苫小牧研究林), 日浦勉 (北大・苫小牧研究林)
- P2-094#** 森林帯の境界域における優占樹種ブナの更新セーフサイトの出現とその貢献度 *小林誠, 甲山隆司 (北大・環境科学), 松井哲哉 (森林総研・北海道)
- P2-095** 三宅島 2000 年噴火後に増加した植物について *上條隆志 (筑波大学生命環境), 星野義延 (東京農工大学農学部), 樋口広芳 (東京大学農学生命)
- P2-096** ヒノキ人工林下層における広葉樹の空間分布に影響する要因 *島田博匡, 野々田稔郎 (三重県科技セ・林)
- P2-097#** 奈良県御蓋山における森林構造の 13 年間の変化 塩見修平, 名波哲, 伊東明, 山倉拓夫 (大阪市立大学・院理)
- P2-098#** 泥炭採掘跡地における植物定着に対する谷地坊主の効果 *小山明日香 (北大・環境科学院), 露崎史朗
- P2-099** 石狩浜の海岸植物衰退をもたらす要因 -海岸植物の分布と砂の移動量との関係- *鳥村崇志 (道環境科学研究センター), 宮木雅美 (道環境科学研究センター), 濱田誠一 (道立地質研究所), 西川洋子 (道環境科学研究センター)
- P2-100#** リュウキュウマツ植林が亜熱帯性常緑照葉樹林の再生過程に及ぼす影響 *大迫武治 (鹿大・教), 久保田康裕 (鹿大・教)
- P2-101** 北海道駒ヶ岳に更新したカラマツ稚樹の動態 香山雅純 (森林総研九州), 曲 来葉 (北大北方生物圏セ), 赤坂宗光 (国環研), 小池孝良 (北大農)
- P2-102#** 同種成木下における病原菌による実生の高い死亡率 -落葉広葉樹 3 種の植替え試験- 山崎実希 (東北大院・農), 岩本晋 (協和発酵工業), 市原優 (森林総研東北), 清和研二 (東北大院・農)
- P2-103** 滋賀県近江八幡市奥島山におけるニホンイノシシ (*Sus scrofa leucomystax*) が実生の生残に与える影響 *大饗嘉子・萩原久子 (滋賀県立大・院), 近雅博 (滋賀県立大学), 野間直彦 (滋賀県立大学)
- P2-104** 亜高山帯針葉樹林におけるアカエゾマツ個体群の直径成長量の時空間的变化 *北村知洋, 長谷川成明, 甲山隆司 (北大・院・地球環境)
- P2-105#** 岡山県南部におけるシイノキ稚樹の生育環境 *位田真弓 (岡山理大院・総情・生地), 波田善夫 (岡山理大院・総情・生地)
- P2-106#** 岡山市北部における 20 年間の森林植生の変化 *石川 笑子 (岡山理大院・総情・生地), 波田 善夫 (岡山理大・総情・生地)
- P2-107#** 火入れ地における燃焼温度と地形が植生分布に与える影響 *菅原敬 (鳥取大・院・農), 佐野淳之 (鳥取大・農・FSC)
- P2-108#** アカマツ林伐採跡地における異なった地表処理後の樹木の更新様式 *ハ斯其木格 (鳥取大・院・農), 佐野淳之 (鳥取大・農・FSC)
- P2-109** 大森岳照葉樹林域の自然林と人工林に出現する樹種の特性 *井上章子 (東大院・新領域), 大澤雅彦 (東大院・新領域)
- P2-110** シカ生息地におけるヒノキ人工林の強度間伐が林床植物の発生に及ぼす影響 渡部晃臣 (愛媛大・農), *稲田哲治, 中岡圭一, 武智正典 (愛媛県・林技), 二宮生夫 (愛媛大・農)
- P2-111#** サロベツ湿原に侵入するチマキザサの形態 *藤村善安, 富士田裕子 (北大植物園)
- P2-112#** 140 年生スギ人工林における広葉樹の空間分布に与える地形とスギの影響 *井上貴文, 楠本聞太郎 (九州大・生物資源), 長慶一郎, 山内康平, 鍛治清弘, 椎康康喜, 井上一信, 作田耕太郎, 田代直明, 榎木勉, 井上晋 (九州大・農)
- P2-113#** イヌブナの堅果及び実生の生残過程 *石塚航, 梶幹男, 澤田晴雄 (東大・演習林)

ポスター発表 3月21日(水) 10:30-16:00

(# : ポスター賞対象発表)

P2-114# 生活史段階ごとの樹木の分布パターンと環境条件との関係 * 畑尚子 (東大・農・森園管理), 正木隆 (森林総研), 齊藤陽子, 井出雄二 (東大・農・森園管理)

P2-115# 冷温帯における二次遷移に伴う森林植生の変化 * 早瀬進 (茨城大・理), 廣田充 (筑波大・生命環境科学研究科), 山中史江 (筑波大・菅平高原実験センター), 大塚俊之 (茨城大・理)

P2-116# Abies はサバを読む? 亜高山帯林における針葉樹実生の年齢推定とアロケーションパターン 土井 裕介 (京大・農), 森 章 (サイモンフレーザー大), 武田 博清 (京大・農)

群 落

P2-117 湿原における植物群落への木道設置の影響 (土壌の理化学的の検討を含めて) 小林祥子 (宇大・農), 広木幹也 (国環研), 谷本丈夫 (宇大・農)

P2-118# 河川高水敷の植物分布 - 洪水攪乱体制を決定する地形的要因 - * 石田真也 (新潟大・自然科学), 権田豊, 紙谷智彦 (新潟大・農)

P2-119# 海岸砂丘における植生の発達に伴う土壌微生物群集の変化: リン脂質脂肪酸を指標として * 吉竹晋平, 中坪孝之 (広島大・院・生物圏)

P2-120# 釧路湿原ハンノキ林の分布・動態・更新 #2 シュートの成長パターンと群落の空間構造 * 松本隆史 (北大・環境科学), 植村滋 (北大・フィールド科学センター), 矢部和夫 (札幌市大・デザイン), 中村隆俊 (東農大・生物産業), 高田恵利 (北大・農)

P2-121 釧路湿原ハンノキ林の分布・動態・更新 #1 ハンノキ林の分布と立地環境 * 植村滋 (北大・フィールド科学センター), 中村隆俊 (東農大・生物産業), 矢部和夫 (札幌市大・デザイン), 山田浩之 (北大・農)

P2-122 釧路湿原ハンノキ林の分布・動態・更新 #4 実生による更新は可能か? * 中村隆俊 (東農大・生物産業), 植村滋 (北大・FSC), 矢部和夫 (札幌市立大・デザイン), 高田恵利 (北大・農), 山田浩之 (北大・農)

P2-123 釧路湿原ハンノキ林の分布・動態・更新 #3 ハンノキの形・現存量・年輪成長と立地環境 * 矢部和夫 (札幌市立大・デザイン), 中村隆俊 (東京農大・生物産業), 植村滋 (北大・北方生物圏), 石川幸男 (専修短大・みどり), 山田浩之 (北大・院・農)

P2-124 水位の異なる休耕田に出現した植物種 * 紙谷智彦 (新潟大・農), 石田真也 (新潟大・院・自然科学研究科), 久原泰雅 (新潟県立植物園)

P2-125 半自然草地における刈り取り処理の違いによるオオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* 侵入群落の構造変化 * 斎藤達也 (信州大・院・農), 大窪久美子 (信州大・農)

P2-126 北海道に分布するコナラ優占林の種組成と立地環境 * 並川寛司, 小田若菜 (北教大・札幌・生物)

P2-127# 北海道胆振地方のコナラ優占林における林分構造の南北斜面間の差異 * 中山俊聡, 並川寛司 (北教大・札幌・生物)

P2-128# モンゴル草原・内モンゴルフロンバイル草原の植物種組成 * 黒須 麻由 (筑波大・院・生命環境), 川田 清和 (農業環境技術研究所), 林 一六, 烏云娜 (大連民族学院), T. Tsundeekhoo (National University of Mongolia), 中村 徹 (筑波大・院・生命環境)

P2-129 日本の半陰地生 1 年草群落について 村上雄秀 (国際生態学センター)

P2-130# 尾瀬ヶ原湿原の 35 年間における種組成変化と環境要因の解明 * 森井悠 (横国大・地), 藤原一繪

P2-131 異なる伐採強度が熱帯低地林の種多様性と林分構造に与える影響 - マレーシアサバ州テラマコットの事例 * 今井伸夫, 北山兼弘 (京大生態研セ)

P2-132 皇居外苑牛ヶ淵における抽水植物の分布と水深 * 井上智美, 野原精一 (国立環境研究所), 土谷岳令 (千葉大学)

P2-133 北関東における湿原植生の類型と分布 * 鈴木伸一 (国際生態学セ), 吉井広始 (高経大付属高校), 片野光一 (群馬県立館林女子高校), 大森威宏 (群馬県立自然史博物館)

P2-134# 野辺山高原におけるサクラソウ湿生群落と乾生群落との種組成および構造比較2 * 花岡若奈 (信州大・院・農), 大窪久美子 (信州大・農)

P2-135# 広島県竹原市におけるモウソウチクの侵入と植生構造の関係 * 鈴木重雄, 中越信和 (広島大・国際協力)

P2-136# 都市近郊二次林における 20 年間での植生変化 - 丘陵地と平地の比較 - * 大場健太郎, 星野義延, 永嶋幸夫, 松田梨香 (東京農工大・農)

P2-137 広島県北部の冷温帯域における放棄水田の植生 佐久間智子 (中外テクノス (株))

P2-138# ケニア共和国中央丘陵・山地部における植生生態学的研究 * 古川拓哉, 藤原一繪 (横国大院・環境情報), Simon Mathenge, Samuel Kiboi (Univ. of Nairobi), 宮脇昭 (国際生態学センター)

P2-139 東北地方中部沿岸から内陸地域におけるブナ優占型林分の組成と構造 * 富田瑞樹 (東京情報大), 平吹喜彦 (東北学院大), 原正利 (千葉中央博), 菅野洋 ((株)宮城環境保全研究所), 櫻井悠 (岩手大院), 竹原明秀 (岩手大)

P2-140 分布北限域におけるイヌブナの分布と規定要因 * 原正利 (千葉中央博)・関剛 (森林総研・東北)・小澤洋一 (岩手県環境保健研究センター)・鈴木まほろ (岩手県博)

P2-141# 本州中北部のコナラ河畔林の組成的特徴 野田浩 (東京農工大・院・連農), 吉川正人, 福嶋司 (東京農工大)

P2-142 多雪環境下における樹木の力学的特性 * 目黒伸一, 鈴木伸一, 林寿則

P2-143 粗朶生産地における林分構造の変化と林床植物の多様性 * 箕口秀夫, 西脇護 (新潟大・農)

P2-144 伊豆諸島利島の風衝面における種組成と構造、種多様性の垂直変化 * 小嶋紀行 (横国大院・環境情報), 藤原一繪

P2-145 沖縄ヤンバルの天然林除伐後の植生一育成天然林施業と群集構造 - * 阿部真, 田内裕之 (森林総研), 佐藤大樹 (森林総研九州)

P2-146 ヤクスギの樹高決定に台風が及ぼす影響 * 高嶋敦史 (琉球大・農), 久米篤 (富山大・理), 吉田茂二郎, 村上拓彦, 溝上展也 (九州大・農)

P2-147# モンゴルの放牧地生態系における放牧傾度に沿った植物群落の閾値的な変化 * 佐々木雄大, 岡安智生, ジャムスランウンダルマ, 武内和彦

P2-148# 東京湾小櫃川河口干潟におけるアイアシとヨシの生長とフェノロジー * 小田倉碧 (国環研・生物), 矢部徹, 野原精一, 金子是久 (日本生態系協会)

P2-149# 宮古市十二神山における夏緑広葉樹自然林の林分構造 * 櫻井悠 (岩手大院), 竹原明秀 (岩手大), 富田瑞樹 (東京情報大)

種子散布

P2-150# 小笠原諸島母島における木本種の種子散布距離 * 深澤圭太, 小池文人 (横浜国大・環境情報), 田中信行 (森林総研)

P2-151# タイ国カオヤイ国立公園におけるアジアゾウの果

ポスター発表 3月21日(水) 10:30-16:00

(#: ポスター賞対象発表)

実食と種子散布: アジアゾウ散布植物はあるのか? *北村俊平(立教大学・理), 湯本貴和(総合地球環境学研究所), Pilai Poonswad(マヒドン大学・理), Prawat Wohandee(タイ王立森林局)

P2-152# 里山林に生育する低木性鳥散布植物の果実の成分分析 *田中 美那, 木村 和也, 木下 栄一郎, 田崎 和江(金沢大学)

P2-153 北海道北部の針広混交林における林内落下種子の空間パターン *吉田俊也, 植村滋(北大・北方生物圏フィールドセ)

P2-154# 異なる季節に結実するサクラ属2種の種子散布パターン~鳥による果実持ち去り率と種子散布距離の比較 *澤 綾子(筑波大・生物), 正木 隆(森林総研), 直江将司(京大・生態研センター), 鞠子 茂(筑波大・生命環境)

P2-155# ツキノワグマはいつ果実を食べる? ヤマザクラ果実の成熟過程とツキノワグマの採食時期の関係 *小池伸介, 葛西真輔(東京農工大・農), 山崎晃司(茨城県自然博), 古林賢恒(東京農工大・農)

P2-156 綾羅葉樹林における鳥散布シードレインの偏在性と年変動 *小南陽亮(静岡大・教育)

P2-157 滋賀県ニホンザルのフン散布におけるフンチュウの二次散布 *山中みのり(滋賀県大院・環境科学), 近雅博(滋賀県大院・環境科学), 野間直彦(滋賀県大院・環境科学)

P2-158# 熱帯の多肉果植物と鳥の分析 *鴨井環(愛媛大・農), Oswald Braken(Sarawak Forestry Corporation), 百瀬邦泰(愛媛大・農)

P2-159# アカネズミの個体群構造がドングリの貯食型散布に与える影響 岡怜奈(新潟大学院自然科学), 箕口秀夫(新潟大学農)

P2-160# 谷津田小河川の堆積物に含まれる植物種子の分布特性 *伊藤浩二, 加藤和弘(東大院・農・緑地植物実験所)

P2-161 ニホンザルによる種子散布過程における種子破壊率の推定 大谷達也(森林総研九州)

P2-162 垂直風洞を用いて計測した風散布植物 30 種の散布体特性 *市河三英(自然研), 斎藤茂勝, 三村昌史, 川瀬恵一, 酒井敦(国際農水研), 倉本恵生(森林総研), 杉本剛(神奈川大工)

P2-163 垂直風洞を用いて計測したトネリコ属翼果の二重回転 斎藤茂勝(自然研), 市河三英, 川瀬恵一, 三村昌史, 酒井敦(国際農水研), 倉本恵生(森林総研), 杉本剛(神奈川大工)

P2-164# タイの湿潤常緑林の林床と林冠における果実食物による果実選択の違い *鈴木俊介(滋賀県大), 北村俊平(立教大), 近雅博(滋賀県大), 湯本貴和(総合地球研), Pilai Poonswad(マヒドン大), Phitaya Chuailua, Kamol Plongmai(サイチョウプロジェクト), 丸橋珠樹(武蔵大), 野間直彦(滋賀県大), Prawat Wohandee(タイ王立森林局)

P2-165 果実食鳥類の地域的分布は森林の果実生産に対応しているか? ~北陸版みのりプロジェクトからの報告 ~ *木村一也(金大・自然計測セ), 田辺慎一(里山科学館キョロロ), 中村浩二(金大・自然計測セ)

P2-166# 河川によるサワグルミ種子の散布と実生の定着 *五十嵐知宏, 上野直人, 清和研二(東北大・農)

P2-167# コシキソウのアリによる種子散布における種子捕食者の影響 *大西義浩(鹿児島大院・連合農), 鈴木信彦(佐賀大・農)

P2-168# 散布前の虫害がコナラ種子のタンニン含有率に及ぼす影響 *高橋明子(京大院・農), 島田卓哉(森林総研・東北)

P2-169 (キャンセル)

P2-170 北極氷河後退域におけるオオツボゴケ科蘚類(糞ゴケ)の胞子散布 *上野健(極地研), 有川智己(慶応大・

生物), 内田雅己(極地研), 伊村智(極地研), 神田啓史(極地研)

P2-171# 低頻度出現樹種カツラの長距離種子散布 *住吉千夏子(広島大学総合科学部), *後藤晋(東京大学), *佐藤匠, *井鷲裕司(京都大学農学研究科)

菌類・微生物・都市

P2-172# 喧嘩の効果~菌類による小枝分解における菌種間相互作用の影響~ 深澤遊, 大園享司, 武田博清(京大・農)

P2-173 アカマツ腐朽木に発生する変形菌の季節性 *高橋和成, 波田善夫

P2-174 菌類子実体の発生地形特性 辻野亮(地球研), 佐藤博俊(京大), 今村彰生(京都学園大), 湯本貴和(地球研)

P2-175# 冷温帯林における外生菌根菌の多様性・宿主特異性と実生の菌根形成 *石田孝英, 奈良一秀, 寶月岱造

P2-176# 瀬戸内海島嶼における変形菌類の生態 原紺勇一(基町高・九州大学院)

P2-177# 熱帯山地林内で樹種依存的に形成される土壤微生物群集の構造と土壤酵素活性 *潮雅之, 和穎朗太, 北山兼弘(京大・生態研)

P2-178 北海道北部に発達した湿原の泥炭層にみられる微生物群集の分布特性 *秋山 克, 清水 了, 石島 洋二(幌延地圏環境研究所), 長沼 毅(広島大・生物圏科学)

P2-179# 熱帯天然林生態系における土壤鉱物と有機物資源が支配する微生物群集の構造 *和穎朗太(京大・生態研), 北山兼弘(京大・生態研), 里村多香美(北大・北方生物圏フィールド科学センター), T. Balsler(University of Wisconsin-Madison, USA)

P2-180 孤立度によって変化する都市森林の中型哺乳類相 *石田 惣(大阪市立自然史博), 内藤由香子(福井市自然史博)

P2-181 都市緑地におけるノウサギの生息可否の決定要因 斎藤昌幸, 小池文人(横浜国大・環境情報)

P2-182# 都市と郊外における社寺林の変化 *窪山恵美, 藤原一繪

P2-183# 生物の安定同位体比と地域環境要因の関連性 *馬谷原武之(日本大院・生物資源科学), 河野英一, 笹田勝寛, 宮地俊作(日本大・生物資源科学)

P2-184# Population genetic structure of three damselfly species in a fragmented urban landscape *佐藤真弓(京大・生態研), 椿宜高(京大・生態研), 遊磨正秀(龍谷大・理工), 神松幸弘(地球研)

P2-185 松木日向緑地ガイドブック製作プロジェクト *伊藤兼敏, 小林まや, 松田尚子

行動・社会生態

P2-186# カタツムリによる対へび専用防衛 細将貴, 堀道雄(京大・理)

P2-187 ジュウイチの雛による宿主操作: 宿主は雛の数を認識しているのか? *田中 啓太(立教大院・理・生命理学/学振PD), 森本 元(立教大院・理・生命理学), 上田 恵介(立教大・理・生命理学)

P2-188# 同一の捕食者由来の異なる化学物質は被食者2種の類似した対捕食者行動を誘導する *高原輝彦(京工繊大院・工芸科学), 神松幸弘(地球研), 山岡亮平(京工繊大院・工芸科学)

P2-189# アメンボの産卵に卵寄生蜂が与える影響 *平山寛之(九大・理・生態), 粕谷英一(九大・理・生態)

P2-190 東アジア及び南西太平洋のウグイス属のさえずり

ポスター発表 3月21日(水)10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

- 構造と系統 *濱尾章二(国立科博・自然教育園), Maria J. S. Veluz (Natl. Mus. Philippines), 西海 功(国立科博・動物研究部)
- P2-191# アユの縄張りにおける形成と崩壊のずれ違い *田中裕美, 中桐斉之(兵庫県立大・環境人間), 泰中啓一, 吉村仁(静岡大・創造科学技術院)
- P2-192 マングローブ林性昆虫の体内時計を使った潮サイクルへの適応 佐藤綾(琉球大・理)
- P2-193# 屋久島ニホンザル三群の行動比較 早石周平(琉球大・教育セ)
- P2-194# 盗み寄生者チリソウワグモにおける脚長の地理的変異: クサグモ利用個体群の脚はなぜ短い? *馬場友希(東大院・農・生物多様性科学), 宮下直(東大院・農・生物多様性科学)
- P2-195 シロチドリ採餌速度: 昼夜・岸沖・温度・風・干出時間の影響 桑江朝比呂(港空研)
- P2-196# 屋久島に生息するニホンザル (*Macaca fuscata yakui*) における採食樹の選択 西川真理(京都大学・理)
- P2-197 ハゼ科魚類ヌマチチブの雄の性的形質と寄生虫及び雄性ホルモンとの関係 *高橋大輔(京都大・理), 三浦猛, 山口園子(愛媛大・農), 田川正明(京都大・農)
- P2-198 カツオドリ幼鳥の独立期における飛翔行動と利用海域 *菅原光(東海大・海), 河野裕美(東海大・沖縄セ), 依田憲(カリフォルニア大)
- P2-199 飼育飼料の質の変化に伴うニホンジカのルーメン状態の変化が植物選択性に与える影響 *及川真里亜(東京農工大・院), 時田昇臣(日本獣医生命科学大・応用生命), 古林賢恒(東京農工大・自然環境保全), 吉田洋(山梨県環境科学研究所)
- P2-200 *Bactrothrips brevitubus* における母性効果について *柴田智広, 土田浩治(岐阜大・応用生物), Brenda D.Kranz (Adelaide 大)
- P2-201# ノネコは誰と親しい? -行動圏と血縁関係に着目して- *降旗初佳, 布施名利子, 粕谷英一(九大・理・生態)
- P2-202 マングローブ干潟におけるヘナタリのサイズ頻度分布の季節変化 *平田今日子(鹿児島大学理学部多様性生物), 富山清升(鹿児島大学理学部多様性生物)
- P2-203 海底中層か: アカウミガメ雌成体の代替採餌行動 *畑瀬英男(東大・海洋研), 大牟田一美(屋久島うみがめ館), 塚本勝巳(東大・海洋研)
- P2-204 冬季から繁殖期にかけてのヒヨドリの行動圏について 山口恭弘(中央農研・鳥獣害研)
- P2-205# ヤモリ類の社会行動にみられる視覚利用 池内敢(京大・理・動物)
- P2-206 ベニシジミの静止時の翅の開き方に対する他個体の接近の影響 井出純哉(京大・農)
- P2-207# 貝に卵をあずける魚, ビワヒガイの宿主利用パターンは最適か? 小宮竹史(京都大・院理・動物生態)
- P2-208 長野県上伊那地方の中山間地水田地域におけるマユタテアカネの行動パターンと環境との関係 *九鬼なお子(信州大院・農), 大窪久美子(信州大・農)
- P2-209# 断続的に産卵を行なうアオモンイトトンボの雌が受ける性的干渉 *高橋佑磨, 渡辺 守(筑波大・院・生命環境)
- P2-210# 左右性が魚類の捕食に及ぼす効果: 捕食行動・回避行動に見られる左右非対称性 *八杉公基, 堀道雄(京大院・理)
- P2-211 カクレクマノミ幼魚群における優劣関係の出現と成長パターンの比較 *松本浩司・田坂恵美・合田幸司(愛媛県立長浜高校)・服部昭尚(滋賀大・教育)
- P2-212# 局所情報が生成する理想自由分布: ニューラルネットを用いた採餌行動 *堀部直人(東大・総文), 嶋田正和(東大・総文)
- P2-213 捕食リスク認知がクモの造網行動に与える影響 中田兼介(東京経済大)
- P2-214# マルハナバチの餌選択における他個体の情報的利用~類は友を呼ぶ? *川口利奈, 大橋一晴, 徳永幸彦(筑波大・生命環境科学)
- P2-215# 赤外線センサーカメラを用いたニホンアナグマの糞場の利用パターン *白枝直子, 河野かつら, 矢原徹一(九大・理)
- P2-216# トビケラの巣づくり行動 *岡野淳一(東北大・院生命), 菊地永祐(東北大・東北アジア研究セ)
- P2-217# ツキノワグマの食物資源としてのヒノキ内樹皮の評価 *山田亜希美(筑波大学), 藤岡正博(筑波大学・井川演習林)
- P2-218 ハダニの雌は欲張り? *奥 圭子(岡大院・環境・進化生態)
- P2-219# モンキチョウの雄における求愛活動の日周性 *入江菫子(筑波大・生物科学), 高松あずさ(東京農大・地域環境科学), 渡辺 守(筑波大・生物科学)
- P2-220# 野外で寄生蜂は寄主の質を識別するのか? -既寄生寄主への産卵回避行動の推定- *水谷杏子, 楠田尚史, 仲島義貴(帯広畜産大学・総合環境科学)
- P2-221# 交尾中のアジアイトトンボの雌体内における精子数の変動 *田島裕介, 渡辺 守(筑波大・院・生命共存)
- P2-222# 同時雌雄同体の交尾中隔離のプロセスとメカニズム *杉 緑(信州大・理), 浅見 崇比呂
- P2-223# 低酸素条件に対する魚類の反応 *浅原宏子, 佐原雄二(弘前大・農生)
- P2-224 アジメドジョウ底質選択の季節変化 *平松和也(大阪総技セ), 細谷和海(近大・農)
- P2-225# DNA 親子解析によるクラカオスズメダイのメス擬態型スニーキング効果の解明 *佐川鉄平(琉球大院・理工), 中尾芳典(琉球大・理), 桑村哲生(中京大・教養)
- P2-226# 伊豆諸島産アカネズミのオニグルミ種子に対する選好性 *武智玲奈, 林 文男(首都大・理工・生命科学)
- P2-227# ルリビタキのオス羽色二型に対するメスの選好性 *森本元(立教大・院理・生命), 上田恵介(立教大・理・生命)
- P2-228 オタマジャクシの対捕食者行動を誘導する物質について *道前洋史(北海道大学先端生命科学研究院), 岸田治(北海道大学水産学研究所), 高谷真琴(総合商研株式会社), 西村欣也(北海道大学水産学研究所)
- P2-229# アワノメイガのメスはオスの求愛歌とコウモリの反響定位音を識別するか *中野亮, 石川幸男, 田付貞洋(東大院・農学生命), Skals, N. Surlykke, A. (南デンマーク大), 高梨琢磨(森林総研)
- P2-230 溜池における繁殖期のヨシゴイの採餌生態 *南保重哉, 佐原雄二(弘前大・農学生命)
- P2-231# 潮間帯笠貝 *Patelloida* における生態的・形態的分化 *中井静子, 三浦取, 牧雅之, 千葉聡(東北大・生命科学)
- P2-232# ハラスメントのコストと雌の複数回交尾戦略 *桜井玄(九大・生物), 粕谷英一(九大・生物)
- P2-233 (キャンセル)
- P2-234# コバネヒョウタンナガカメムシ単独雄による交尾対妨害の意義 *日室千尋, 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
- P2-235 長野県伊那盆地におけるダルマガエルの冬眠状況

ポスター発表 3月21日(水)10:30-16:00

(#:ポスター賞対象発表)

*水野敦(信大院・農),大窪久美子(信大・農),澤島拓夫(当
間高原リゾート)

- P2-236# 病原菌接種下におけるトビイロケアリのグルーミング行動** *奥野正樹, 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態), 辻和希(琉球大・農)
- P2-237# インゲンゾウムシの資源開拓における親子間対立**
*石田健太郎(筑波大・生命共存), 徳永幸彦(筑波大・生命共存)
- P2-238 巻貝を主食とするオサムシの形態分化機構** 小沼順二(東北大・生命)
- P2-239# Host tasting in *Dinarmus basalis*?** *中村智(筑波大・生命共存), 徳永幸彦(筑波大・生命共存)
- P2-240 セミの鳴き音の音響解析** 遠藤暢(京大・農・森林生態)
- P2-241 ツバメの性選択における尾羽とさえずりの複合的機能** *北高幸恵, 藤田剛, 樋口広芳(東大・農・生物多様性)
- P2-242# 地理的モザイク構造をみせる警告シグナルの変異**
持田浩治(京大・理・動物行動)
- P2-243 巣穴構造は採餌によってどのように影響を受けるのか?** 遠藤千尋(京大・理・動物生態)
- P2-244# オガサワラオオコウモリ *Pteropus pselaphon* の少数のオスのみがメスのコウモリダンゴを独占する** *杉田典正(立教大院・理), 上田恵介(立教大・理)
- P2-245 ゴイサギの採食場所利用 ~日周変動の視点から~**
遠藤菜緒子(立教大学・院・理)
- P2-246 効用関数に基づいた戦略の適応的意義** *中山新一朗(東大・理), 堀部直人(東大・総文)
- P2-247# 金華山島のニホンザルにおける、群れの広がりと言声の関連** *下岡ゆき子・杉浦秀樹(京都大・理)・辻大和(東京大・農)
- P2-248 攻撃刺激物の色がオオスズメバチの攻撃行動に与える影響** *野原翔, 小島純一
- P2-249# シロオビアゲハにおけるベイツ型擬態と性淘汰のコスト** 畑野 俊貴(琉球大学農学研究科)
- P2-250# オンブバッタの体色と生息場所の雌雄差** *田中陽介, 小島純一(茨城大・理)
- P2-251# Oviposition delay breaks scramble competition in *Callosobruchus maculatus*** *真野 浩行, 徳永 幸彦(筑波大学・生命共存)
- P2-252# アカネズミ雌のなわばり獲得における母親の影響**
坂本信介(都立大・院・理)
- P2-253# 7287 アミアリ種内分子系統から見る社会寄生の進化** *森英章(東北大・生命科学), 長谷川英祐(北海道大・農), 辻和希(琉球大・農), 千葉聡(東北大・生命科学)
- P2-254# 霊長類における繁殖の偏りと性感染症の伝播**
沓掛展之(理化学研究所・脳科学), Charlie L Nunn (Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology)
- P2-255# 社会性アブラムシにおける階級分化の調節機構**
*植松圭吾(東大院・広域システム)・沓掛磨也子(産総研・生物機能工学)・深津武馬(産総研・生物機能工学)・柴尾晴信(東大院・広域システム)・嶋田正和(東大院・広域システム)

ポスター発表 3月22日(木) 10:30-16:00

(#: ポスター賞対象発表)

動物群集

- P3-001# ヒトクチタケにおける食菌性昆虫群集の空間構造**
*門脇浩明, 西田隆義 (京大農・昆虫)
- P3-002 小笠原父島における捕食性陸生プラナリアの有無と土壌動物群集構造**
*長谷川元洋 (森林総研・木曾), 杉浦真治 (森林総研), 伊藤雅道, 八巻明香 (横浜国大) 大河内勇 (森林総研)
- P3-003# キノコ食ショウジョウバエ類のセンチュウによる寄生**
萬屋 宏 (北大・低温研)
- P3-004# ハラタケ目子実体の種類と発達段階が菌食性昆虫群集の構成に及ぼす影響**
*山下 聡 (名古屋大), 肘井直樹 (名古屋大)
- P3-005 本流における底性生物群集の時空間的分布パターンと支流における底性生物群集との関係**
*吉村真由美 (森林総合研究所・関西支所)
- P3-006# シカがササに生息するタマバエに及ぼす間接効果: 産卵・ゴール形成・適応度への影響**
田淵 研, 尾崎研一, 上田明良, 日野輝明 (学振 PD/ 森林総研北海道, 森林総研, 森林総研北海道, 森林総研関西)
- P3-007 離島産アカネズミの寄生線虫相を GIS と多変量解析により眺める (予報)**
坂田金正 1, 金子正美 2, 横畑泰志 3, 長 雄一 4, *浅川満彦 1 (1 酪農大・獣医, 2 同・環境システム, 3 富山大・理, 4 北海道環境科学研究センター)
- P3-008# 礁斜面と礁原に生息する造礁サンゴ群体の空間分布**
*中村隆志, 中森亨 (東北大・院理)
- P3-009 日和佐川河口域の藻場におけるノルマンタナイスの出現**
*林 芳弘 (高知水試), 神田 猛 (宮崎大農)
- P3-010 休耕田におけるトンボ目昆虫の分布規定要因**
*土田琢水 (東大・農), 加藤和弘 (東大・農)
- P3-011# 深泥池浮島の底生動物はなぜ多様なのか? - 植生類型に応じた栄養起源からの解釈 -**
*加藤義和 (京大・院・理), 村上宜之 (京都府大・院・農), 奥田昇 (京大・生態研センター), 陀安一郎 (京大・生態研センター), 竹門康弘 (京大・防災研), 堀道雄 (京大・院・理)
- P3-012# ヌルデミフシに含まれる高濃度タンニンの生態的機能**
*林 珠乃 (京大大学生態学研究センター)
- P3-013 Effect of Satoyama Restoration on the Diversity and Abundance of Earthworms in Kanazawa, Japan**
Ida Kinasih* (Graduate School of Natural Science and Technology Kanazawa University), Nakamura Koji (Graduate School of Natural Science and Technology Kanazawa University, Institute of Nature and Environmental Technology Kanazawa University)
- P3-014# 深泥池浮島湿原の植生類型に対応した底生動物群集の組成と機能**
*村上宜之 (京府大・院・農), 加藤義和 (京大・院・理), 高原光 (京府大・院・農), 竹門康弘 (京大・防災研・水資源セ)
- P3-015# ヌマエビ類の左右性と群集構造との関係**
*竹内勇一, 堀道雄 (京大院・理)
- P3-016 サンゴ幼生加入の空間的、時間的変異**
*中村雅子 (琉大・理工), 酒井一彦 (琉大・熱生研)
- P3-017# 岩礁潮間帯固着動物群集における種の多様性の緯度勾配: 非ランダムなプロセスが β 多様性に及ぼす影響**
*奥田武弘 (北大・環境科学院), 野田隆史 (北大・地球環境科学研究科), 熊谷直喜 (千葉大・自然科学研究科), 山本智子 (鹿児島大・水産学部), 堀正和 (瀬戸内海区水産研究所), 仲岡雅裕 (千葉大・自然科学研究科)
- P3-018 流域攪乱が河川性底生生物群集へ及ぼす影響**
*神山塁 (北大環境科学院), 森照貴 (北大苫小牧研究林), 三宅洋 (愛媛大工学部)
- P3-019# 安定同位体を用いた林床無脊椎動物群集の食物網解明**
*奥崎穰, 陀安一郎, 奥田昇, 曾田貞滋
- P3-020# 落葉分解過程における河川生物群集の遷移**
*森照貴, 村上正志 (北大・苫小牧研究林)
- P3-021# 東京湾のアマモ場葉上動物群集の空間変異**
*恵良拓哉 (千葉大・自然科学研究科), 仲岡雅裕 (千葉大・自然科学研究科), 石井光廣 (千葉県水産総合研究センター)
- P3-022# 岩礁潮間帯における食物連鎖長の制限要因と空間スケール依存性**
堀 正和 (瀬戸内水研), 山本智子 (鹿大水産), 仲岡雅裕, 熊谷直喜 (千葉大自然科学), 奥田武弘, 野田隆史 (北大地球環境)
- P3-023 ナラ類のタンニン濃度とタマバチ類の群集属性の関係**
*伊藤正仁 (森林総研北海道・学振特別研究員), 井貝紀幸 (名古屋大院・生命農)
- P3-024# 交雑は分布の拡大に一役買っている!? ~ アイナメ属 3 種とその雑種の卵発生における水温耐性の比較 ~**
*木村 幹子 (北大院・環境科学), 宗原 弘幸 (北大・FSC)
- P3-025# 里山林と都市緑地におけるチョウ類群集構造の比較**
*東條達哉, 桜谷保之 (近畿大・農)
- P3-026# 山で行う隔離水界実験: 池塘ユスリカ幼虫の生産力を決める要因**
*富樫博幸, 鈴木孝男, 占都城太郎 (東北大・院・生命科学)
- P3-027# 捕食圧の違いがもたらすマメアブラムシアリ共生系の変異**
*片山 昇 (京大・生態学研究センター), 北條賢 (京都工芸繊維大学・工学学部), 大串隆之 (京大・生態学研究センター)
- P3-028# 植生の異なる溪畔林におけるシュレッター群集の比較**
曾根 伸 (愛媛県立北宇和高等学校)
- P3-029# 堰堤に仕切られた都市河川: 賀茂川における生息場構造と魚類相の関係**
*石田裕子 (京大防災研), 中林真人 (近大農), 竹門康弘 (京大防災研), 細谷和晃 (近大農)
- P3-030 マラウイ湖シクリッド魚類に見られる群集構造の地域間変異**
*丸山敦 (龍谷大学理工学部), Bosco Rusuwa (University of Malawi), 遊磨正秀 (龍谷大学理工学部)
- P3-031# 乗鞍岳におけるアリ類の垂直分布 - ラポポート則を検証する -**
*榎井龍一 (信州大・理), 市野隆雄 (信州大・理)
- P3-032# 冷温帯のスギ林における地表徘徊性甲虫群集の構造**
*滝 若葉 (筑波大・生物科学), 渡辺 守 (筑波大・生物科学)
- P3-033# 3つの多様性指数: 海草藻場の生態系機能の指標となるのはどれか?**
*山田勝雅 (千葉大・自然科学), 堀正和 (瀬戸内水研), 田中義幸 (東大・海洋研), 長谷川夏樹 (北水研), 仲岡雅裕 (千葉大・自然科学)
- P3-034# 植食者 - 捕食寄生者系の群集形成に影響を及ぼす要因**
*平尾聡秀, 村上正志 (北大・苫小牧研究林)
- P3-035# 植林地における昆虫群集多様性の階層構造**
*賀勢朗子, 平尾聡秀, 村上正志 (北大・苫小牧研究林)
- P3-036# Impacts of Tsunami on abundance and diversity of macrofaunal assemblages along the Andaman Sea Coast of Thailand**
*Napakhwan Whanpetch, 仲岡雅裕 (千葉大・自然科学), 向井宏 (北大・FSC 厚岸臨海), 鈴木孝男 (東北大院・生命科学), 野島哲 (九大・天草臨海), 河井崇 (九大院・理・生態研), 山田勝雅 (千葉大・自然科学), Chittima Aryuthaka (Kasetsart Univ.)
- P3-037# 藻食性魚類と栄養塩が小サンゴ群体の生存と成長に及ぼす影響**
*玉井玲子 (琉球大・院・海洋自然), 酒井一彦 (琉球大・熱生研・瀬底)
- P3-038 Distributional pattern of benthic assemblages in the littoral zone of Lake Shikotsu**
斎藤 裕美
- P3-039 堆肥・窒素肥料の投入が水田の節足動物の発生に**

ポスター発表 3月22日(木) 10:30-16:00

(# : ポスター賞対象発表)

及ぼす影響 森本信生 (中農研セ)

P3-040 海岸砂丘における有剣ハチ類群集とその生息場所
* 遠藤知二, 井上牧子 (神戸女学院大・人間科学)

P3-041# ナラ枯れが雑食性のアリに与える影響 - ミズナラを利用するアリの種構成と生息密度 - * 寺尾明紀, 山崎理正 (京大・農)

P3-042# 津軽平野におけるカエル類の生息分布 * 石井翔, 佐原雄二 (弘前大学・農生)

P3-043# Impact of artificial eutrophication on coastal marine plankton community: field and experimental studies on the response of plankton community to the eutrophication caused by farming activities in coastal marine waters.
* Chang, K.H., Doi, H., Nishibe, Y., Obayashi Y., Ninomiya I., Kihara, A., Kono, M. and Nakano, S. (Ehime Univ.)

P3-044# 台風攪乱が森林鳥類群集へ及ぼす影響の空間スケール依存性 岩本二郎, 村上正志, 平尾聡秀 (北大・苫小牧研究林)

P3-045 希少猛禽類生息地における餌動物としての哺乳類相 * 山田文雄 (森林総研), 安藤元一 (東京農大)

P3-046 多島地帯における節足動物の群集構造 村上正志, 平尾聡秀 (北大・苫小牧研究林)

P3-047# 森林地表性甲虫群集の緯度勾配パターン - モニタリングサイト 1000 の調査から - * 豊田勉, 岸本年郎 (自然環境研究センター), 佐藤重徳 (森林総研・四国支所)

P3-048# 岩礁潮間帯固着生物群集の加入過程における不規則性: 空間スケールによる変異 * 熊谷直喜 (千葉大・自然), 堀正和 (瀬戸内水研), 山本智子 (鹿児島大・水産), 仲岡雅裕 (千葉大・自然), 野田隆史 (北大・環境)

P3-049 里山林の林冠・林床において季節変動する夜間飛翔性昆虫群集 谷垣岳人 (龍谷大・法), 雀部正毅 (京大・理), 山本哲史 (京大・理)

P3-050# 溪流の落葉破砕昆虫におけるストイキオメトリー-NP比の変異 * 佐藤竜一, 加賀谷隆 (東大・農)

P3-051 岩礁潮間帯の底性生物群集における多様性の緯度勾配: 機能群による違いとその要因 * 山本智子 (鹿大・水産), 野田隆史, 奥田武弘 (北大院・環境科学), 堀正和 (瀬戸内海区水研), 熊谷直喜, 仲岡雅裕 (千葉大院・自然科学)

P3-052 多自然護岸の類型化と魚類調査結果 * 秋野淳一, 萱場祐一, 佐川志朗, 真田誠至, 矢崎博芳 (共生センター)

P3-053 釧路川源流域に注ぎ込む湧水由来の支流部における河畔植生の機能と水生昆虫相 * 荻野恭子 (玉川大学・農), 南佳典 (玉川大学・農)

送粉

P3-054# 冷温帯草原群集におけるマルハナバチを介した植物種間相互作用 * 辻村希望 (京大生態研センター), 湯本貴和 (総合地球環境学研究所)

P3-055# コミカンソウ科における送粉様式の多様性と進化 * 川北篤, 加藤真 (京大・院・人環)

P3-056# 個花の花被サイズと隣花受粉の関係 * 石井博, Lawrence D Harder

P3-057# タロイモシヨウジョウバエとサトイモ科植物の送粉共生 * 竹中宏平 (長崎大・国際連携研究戦略本部), 殷建涛 (中国科学院西双版纳热带植物园), 戸田正憲 (北大・低温研)

P3-058# カンコノキ属絶対送粉共生系において、*Epicephala* 属ホソガは花の香りを利用して種特異的な寄主を判別できる * 岡本朋子 (京大院 人間・環境), 川北篤 (京大院 人間・環境), 加藤真 (京大院 人間・環境)

P3-059# 開花密度がヤブツバキの花散粉に与える影響

阿部晴恵 (東邦大・理・地理生態), 上野真義 (森林総研・樹木遺伝), 津村義彦 (森林総研・樹木遺伝), 長谷川雅美 (東邦大・理・地理生態)

P3-060 Pollinator Community of Restored Satoyama Area in Kanazawa * Putra, Ramadhani Eka* (Grad. School of Nat. Science and Technology Kanazawa Univ.), Nakamura Koji (Grad. School of Nat. Science and Technology Kanazawa Univ., Institute of Nat. and Envi. Tech. Kanazawa Univ.)

P3-061# 花上の個体を報酬の目印に利用する訪花行動 * 横井智之, 藤崎憲治 (京大院・農・昆虫生態)

P3-062# 坂道はお嫌い?: 斜面におけるマルハナバチの株間移動方向 牧野崇司 (筑波大・生命環境)

P3-063# ブナ個体群密度がブナの花散粉及び種子生産に与える影響 沼野直人, 陶山佳久 (東北大院・農)

P3-064 花蜜をめぐるマルハナバチの個体間競争 ~ 勝敗を分ける要因 * 大橋一晴 (筑波大・生命環境科学), Thomson, JD, Leslie, A, D'Souza, D (トロント大・動物)

P3-065# 夜咲き種キスゲと昼咲き種ハマカンゾウの雑種F2における開花パターン * 新田梢, 安元暁子, 矢原徹一 (九大・理・生物)

P3-066 訪花頻度と開花タイミング: どちらが他殖の促進には有効か? 石塚大吾 (新潟大・院・自然科学), 堀崎敦史, 新倉聡 ((株) トーホク), * 小沼明弘 (農環研)

P3-067 振動センサーを用いた訪花昆虫の観察システムの開発 * 木村恵 (東大・ア生セ), 渡辺伸一 (統数研)

P3-068# 好まれる花、好まれない花~ミツバチの花選好性の評価~ * 田中篤 (筑波大), 小沼明弘 (農環研), 原尚資 (筑波大), 堀崎敦史, 新倉聡 ((株) トーホク), 大澤良 (筑波大)

P3-069 カメバヒキオコシとその訪花昆虫、互いの選択とは? * 植えりな (首都大・理), 堂園いくみ (東北大・理), 菅原敬 (首都大・理)

動物生活史

P3-070# Observations Indicate Patterns in Occurance of Skeletal Tumors on *Porites Compressa* * Mayumi, S (Hokkaido Univ.)

P3-071# キアゲハの体サイズにおける緯度クライン: 春型と夏型の違い * 川喜多愛 (大阪女大・理), 細井麻理 (大阪府大・院・理), 石原道博 (大阪府大・院・理)

P3-072 カタクチイワシの稚魚と成魚の餌は同じなのか? - 安定同位体比を用いた食性解析 - * 宮地俊作 (日本大・生物資源科学), 馬谷原武之 (日本大院・生物資源科学), 笹田勝寛, 河野英一 (日本大・生物資源科学)

P3-073 徳島県阿南市大湊干潟におけるホソウミナナへの吸虫寄生率の潮位による変化 * 遠野竜翁, 大田直友, 橋本温 (阿南高専・建設), 原田正和 (香川大・医)

P3-074# 可塑性形質の発現量: その適応的調節 * 井川拓也, 宮崎玄, 岸田治, 西村欣也 (北大・院・水産科学)

P3-075 肉食性貝類 4 種の飢餓耐性と酸素消費量 大田直友 (阿南高専・建設システム工学)

P3-076# 侵入種イタチハギのフェノロジーに同調したイタチハギマメゾウムシの生活環 * 人見奈緒子, 田中良穂 (大阪女大・理), 石原道博 (大阪府大院・理)

P3-077 脊椎骨数の遺伝的変異と適応度成分との関係 - シロウオ二型を用いた検討 - * 小北智之, 高橋明香, 瀬戸雅文 (福井県立大・生物資源)

P3-078 植物の腺毛を利用するカスミカメムシ * 杉浦真治 (森林総研), 山崎一夫 (大阪市環科研)

ポスター発表 3月22日(木) 10:30-16:00

(#: ポスター賞対象発表)

P3-079 北海道石狩海岸林におけるキタハウネンエビの成長速度と生存期間 五十嵐聖貴 (北海道環境科学研究センター)

P3-080# 里山に生息するノシメトンボの雌の摂食量と卵生産 *岩崎洋樹, 渡辺 守 (筑波大・生物科学系)

P3-081# ホストの質の種内変異がジャコウアゲハの休眠決定に与える影響 *高木俊, 宮下直 (東大・農)

P3-082# オオミジンコ (*Daphnia magna*) におけるこみ合い応答遺伝子の発現解析 *更井紀一, 市井涼子 (滋賀県立大), 田辺 (細井) 祥子 (神戸大), 森司 (日大), 伴修平 (滋賀県立大)

P3-083# コバネナガカメムシの寄主植物利用様式 *嘉田修平, 藤崎憲治 (京大院・農・昆虫生態学)

P3-084# *Ctenosciara japonica* (クロバネキノコバエ科) の発生個体数の経年変化、季節消長、生活史 —3年間の調査結果まとめ— 須島亮昭 (東大・総合文化)

P3-085# 糞分析による滋賀県近江八幡市奥島山におけるニホンイノシシの食性 *萩原久子 (滋賀県立大学大学院), 石庭孫義, 山中成元 (滋賀県農業技術振興センター), 近雅博, 野間直彦 (滋賀県立大学)

P3-086 大台ヶ原地域における GPS テレメトリーを用いたニホンジカの季節移動の把握 *荒木良太 (財団法人自然環境研究センター), 鈴木透 (NPO 法人 EnVision 環境保全事務所), 吉田剛, 黒崎敏文, 常田邦彦 (財団法人自然環境研究センター)

P3-087# ムラサキシジミ幼虫のアリ随伴に伴う蜜分泌様式 *西森大樹, 鈴木信彦 (佐賀大・農)

P3-088# 仔稚魚はどこで育つ? —メコン川中流域氾濫原における魚類初期生活史を探る— *大塚裕之 (京都大, ASAFAS), 岩田明久 (京都大, ASAFAS)

P3-089 アリにおける新しい生活史戦略: 放浪する女王 *菊地友則, 諏訪部真友子, 大西一志, 辻和希

P3-090# ルイヨウマダラテントウの地域適応に関する研究 *富樫朱美, 片倉晴雄 (北大 院理)

P3-091# Pollen Choices Varies Among Bumblebee Field Colonies Found in Small Spatial Landscapes *Munidasa, DT, Ohashi, K, Toquenaga, Y (University Of Tsukuba)

P3-092 近畿地方の都市緑地と里山におけるシルビアシジミの寄主植物利用と *Wolbachia* の感染 *谷川哲朗・平井規央 (大阪府大院・生命)・矢後勝也 (東大院・理)・森地重博 (神戸市)・蓑原茂 (吹田市)・石井実 (大阪府大院・生命)

フェノロジー

P3-093# 常緑広葉樹稚樹におけるクロロフィル含量指標 (SPAD 値) の季節変化 *水崎大二郎 (千葉大・園芸), 梅木清 (千葉大・自然科学), 本條毅 (千葉大・園芸), 林恩美 (千葉大・自然科学), 内田悟 (千葉大・園芸), 宮川紗耶 (千葉大・園芸), 梅澤耕一 (千葉大・自然科学), 矢澤佳子 (北大・環境), 井本俊輔 (千葉大・自然科学)

P3-094# 常緑広葉樹稚樹の光環境と開葉落葉フェノロジー *内田悟 (千葉大・園芸), 梅木清 (千葉大・自然科学), 本條毅 (千葉大・園芸), 林恩美 (千葉大・自然科学), 水崎大二郎 (千葉大・園芸), 宮川紗耶 (千葉大・園芸), 梅澤耕一 (千葉大・自然科学), 矢澤佳子 (北大・環境), 井本俊輔 (千葉大・自然科学)

P3-095# 異なる光条件下に生育する性転換植物ユキモチソウ (*Arisaema sikokianum*) のフェノロジーは個体サイズや性表現に依存しているか? *浦川裕香, 小林剛 (香川大・農), 久保拓弥 (北大・地球環境), 深井誠一 (香川大・農)

P3-096# 開花タイミングにおける表現型可塑性の自然変異

とその遺伝的基盤の探索 *杉原次郎 (神戸大・院・自然科学), 清水健太郎 (チューリヒ大学・理), 嶋村良治, 工藤洋 (神戸大・理・生物)

P3-097# Proposal of two important indexes for analysis of seed-predation and plant reproduction Erna S. Poesie (Ehime Univ.), Kyoko Hamamoto (Ehime Univ.), Swido H. Limin (Palangka Raya Univ., Indonesia), Kuniyasu Momose (Ehime Univ.)

P3-098# 遺伝資源保存園におけるケヤキの紅葉・落葉フェノロジーの産地間差 *矢野慶介, 高橋誠, 岩泉正和, 宮本尚子, 久保田正裕 (林木育種センター)

P3-099# 京都府南部落葉広葉樹二次林におけるコバノミツバツツジとモチツツジの樹形とフェノロジー 浅野祥子, 石井弘明, 武野真也 (神大院・自然科学)

P3-100# 絶滅危惧植物シラタマホシクサのフェノロジーに関する地理的変異 *長谷川万純, 岩井貴彦, 深川忠政, 増田理子, 山下雅幸, 澤田均

P3-101# 開花調節遺伝子の野外における発現パターンの定量解析 相川慎一郎 (神戸大・理・生物)

P3-102# Phenology in boreal regions *Nicolas Delbart (JAMSTEC-FRCGC), Ghislain Picard, (LGGE, France), Thuy Letoan (CESBIO, France), Laurent Kergoat (CESBIO, France)

植物個体群

P3-103# ブナ実生における捕食者飽食: 哺乳類と病原菌の異なった反応 *田辺慎一 (森の学校キョロロ)

P3-104 コナラ樹冠の枝葉の定常クラスターの構造解析と分枝構造のシミュレーション *隅田明洋 (北海道大学), 梅木清 (千葉大学大学院), 高井優理 (岐阜大学)

P3-105# 多雪環境がコナラおよびミズナラの遺伝的多様性と分化に及ぼす影響 - 太平洋側と日本海側の比較 - *大澤隆文, 齊藤陽子, 井出雄二 (東大・農)

P3-106# シラビソ・オオシラビソ同齡林のプロット間でみられる空間構造のばらつき *鈴木智之, 可知直樹, 鈴木準一郎 (首都大院・理工・生命)

P3-107# 時間的に不均質な水分供給が植物個体群の成長におよぼす影響 *萩原陽介, 可知直毅, 鈴木準一郎 (首都大・生命)

P3-108 ベイズ型ノンパラメトリック推定法を用いた成長解析例 *鳥谷健一郎 (統計数理研究所)

P3-109# 栄養塩パッチをめぐる競争における物理的障害とアサガオ (*Ipomoea tricolor*) 個体のサイズとの関係 *中村亮二・可知直毅・鈴木準一郎 (首都大・理)

P3-110# ウバユリとオオウバユリは何が違う? - サイズと地理的分布、生育環境について - *谷友和, 館野正樹 (東大日光植物園)

P3-111# 隔離分布する天然性北限のカラマツ小集団における交配形態 *宗原慶恵, 渡邊敦史 (林育セ)

P3-112 トリコームの集団内多型は適応的か? 川越哲博 (神戸大・理・生物)

P3-113 サラワク州ランビル国立公園におけるフタバガキ科樹種実生個体群の遺伝構造 *名波哲, 伊東明, 山倉拓夫 (大阪市立大学・院・理), Sylvester Tan, Bibian Diway (サラワク森林研究所)

P3-114 鳥取砂丘における海浜植物の植物季節と景観 *中嶋幸宏 (鳥取大・院), 井上博貴, 永松大 (鳥取大・地域)

P3-115 植林後 50 年を経た海岸クロマツ林の構造と立地環境 永松大・山田陽介 (鳥取大・地域)

ポスター発表 3月22日(木) 10:30-16:00

(#: ポスター賞対象発表)

- P3-116#** 鳥取砂丘における砂丘植物の個体群構造とその変化 * 富永彩恵 (鳥取大・院・教育)・永松大 (鳥取大・地域)
- P3-117#** 東北地方におけるオオバナノエンレイソウの集団分化に関する生態遺伝学的研究 * 内藤弥生, 大原雅 (北大・院・環境科学), 堀井雄治郎 (秋田県)
- P3-118#** 早池峰山のアカエゾマツ孤立集団における繁殖成功パターンの推移 * 富田基史, 陶山佳久 (東北大・院・農), 関剛, 杉田久志 (森林総研・東北)
- P3-119** タネツケバナ開花反応における地理的変異の分子生態学的研究 * 工藤洋, 宮城和章 (神戸大・理), 清水健太郎 (チューリッヒ大・理)
- P3-120** 山梨県西湖における緑藻マリモの個体群構造と生育環境 * 若菜勇 (阿寒湖畔EMC), 新井章吾 (株・海藻研), 鈴木芳房 (株・海洋探査), 朴木英治 (富山科文セ)
- P3-121** 林床低木ミヤマトベラの種内遺伝構造及び人工交配による交配様式の解明 * 浜 一朗, 齋藤陽子, 井出雄二 (東大・農)
- P3-122#** 草本種間の競争効果と被食回避効果 * 鈴木亮 (奈良女子大・共生セ), 吉田奈美子 (奈良女子大・理), 前迫ゆり (奈良佐保短大), 古川昭雄 (奈良女子大・共生セ)
- P3-123** 採草地におけるアカクロウバの個体群動態に及ぼす個体配置の影響 * 平田聡之, 青柳由希子, 山田敏彦 (北大FSC)
- P3-124#** スギ・落葉広葉樹林に共存する低木3種における生活史初期段階の定着サイトの違い * 森下和路 (京大院・農), 嵩元道徳 (京大・フィールド研)
- P3-125** 西表島仲良川流域のマングローブ林の動態とリターフォール * 榎木勉 (九州大・農), 安田恵子 (総合地球環境学研究所)
- P3-126#** 誘導性揮発性物質により被食防御するSagebrush(*Artemisia tridentata*)の遺伝構造 * 石崎智美, 大原雅 (北大・院・環境科学), 塩尻かおり (京大・生態研センター), Richard Karban (UC Davis・Department of Entomology)
- P3-127** 斜面地形が日本海側天然スギのクローン構造に及ぼす影響 * 平山貴美子 (森林総研・関西), 嵩元道徳 (京大・フィールド研)
- P3-128** 林床草本クマバハグマの12年間の動態 * 河原崎里子 (新領域融合研究センター)・相川真一 (森総研・森林植生)・島谷健一郎 (統数研)・加藤雅子・鈴木和雄・鈴木準一郎 (首都大・生命科学)・原登志彦 (北大・低温研)・堀良通 (茨城大・理)
- P3-129#** 千葉県小櫃川河口干潟周辺におけるヨシ(*Phragmites australis*)の生態的可塑性 * 田中正之 (宇都宮大・雑草セ), 西尾孝佳 (宇都宮大・雑草セ), 一前宣正 (宇都宮大・雑草セ), Siegm W. Breckle (University of Bielefeld, Germany)
- P3-130** 耐塩性ヨシ(*Phragmites australis*)は旺盛に生育するか? * 西尾孝佳 (宇都宮大・雑草セ), 田中正之 (宇都宮大・雑草セ), 一前宣正 (宇都宮大・雑草セ), Siegm W. Breckle (University of Bielefeld, Germany)
- P3-131#** 亜熱帯常緑広葉樹林におけるツル植物の種組成および空間分布 * 楠本聞太郎 (九大・生物資源), 榎木勉 (九大・農)
- P3-132#** 白馬山系の多様な土壌特性と高山植物の生育 * 波多野肇, 大橋雄気, 増沢武弘 (静岡大・理)
- P3-133** 多雪地造成法面における幼苗植栽の初期生長について * 林寿則 (財・国際生態学センター), 村上雄秀, 矢ヶ崎朋樹
- P3-134#** 富士山南東斜面におけるコケモモ群落の構造と適応戦略 * 玉井朝子, 増沢武弘 (静岡大・理)

外 来 種

- P3-135** 都市近郊林におけるミヤマナルコユリのrametの動態 * 粕谷絵美子 (明治大・院), 倉本宣 (明治大)
- P3-136** 林分内の樹木個体間・樹種間の成長の同調性 木村勝彦 (福島大・理工)
- P3-137** 栗駒山龍泉ヶ原湿原周辺における植生変遷 * 池田重人, 志知幸治 (森林総研), 若松伸彦 (横浜国大・環境情報)
- P3-138** Monitoring of Dynamics of Halophytes communities in Coastal Ecosystem of Korea * Jeom-Sook Lee (Kunsan National Univ), Byung-Sun Ihm, Gwang-Hee Suh, Kong-Ju Kim, Young-Un Han, Jeong-Won Par
- P3-139** ニジマス除去後におけるイワナ個体群の反応 山本聡 (長野水試), 河野成実 (長野水試), * 北野聡 (長野環保研)
- P3-140** 外来植物の防除に利用する除草剤グリホサートの生態影響評価 * 池田浩明・林 成振・喜多晃一・相田美喜 (農業環境技術研究所)
- P3-141#** セイヨウオオマルハナバチの野生巢のコロニー成長と繁殖能力 * 井上真紀 (東大・農), 横山潤 (東北大・生命科学), 鷲谷いづみ (東大・農)
- P3-142#** 三宅島2000年噴火後のニホンイタチ (*Mustela itatsi*)の食性 * 上杉哲雄 (東大・院・農), 高槻成紀 (東大・博物館)
- P3-143** 河川における外来ザリガニの分布パターンはどの程度流量変動から予測可能か? 西川潮 (国立環境研究所), Muriel Gevrey (Univ Paul Sabatier), Sebastien Brosse (Univ Paul Sabatier)
- P3-144** 日本における外来植物の侵入年代・原産地とその用途との関連性を探る 村中孝司 (東大・農)
- P3-145** (キャンセル)
- P3-146** 外来サケ科魚類が分布しやすい環境とは? 山本俊昭 (日獣大)・中川雅章 (酪農大)・北西滋 (北大)
- P3-147** スクミリンゴガイに対するクサガメの捕食効果 吉江春子, 遊佐陽一 (奈良女子大・理)
- P3-148** スクミリンゴガイの野外における貝汁に対する反応 相崎香帆里, 遊佐陽一 (奈良女子大・理)
- P3-149#** 個体群変動モデルによる外来魚の繁殖阻止および非繁殖魚除去の努力量とその抑制効果 安部倉完, 堀道雄 (京大・理), 竹門康弘 (京大・防災)
- P3-150#** 霞ヶ浦における在来および外来タナゴ類の環境選択 * 諸澤崇裕 (筑波大・院・生命環境)
- P3-151** 北海道におけるセイヨウオオマルハナバチの野生化範囲の拡大とその要因 横山 潤, 糠塚ゆりか (東北大・生命科学)
- P3-152** 外来植物による繁殖干渉が在来種を駆逐する - タンポポ, オナモミ, センダングサ - 高倉耕一 (大阪市環科研)
- P3-153** スクミリンゴガイの野外個体群における密度効果 * 吉田和弘 (鳥取大学大学院連合農学研究所), 遊佐陽一 (奈良女子大学), 星川和夫 (鳥根大学)
- P3-154#** ウシガエルの分布とアメリカザリガニの体サイズ構造および密度の関係 * 美濃和駿 (東京大学生物多様性), 宮下直 (東京大学生物多様性)
- P3-155** タイ及びシンガポールのヌノメカワニナ * 佐竹潔 (国環研), 三浦収 (スミソニアン熱帯研究所), 鶴石達 (大山里山学研), Arthit Nuntakwang (チェンマイ大), 成瀬徹, Cai Yixiong (シンガポール国立大学)
- P3-156#** 南西諸島におけるツヤオオズアリの集団遺伝学的解析 * 大西一志, 中島裕美子 (琉大・COMB), 高橋純一

ポスター発表 3月22日(木) 10:30-16:00

(# : ポスター賞対象発表)

(玉川大・ミツバチ), 諏訪部真友子, 菊地友則, Julien Le Breton, 辻和希(琉大・農)

P3-157 北海道美幌市におけるニセアカシアの分布現況と歴史的背景 * 山田健四, 真坂一彦(北海道立林業試験場)

P3-158# 外来種アメリカザリガニによるトンボ類幼虫への捕食圧: 体サイズと水草の量による違い * 保崎有香, 宮下直(東大・院・農)

P3-159# 森林の攪乱が外来種の侵入に与える影響 * 諏訪部真友子, 大西一志, 菊地友則, 辻和希

P3-160 知床における外来哺乳類問題 * 池田 透, 立澤 史郎(北大・文・地域システム)

P3-161# 住宅街におけるタイワンリスの空間利用—分布拡大を阻止する街作りの基礎— * 佐藤視帆・小池文人(横浜国大・院・環境情報)

P3-162# コマツナギとその訪花昆虫に対する外来植物の影響 * 萩原陽二郎, 山口伸博, 山下雅幸, 澤田均(静岡大・農)

P3-163 ダムと都市化が淡水外来魚の分布に及ぼす影響 * 韓 美德(筑波大・生命環境), 福島 路生, 亀山 哲(環境研・アジア), 福島 武彦, 松下 文経(筑波大・生命環境)

P3-164# 外来種キツネノマゴ科ヤナギバルイラソウの生態学的特性と侵略性 * 宮本裕美子(高知大・院・理), 石川慎吾, 三宅尚(高知大・理)

P3-165# 釧路湿原に生息するアメリカミンクの糞分析 竹下 毅(北大・文)

P3-166 茨城県小貝川におけるオオブタクサ・アレチウリの侵入が種組成に及ぼす影響 * 川田清和(農業環境技術研究所), 土方直美(筑波大学), 中村徹(筑波大学), 池田浩明(農業環境技術研究所)

P3-167# 外来種トウネズミモチの種子散布特性 * 伊藤千恵, 藤原一繪(横浜国大・院・環境情報)

P3-168# 潜在的国内移入種としての造園緑化植物材料に関するケーススタディ * 矢野初美(東大・農), 小沼明弘(農業環境技術研究所), 芝池博幸(農業環境技術研究所), 井手任(農林水産省)

P3-169 個体群動態予測モデルを用いた外来種カミツキガメの駆除戦略 * 小林頼太(東大・農・生物多様性), 長谷川雅美(東邦大・理・生物), 宮下直(東大・農・生物多様性)

P3-170 宇治川で魚病被害をもたらす腹口類2種の季節動態 中井健太郎(滋賀県大・環境), * 浦部美佐子(滋賀県大・環境), 田中正治(大阪府水生生物センター)

P3-171 岡山県の湿地に移入された外来食虫植物の種類と定着状況 * 片岡博行(津黒いきものふれあいの里), 西本孝(岡山県自然保護センター), 波田善夫(岡山理大・総合情報)

P3-172 群馬県利根川水系に侵入した特定外来種水生植物の分布 大森威宏(群馬自然史博), 石川真一(群馬大・社会情報), 青木雅夫(館林市教育委員会), 増田和明(中之条町立中之条小学校)

P3-173# 三宅島の砂防ダムにおける外来種を用いた緑化施工地の植生について 秋山美樹(筑波大・生物資源学類), 上條隆志(筑波大・生命環境)

P3-174# 琵琶湖内湖・西の湖における仔稚魚の生息現況 藤田朝彦, 西森英二(近畿大・農), 西野麻知子(琵琶湖・環境科学研究センター), 細谷和海(近畿大・農)

P3-175 Boom and bust patterns in models with spatially explicit structure Koehncke, A (Humboldt Univ.), *Telschow, A (CER, Kyoto Univ.), Kondoh, M (Ryukoku Univ.)

P3-176 両生類の年齢査定について(仮) * 高井 孝太郎, 岩熊 敏夫(北大院 環境)

P3-177 小笠原諸島での侵入哺乳動物による海鳥類被害 * 堀越和夫, 鈴木創, 佐々木哲朗, 鈴木直子(小笠原自然文化研究所)

P3-178# 神奈川県におけるアライグマの個体群密度の推定 * 石井宏昌(横浜国大), 松田裕之(横浜国大)

P3-179# 外来植物の侵略性への人為的攪乱の影響 Ohigashi, K (NIAES), Kusumoto, Y (NIAES), Yamamoto, Y (NIAES)

P3-180# 東京都武蔵野台地東部におけるカミツキガメの定着状況 佐藤方博(生態工房)

進 化

P3-181# 幼虫齢多型の遺伝的基盤と進化の可能性 * 清水 健, 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)

P3-182# 腸内共生細菌の垂直伝播量と宿主の成長パフォーマンスの関係: 宿主の適応度減少を介した共生細菌のAllee効果? * 細川貴弘(東大・総合文化, 産総研・生物機能工学), 嶋田正和(東大・総合文化), 深津武馬(産総研・生物機能工学)

P3-183 自然選択の地理的モザイクと共進化過程 東樹 宏和(九大・院理)

P3-184# シテムシ科ヒラタシテムシ亜科における飛翔能力、食性、繁殖形質の進化—比較法による関係性の進化の検討— * 池田絃士, 加賀谷隆, 久保田耕平(東大・院・農), 阿部俊夫(森林総研)

P3-185 小笠原諸島固有植物ムニンハナガサノキは雄性両全性異株か? * 西出真人(首都大・院・理・生物), 齋藤けい子(都立大・理・生物), 加藤英寿, 菅原敬(首都大・院・理工・牧野)

P3-186# 雑種性タンポポの生理生態的特性 ~ 発芽特性と生残率のクローン間比較~ * 保谷彰彦, 芝池博幸, 山本勝利(農環研)

P3-187# イトヨは甘党?: イトヨ甘味受容体候補遺伝子の著しい多様化 * 橋口康之, 古田好美, 川原玲香, 西田 陸

P3-188 プランクトン群集を対象とした、栄養塩利用に関する形質の進化に環境条件が与える影響 水野晃子(東北大学生命科学研究科), 河田雅圭(東北大学生命科学研究科)

P3-189 雄間闘争の3次元シミュレーションによる角の進化の解析 * 伊藤 洋, 池上 高志(東大・総合文化)

P3-190# Pattern of introgression against prezygotic isolation in land snails. * Amporn Wiwegweaw, Takahiro Asami.

P3-191# 自然集団の表現型可塑性に隠された変異はあるか? * 山口正樹, 工藤洋(神戸大・理)

P3-192# 異質倍数化によるニッチ拡大はあるか? 広瀬恭祐(神戸大・理・生物), 清水健太郎(チューリッヒ大・理), 工藤洋(神戸大・理・生物)

P3-193# 揮発性物質を介した植物の間接防御と植食者の選好性: ヤナギ群集内での種間比較 * 米谷衣代, 高林純示(京大・生態研)

P3-194# 分子系統樹でたどるオトシブミ科の植物加工の進化 * 小林知里, 加藤真(京大・院・人環)

P3-195# 摂餌コストの化学量論的不均衡による消費者の"補食"パターンの進化 * 加藤聡史, 占都城太郎, 河田雅圭

P3-196# 日本産高山植物の比較系統地理 * 池田啓(京大人間・環境, チューリッヒ大 理), 仙仁徑(首都大 牧野), 藤井紀之(首都大 牧野), 清水健太郎(チューリッヒ大 理), 瀬戸口浩彰(京大 人間・環境)

P3-197# オス間闘争があると生きみ分けできない親は娘に

ポスター発表 3月22日(木) 10:30-16:00

(#: ポスター賞対象発表)

過剰に投資する * 岸茂樹 (京大院・農・昆虫生態), 高倉耕一 (大阪環科研・水), 西田隆義 (京大院・農・昆虫生態)

P3-198# コオロギの calling song と courtship song が交配前隔離に及ぼす影響 * 角 (本田) 恵理 (東大院・総合文化), 佐久間正幸, 福井昌夫 (京大院・農), 長谷川寿一 (東大院・総合文化)

P3-199 Quantifying gene flow using the concept of effective migration rate Yutaka Kobayashi (Kyoto Univ. CER), Arndt Telschow (Kyoto Univ. CER)

P3-200 集団サイズと近親交配が近交弱勢に及ぼす影響 - 数理モデルによる世代変化の予測 - * 石田清 (森林総合研究所関西支所)

P3-201# なぜ周期ゼミは素数周期で発生するのか? - ブロード間での先住効果の影響 - * 吉村真弥, 徳永幸彦 (筑波大・生命共存)

P3-202# アミメアリにおける利己的社会寄生者の起源: 突然変異が表現型にあたる影響のモデル解析 * 土畑重人 (東大院・総合文化), 佐々木智基 (琉大・農), 嶋田正和 (東大院・総合文化), 辻和希 (琉大・農)

P3-203# 日本産ヒゲナガカミキリ属 Monochamus の交尾器進化 * 土岐和多輝, 久保田耕平 (東大院・農)

種 多 様 性

P3-204# 分断林における林床植物の分布と決定要因: ミヤコザサの侵入とエッジ効果・中立理論 * 富松裕 (首都大・理工), 山岸洋貴 (北大・地球環境), 近藤三三, 佐藤雅俊, 田中一平, 紺野康夫 (帯広畜産大・畜産科学)

P3-205 二次林の階層別種構成とその成立に関する要因 森広信子

P3-206# 神奈川県丹沢山地におけるササラダニ群集の種多様性とその変化 - 植生衰退の影響を基軸として - * 尾崎泰哉, 辰田秀幸, 伊藤雅道 (横浜国大院・環境)

P3-207 ブナの葉を摂食するギルド毎の被食量の緯度勾配 日浦勉・中村誠宏 (北大・苫小牧研究林)

P3-208# 草原群落の種多様性: 格子モデルによる解析 中桐齊之 (兵庫県立大・環境人間), 泰中啓一, 吉村仁 (静岡大・創造科学技術院)

P3-209# 好犠性昆虫アリツカコオロギ属の分子系統~寄主アリ特異性とハビタット特異性の進化 * 小松 貴 (信州大・理), 丸山 宗利 (フィールド自然史博), 市野 隆雄 (信州大・理)

P3-210# 断崖における生物多様性: "Cliff ecology" 事始め 鹿野雄一 (京都大・理)

P3-211# 西南日本に分布するササユリの蛇紋岩植物ジンリョウユリの系統分化 * 川瀬大樹 (京大・理), 林一彦 (大阪学院大), 湯本貴和 (総合地久環境学研究所)

P3-212 近縁種の密度は熱帯雨林樹木の死亡率に影響するか? * 伊東明, 名波哲, 山倉拓夫 (大阪市大・院・理), 大久保達弘 (宇都宮大・農)

P3-213 小笠原諸島鳥島猪熊谷~石門間の林冠構成木の種多様性について * 井関智裕 (東京植生研究会), 仁井雄治 (株式会社地域環境計画), 手塚一雅 (株式会社森緑地設計事務所)

P3-214# 食物網構造と進化が被食者-捕食者動態の安定性に及ぼす影響 * 山口和香子 (東北大・院・生命科学), 近藤倫生 (龍谷大・理工), 河田雅圭 (東北大・院・生命科学)

P3-215 春採湖における水草の衰退とウチダザリガニ * 神田房行, 蛭田真一 (北海道教育大・釧路・生物)

P3-216 山梨県上ノ原地区の半自然草原における異なる人為的管理が植生とチョウ類群集に与える影響 * 久保満佐子 (山梨森林研), 小林隆人 (宇大), 北原正彦 (山梨環境研), 林敦子 (山梨森林研)

P3-217# 生育環境が異なるスミレ属 2 種における系統地理 遠山弘法, 矢原徹一

P3-218 関東地方平野部における半自然草地群落の種多様性と機能組成上の特徴 * 小柳知代 (東京大院農), 楠本良延 (農環研), 山本勝利 (農環研), 大黒俊哉 (東京大院農), 武内和彦 (東京大院農)

P3-219 人工林の間伐と生物の多様性 岡部貴美子・井上大成・榎原寛・磯野昌弘・田中浩 (森林総研)

P3-220# 膜翅目(ハチ・アリ類)に寄生するネジレバネの分子系統解析 * 井坂友一 (信州大・理), 市野隆雄 (信州大・理)

P3-221# 湿生絶滅危惧植物のホットスポットとしてのハス田 * 高見雄太 (徳島大・院・工), 原田悦子 (徳島大・院・工), 中村俊之 (有限会社ウェットランド研究所), 鎌田磨人 (徳島大・工・院)

P3-222 異質倍数化によるタネツケバナ属の種分化 清水 (稲継) 理恵, 清水健太郎

P3-223 自然環境保全基礎調査データを用いた鳥類の分布予測 2 * 永田尚志 (国環研・生物), 金井裕 (日本野鳥の会)

P3-224# アブラムシによるアリへの化学擬態 * 遠藤真太郎 (信州大・理), 市野隆雄 (信州大・理)

P3-225 藻類多様性は藻食者に対する二酸化炭素の化学量効果を緩和させる * 占部城太郎・和氣尚子 (東北大学・生命科学)

P3-226 稲田養魚水域の生物群集に与えるフナ類の影響 * 井口恵一期, 鶴田哲也, 坂野博之, 山口元吉, 阿部信一郎 (中央水研), 大森浩二 (愛媛大沿岸セ)

P3-227 チベット草原における植物種数と地上部バイオマスとの関係 唐 艶鴻・沈 海花・張 鵬程・周 華坤

P3-228# マカランガーアリーカイガラムシ3者間共進化の歴史 * 上田昇平 (信大院・総工), Quek, S.P. (Harvard Univ.), 市岡孝朗 (京大院・人環), 村瀬香 (東大院・生命), Kondo, T., Gullan, P. J. (Univ. of California), 市野隆雄 (信大・理)

P3-229# アリ寄生性チョウの遺伝分化とホストアリの遺传的・化学的分化の地理的パターン * 島本晋也 (信大院・工), 毛利秀雄 (東大), 市野隆雄 (信大・山岳研)

景 観 生 態

P3-230# 生物生息環境評価のための環境情報地図の提案 * 一ノ瀬友博 (兵庫県大・自然研), 高橋俊守 (宇都宮大・農), 加藤和弘 (東大院・農), 大澤啓志 (慶応大・総合政策), 杉村尚 (自然研)

P3-231 環境情報地図を用いたゲンジボタルの生息環境評価 * 高橋俊守 (宇都宮大・農), 加藤和弘 (東大院・農), 一ノ瀬友博 (兵庫県大・自然研), 大澤啓志 (慶応大・総合政策), 杉村尚 (自然研)

P3-232# マーモットによる空間的異質性の創出 - 行動と攪乱の空間パターンに注目して - 吉原佑 (東大農生物多様性), Buuveibaatar, Chimdeedorche (モンゴル科学アカデミー), 佐藤雅俊 (帯広畜産大学), 高槻成紀 (東大総合研究博物館)

P3-233# カラマツ人工林マトリックスへの鳥類の親和性を生態学的特性で予測する * 山浦悠一 (森林総研・昆虫生態), 天野達也 (農環研・生物多様性), 加藤和弘 (東大・緑地植物実験所)

P3-234# ランドスケープスケールでトンボの移入ポテンシャルを予測する * 角谷 拓, 鷲谷いづみ

P3-235 阿万吹上浜における2004年台風23号通過後の植生回復状況 * 笹木義雄, 岩田悠希, 森本幸裕 (京都大・地球環境学堂)

ポスター発表 3月22日(木)10:30-16:00

(# : ポスター賞対象発表)

- P3-236# 兵庫県におけるオオサンショウウオの分布と生息適地の推定** *田口勇輝(大阪府立大・生命環境科学), 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館), 夏原由博(京都大学・地球環境学堂)
- P3-237 衛星データを利用したシベリアカラマツ林の樹冠葉面積指数の広域推定** *小林秀樹(JAMSTEC-FRCGC), Nicolas Delbart(JAMSTEC-FRCGC), 鈴木力英(JAMSTEC-FRCGC)
- P3-238# 中国ホルチン砂地における耕地の管理・立地・作物種の違いにもとづく雑草群落タイプの類型化** *宮坂隆文(東大・農), 趙哈林, 趙学勇(中国科学院沙漠研究所), 武内和彦, 大黒俊哉(東大・農)
- P3-239# 河川の合流点が創出する生息場の多様性** *大澤剛士(兵庫県立人と自然の博物館), 丹羽英之(京大院・地球環境), 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)
- P3-240 Watershed Management using Hydrological Simulation Program-Fortran Applications to Haji Dam Watershed** *Perez, Ana(Hiroshima Univ.), Isozaki Yoshiyuki(Hiroshima Univ.), Kikuchi Akira(Hiroshima Univ.), Haggag Mohammed(Hiroshima Univ.), Nakagoshi Nobukazu(Hiroshima Univ.) and Yamashita Takao(Hiroshima Univ.)
- P3-241# シカ採食が植物の受粉、寄生に与える相乗的間接効果** ○寺田佐恵子(東大・院・生物多様性), 国武陽子(国環研), 高田まゆら, 宮下直(東大・生物多様性)
- P3-242 渡り鳥の分布予測とフライウェイ単位での生息地管理** 牛山克巳(美唄市), 天野達也(農業環境技術研究所), 原田修(日本野鳥の会), 諸橋仁美・中井惺・泉真沙子(おっ鳥クラブ), 小山内恵子・門村徳男(ネイチャー研究会 in むかわ), 高田雅之(北海道環境科学研究センター)
- P3-243# Landscape Ecological Dynamics in Different Wetlands: A case study in Beijing area** PAN Yun, Nobukazu Nakagoshi, ZHOU Xinwei, XIONG Zaiping
- P3-244# Building suitability green map in Hanoi, Vietnam** Pham Duc Uy (IDEC, Hiroshima Univ), Nakagoshi, N (IDEC, Hiroshima Univ)
- P3-245# 複断面化の進行した河川景観の変遷—南四国における規模の異なる河川間の比較—** *橋本恵(高知大院・理), 石川慎吾, 三宅尚(高知大・理)
- P3-246 多摩丘陵における野性哺乳類の種組成および存在量を利用した緑地における生態的機能の評価** 園田陽一(明治大・農), 倉本宣(明治大・農)
- P3-247# 宝塚における60年間のチョウ相と景観構造の変化～手塚治虫の見た自然はどう変わったか?** 林 江里子, 遠藤 知二(神戸女学院大・人間科学)
- P3-248# 長期間分断された保護林とそれに隣接する茶農園の鳥類による利用** *片岡美和(京大・院・ASAFAS), 岩田明久(京大・院・ASAFAS), Dewi M. Prawiradilaga (LIPI, Indonesia)
- P3-249# Green network analysis of tropical urban ecosystem in Jakarta, Indonesia** *Kim, J-E (Hiroshima Univ.), Watanabe, S (Hiroshima Univ.), Hong, S-K (Mokpo National Univ. KOREA), Nakagoshi, N (Hiroshima Univ.)
- P3-250# Wetland Management in Bangladesh** Byomkesh Talukder
- P3-251# 里山ランドスケープにおける木本種の出現パターンと種特性** *小林慶子(横浜国立大・院・環境情報), 小池文人(横浜国立大・環境情報研究院)
- P3-252 亜高山性針葉樹6種の分布温度領域** 池田史枝*(横浜国立大学環境情報学府), 大野啓一(横浜国立大学環境情報学院)

●「生態学会賞」「功労賞」「宮地賞」「論文賞」授賞式・受賞記念講演

3月21日(水)9:00より 愛媛大学 グリーンホール(Room A)

第5回日本生態学会賞受賞者

山村 則男(京都大学生態学研究センター)

第11回日本生態学会宮地賞受賞者・受賞記念講演演題

大園 享司(京都大学大学院農学研究科)

土壌分解系の機能を菌類の生態から理解する

佐竹 暁子(Dept. of Ecology and Evolutionary Biology, Princeton University)

森林衰退/再生への道をわける条件: 数理生態学からサステナビリティ・サ

イエンスへの挑戦

第10回 日本生態学会 公開講演会

平成18年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)補助事業

3月23日(金)09:30~12:00 愛媛大学城北地区・グリーンホール(Room A)

(都合により会場を変更しました。ご注意ください)

「地球生態系の現在と未来 21世紀COE4拠点の成果から」

企画責任者: 大森浩二(愛媛大学)・公開講演会委員会

21世紀COEプログラムは「我国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図る」ことを目的としている。この21世紀COEプログラムの中で生態学・環境学や生物多様性と関係のあるものは、新しく採択されたものから「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」琉球大学、「生物多様性・生態系再生研究拠点」東京大学、「生物多様性研究統合のため拠点形成」京都大学、「沿岸環境科学研究拠点」愛媛大学の4つが挙げられる。これらのうち後者2プログラムは、18年度に5年の研究期間を終える。また、前2者も最終段階に入りつつある。生態学の発展という面から、21世紀COEプログラムとしてどのようなものを目指してきたのか、また、今後どのような展開を目指しているのかを拠点リーダー(またはコアメンバー)に報告していただく。ただし、今回の公開講演会は、市民一般も対象としており、生態学専門の観点だけでなく、地球環境問題など現実の生活にも係わり合いの深い話題という観点から、講演をしていただく。

講演は以下の通りである。

- 1) 伊沢雅子・琉球大学: 「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」
- 2) 鷲谷いづみ・東京大学: 「東京大学21世紀COE生物多様性生態系再生研究拠点の活動」
- 3) 山村則男・京都大学: 「生物多様性研究統合のため拠点形成」
- 4) 田辺信介・愛媛大学: 「沿岸環境科学研究拠点」
- 5) 総合討論

コンピナー・橘川次郎・クインズランド大学名誉教授

● シンポジウム・フォーラム・自由集会 一覧

3/19 (MON)

自由集会 (18:00-20:00)		Room
W01	生物群集と生態系をつなぐ：群集生態学の新たな挑戦	A
W02	外来植物の侵入実態と生態系に及ぼす影響 ~ 外来植物対策をめぐる課題 ~	B
W03	地域生態系の保全・再生に関する合意形成とそれを支えるモニタリング技術の開発	C
W04	生態から種分化に迫る	D
W05	ゼロからわかるセイヨウオオマルハナバチ外来種問題	E
W06	化学物質の生態影響評価に対して生態学者ができること	F
W07	病原体と人間社会、生態系を結ぶマルチスケールデータベース構築に向けて	G
W08	世界自然遺産登録に向けての小笠原研究の現状と展望	H
W09	隠すな！ND（旧総合説）の論理破綻、結集しよう！新今西説を機軸とした“新総合説”へ	I
W10	第二弾：陸域生態系におけるリン制限仮説と生物の適応	J
W11	陸水湿地の環境構造と生物多様性	K

3/20 (TUE)

公募シンポジウム (9:00-11:30)		Room
S01	ミクロナな世界からの新展開：微生物群集の不均一性が支える物質循環と生物間相互作用	A
S02	花粉一粒の直接遺伝解析から見えるもの	B
S03	人間活動下の生態系ネットワークの崩壊と再生	C
S04	大規模開発につける薬（3） 生態学は政治・司法に発言できるか	D

自由集会 (18:00-20:00)		Room
W12	データ解析で出会う統計的問題 - ベイズ統計学の考えかた・使いかた	A
W13	群集生態学における適応：進化・可塑性と生物群集の相互関係	B
W14	氾濫原の自然再生に向けて	C
W15	エンドユーザからみた DNA バーコーディング	D
W16	蜂合わせ ~ 蜂好き達の宴 ~	E
W17	生物の空間分布データから生態学的プロセスを推測する	F
W18	植物における物質分配の生理生態学	G
W19	特定外来生物防除の最前線 ~ 対策と問題点 ~	H
W20	タケは里山の厄介者か？ - 竹林の拡大と環境への影響 -	I

W21	侵入から四半世紀～ジャンボタニシは今どうなっているのか	J
3/21 (WED)		
企画シンポジウム (14:30-17:00)		Room
T01	Stoichiometric frameworks for evolutionary, population, and community dynamics	A
公募シンポジウム (14:30-17:00)		
S05	長期気候変動と熱帯雨林 - 熱帯域に於ける森林衰退の背景とその影響	B
S06	希少樹種の現状と保全	C
S07	海洋性ベントスの生活史：成長と繁殖の生態学	D
S08	植物生態学のための山地地形の扱い方．	E
S09	流域の保全：大規模な止水域が流域環境に与える影響解析	F
S10	人間活動がもたらす生態系の変化：常識のウソを探る	H
3/22 (THU)		
フォーラム (9:00-11:30)		Room
T02	大規模長期生態学のためのデータベースと情報公開（大規模長期生態学専門委員会）	A
公募シンポジウム (9:00-11:30)		
S11	高山・亜高山帯における生物集団の維持機構 遺伝子流動という視点から	B
S12	観測からモデリングへの新たな流れ：地球生態学のデータ利用	C
S13	チョウ類とその生息環境の保全をめぐる問題	D
S14	京都盆地における環境変遷と人間活動 - 様々な手法によるアプローチ	F
自由集会 (18:00-20:00)		
W22	博物館の生態学3 ～標本のチカラ～	A
W23	数理生態学はどこからきて、どこへゆくのか	B
W24	生物の時間空間変動理解のための実証的・理論的アプローチ	C
W25	淡水産外来無脊椎動物の侵入実態と防除に向けた課題	D
W26	樹木のモジュール構造は繁殖にどう関わっているのか	E
W27	パラサイト・パラダイス～日本にやってくる侵入寄生生物～	F
W28	群落談話会 - 種多様性概念と地域の生物多様性保全	G
W29	生態学者よ、街に出よ！Part4 研究活動と企業環境活動の架け橋	H
W30	南西諸島における亜熱帯林の動態と生態系保全	I
W31	第13回 Matter Flow and Ecosystems	J

サテライト集会 種子散布研究会・フェノロジー研究会 (19:30-22:00) 別会場

3/23 (FRI)

サテライト集会 アグロエコロジー研究会 在地・在野の農生態系インタ
ープリター大集合 - 生態学の学究と農村現場をいかに結ぶか? - 別会場

T01 Stoichiometric frameworks for evolutionary, population, and community dynamics

企画責任者 : Committee for the Annual Meetings of ESJ, Hideki Kagata (Kyoto University), and Jotaro Urabe (Tohoku University)

Ecological stoichiometry, the study of the balance of energy and multiple chemical elements in living systems, provides a framework for linking biochemical characteristics of organisms to species interaction, food web dynamics, and nutrient cycling. A variety of recent studies have shown that the incorporation of stoichiometry into population and community models can fundamentally change population stability, coexistence of competitors, and community structure. This symposium aims to suggest three new directions for stoichiometric researches : a stoichiometric framework for evolutionary biology, the role of ecological stoichiometry in trophic interactions, and the influence of resource stoichiometry on insect outbreaks. Speakers in this symposium will present a variety of approaches, including mathematical models as well as experimental and field studies in aquatic and terrestrial systems. In doing so, this symposium will highlight the importance of stoichiometric frameworks, and their application to a broad range of ecological questions.

Commentators:

Naoto Kamata (Tokyo University, Japan)

Takehito Yoshida (Tokyo University, Japan)

T01-1 Introduction

Jotaro Urabe (Tohoku University, Japan)

T01-2 Phytoplankton Stoichiometry

Christopher A. Klausmeier (Michigan State University), Elena Litchman (KBS, Michigan State University), Tanguy Daufresne (INRA, France), Simon A. Levin (Princeton University)

T01-3 Stoichiometrical limitation for growth of a phytophagous insect

Hideki Kagata (Kyoto University, Japan)

T01-4 Stoichiometry of terrestrial arthropods : Interspecific patterns and dynamic consequences

Bill Fagan (University of Maryland, USA)

T02 大規模長期生態学のためのデータベースと情報公開(大規模長期生態学専門委員会)

企画責任者：日浦 勉・中村誠広

日本長期生態学ネットワーク (JaLTER) がいよいよ正式に発足し、国際長期生態学ネットワーク (ILTER) にも参加する運びとなった。大規模長期の生態学を今後さらに発展させるためには、データベースの整備と情報の公開性を確保することが不可欠となる。このフォーラムでは既存のデータベースを用いた研究やシステム構築の方法について話題提供していただき、JaLTER の今後の方向性について議論したい。

コメンテーター：齊藤 隆 (北大フィールド科学センター)

- T02-1 データベースがあればこんなことができる - 個別流域研究の一般化の試み - 大手信人 (東大農学部)
- T02-2 PlotNet の取り組み - 東アジアの森林永久調査区データに基づく比較解析プログラム - 浦口あや (三菱総研)
- T02-3 ILTER における情報マネジメント標準化の取り組みと JaLTER の情報マネジメントのあるべき方向性 小川安紀子 (地球研), 藤原章雄 (東大演習林)

S01 ミクロな世界からの新展開：微生物群集の不均一性が支える物質循環と生物間相互作用

企画責任者：三木 健 (京大大学生態学研究センター)・松井一彰 (総合地球環境学研究所)
西田貴明 (京大大学生態学研究センター)

生態系において微生物は、物質循環過程を駆動する役割と、共生関係を介して大きな生物の環境適応に貢献するという役割を担っている。本シンポジウムでは、微生物群集が持つ不均一性に注目して生態学の進展につながる二つの仮説を提案する。まず、さまざまなスケールでの微生物群集の空間分布に関して4つの話題を紹介し、「グローバルな移動分散や群集構造の空間的な不均一性が、物質循環の維持に貢献している」という仮説を提案したい。次に、微生物が結ぶ共生関係に関する話題を2つ紹介し、「大きな生物間の柔軟で可塑的な相互作用が、共生微生物相や共生強度の不均一性によって維持されている」という仮説を提案したい。

これら2つの仮説を通じて、環境変化に対して素早く応答できる能力を持つ微生物群集が、1)環境変化に対する生態系レベルでの高い適応能力、2)世代時間の長い生物の可塑的な反応の原動力、として生物群集内の多様性の維持に貢献している可能性を探りたい。みなさんいっしょに、顕微鏡の世界から、目に見える生態系を見つめ直してみませんか？

コメンテーター：永田 俊・大串隆之(京大生態研セ)

- S01-1 空間分布の不均一さを決める要因は何か？：上流から下流への細菌群集遷移パターンの河川間比較
*小林由紀(京大生態研セ), KIM Chulgoo(京大生態研セ), 由水千景(科学技術振興機構), 高津文人(科学技術振興機構), 陀安一郎(京大生態研セ), 永田 俊(京大生態研セ)
- S01-2 超大規模スケールでの細菌の現存量と生産速度の空間分布：南極海からアラスカ沖まで
*横川太一, 楊燕輝, 永田 俊, 茂手木千晶(京大生態研セ)
- S01-3 大陸と海洋を渡り歩く細菌と遺伝子：水銀耐性細菌と水銀耐性遺伝子のグローバルな分散
*松井一彰(総合地球環境学研究所), 成田勝(東北緑化環境保全), 遠藤銀朗(東北学院大学工学部)
- S01-4 環境変動に対する群集レベルの適応的応答を支える細菌の移動分散とその炭素循環への影響：海洋細菌のメタ群集モデル
*三木 健, 横川太一, 永田 俊, 山村則男(京大生態研セ)
- S01-5 新たな餌資源への適応を腸内細菌群集の変化から考える：移入種ブルーギルをモデルに
*内井喜美子(京大生態研セ), 米倉竜次(岐阜県河川環境研究所), 松井一彰(総合地球環境学研究所), 奥田 昇(京大生態研セ), 川端善一郎(総合地球環境学研究所)
- S01-6 共生による物質の供給は役に立つのか？：菌根菌との共生がもたらす植物の迅速な食害応答
*西田貴明, 大串隆之(京大生態研セ)

公募シンポジウム

3月20日 9:00-11:30

会場 Room B

S02 花粉一粒の直接遺伝解析から見えるもの

企画責任者：井鷲裕司(京都大学大学院農学研究科)

花粉は植物の繁殖過程においてきわめて重要な役割を担っている。減数分裂を経て形成される個々の小さな花粉粒は、サンプルに含まれる解析対象 DNA の少なさという点では究極的なものといえるが、分子生物学的手法を用いれば個々の花粉粒から遺伝情報を引き出すことができる。花粉一粒に含まれる遺伝情報からどのような事が見えてくるのだろうか？

本シンポジウムでは、これまで生態学分野では、ほとんどなされてこなかった花粉 1 粒を対象とした遺伝解析を行い、植物の繁殖過程としてきわめて重要な意味を持つ送受粉の実態を明らかにしつつある研究者を集め、この手法が植物の繁殖生態学研究にもたらさうるブレイクスルーについて紹介する。

更に、減数分裂を経て形成される花粉粒中には同一コピーの核遺伝子のみが存在するという特徴を利用すれば、花粉一粒の遺伝解析は、連鎖解析、ヘテロ個体の核ゲノムシーケンス、雑種起源分類群の系統解析等にも幅広い応用が考えられる。本シンポジウムでは、これらの研究アプローチに関しても将来展望も含めて紹介・議論する。

コメンテーター:加藤 真(京都大院・人間環境), 柴田銃江(森林総研)

- S02-1 花粉1粒の直接遺伝解析から何を見るか - 1粒でもわかる事と1粒だからわかる事
井鷲裕司(京都大院・農)
- S02-2 花粉一粒のDNA分析方法
陶山佳久(東北大院・農)
- S02-3 花粉1粒の直接遺伝解析に基づくホオノキ訪花昆虫の送粉効率評価
*松木 悠(広島大院・国際協力), 舘野隆之輔(鹿児島大・農), 柴田銃江(森林総研), 陶山佳久(東北大院・農), 井鷲裕司(京都大院・農)
- S02-4 クリ花粉一粒ずつのマイクロサテライト分析による花粉流動解析
*長谷川陽一, 陶山佳久, 清和研二(東北大院・農)
- S02-5 ハイマツ・キタゴヨウ交雑帯における交配パターン:花粉分散から種子形成まで
*綿野泰行, 朝川毅守(千葉大・理), 伊東めぐみ(千葉大院・自然科学), 陶山佳久(東北大院・農)
- S02-6 昆虫付着花粉の遺伝解析を用いた熱帯林一斉開花における送粉システムの解明
*近藤俊明(広島大院・総合科学), 西村 千(マレーシア森林研究所), 内藤洋子(京都大院・農), 津村義彦(森林総研), 井鷲裕司(京都大院・農), 奥田敏統(広島大院・総合科学), Lee Soon Leong(マレーシア森林研究所), Norwati Muhammad(マレーシア森林研究所)
- S02-7 花粉一粒によるハプロタイプ解析と進化ゲノム学への展望
清水健太郎(チューリヒ大・理), 池田 啓(チューリヒ大・理, 京都大院・人間環境)

公募シンポジウム

3月20日 9:00-11:30

会場 Room C

S03 人間活動下の生態系ネットワークの崩壊と再生

企画責任者:酒井章子(京大生態研) 山村則男(京大生態研)

現在、人間活動によって大きく改変された生態系の縮小や劣化が多くの問題を引き起こしている。この生態系の改変を、人間を含む生態系の"ネットワーク"(生態系ネットワーク)の変化としてとらえることで、環境問題に新しい視点を与えられないだろうか。また、このような考え方は、環境問題において社会学、経済学と生態学の協力を大きく促進するのではないか。企画者らは生態系ネットワークという考え方を環境問題に生かせると考え、研究会などで議論を進めてきた。このシンポジウムでは、まず企画者から趣旨説明として、生態系ネットワークについて説明する。そのあと、生態系ネットワークをキーワードとして、モンゴルやマレーシアの具体的な事例から環境問題の理論的、経済的解析まで多彩な視点から話題提供をしていただく。会場から広く意見や批判をいただき、このシンポジウムを生態学の環境問題への取り組みの新しいページを開くきっかけとしたい。

- S03-1 趣旨説明
山村則男(京大生態研)

- S03-2 マレーシア・サラワク州の人と生態系の100年史
*市川昌広(地球研)・酒井章子(京大生態研)
- S03-3 モンゴルの人と生態系の100年史
*藤田 昇(京大生態研)・石井勲一郎(地球フロンティア)
- S03-4 経済学からみた人と環境の関わりの変化
諸富 徹(京大経済)
- S03-5 生態系ネットワークから環境問題を考える - 理論的アプローチ
*中丸麻由子(東工大・社理工)・近藤倫生(龍谷大理工)

公募シンポジウム

3月20日 9:00-11:30

会場 Room D

S04 大規模開発につける薬(3) 生態学は政治・司法に発言できるか

企画責任者：安溪遊地(山口県大・国際文化) 金井塚務(広島フィールドミュージアム)
野間直彦(滋賀県大・環境)

生態学会会員は、法に従順なだけで「守るべき自然について、正しい情報や専門家としての意見を発信し、自らも行動すること」という社会的責任を果たせるのか(菊澤喜八郎氏の問いかけ)。このシンポジウムでは、中国地方の二つの自然保護案件をめぐってその現状を報告し、「自らも行動する」とは何を指すのかを討論する。従来も公的な審議会委員就任や、学会の要望書等の提出という行政にかかわる活動はあった。それでは、政治や司法とのかかわりはどうであろうか。林道工事が始まった西中国山地・細見谷の溪畔林と、上関原発の詳細調査で破壊される周防灘・長島の生物多様性の保全をテーマに、最新の状況を報告する。住民投票条例の制定を求める運動の先頭に立ったり、入会権訴訟の原告側証人として調査をしたりする会員の現在進行形の経験をめぐって、フロアからの意見をまじえた率直な意見交換をおこないたい。コメントは、竹門康弘氏(京大・防災研)と阿部悦子氏(環瀬戸内会会議代表、愛媛県議)。

- S04-1 公共事業の期中評価委員会と住民投票条例 細見谷を例に
金井塚務(広島フィールドミュージアム)
- S04-2 水生昆虫の生息状況からみた細見谷の特徴とその貴重性
井上栄壮(信州大・繊維)
- S04-3 溪畔林の動態と共存機構 溪畔域をどう管理すればよいか
崎尾 均(埼玉県農林総合研究センター 森林・緑化研究所)
- S04-4 上関原子力発電所予定地での詳細調査の生物多様性への影響
加藤 真(京大院・人環)
- S04-5 里山林の生態学調査と共有地入会権訴訟の行方
野間直彦(滋賀県大・環境)・安溪貴子(山大・非常勤)
- S04-6 上関原発建設用地と入会権 入会権は時効消滅するか
野村泰弘(島根県大・総合政策)
- S04-7 いま何をなすべきか これ以上の破壊を許さないために
河野昭一(国際自然保護連合)

S05 長期気候変動と熱帯雨林 - 熱帯域に於ける森林衰退の背景とその影響

企画責任者：奥田敏統（広島大学大学院総合科学研究科） 中静 透（東北大学大学院生命科学科学研究科）

熱帯地域における森林伐採や土地利用開発などによって森林面積は過去の30年間で著しく減少したが、本シンポジウムでは人為的攪乱以外による熱帯雨林の衰退の背景とその結果将来どのようなことが起こりうるかという点について乾燥化やエルニーニョなどの気象・気候変動との関係から考察を行うことを目的とする。まず、近年東南アジアの熱帯林で顕著に見られるようになった大規模な倒木や枯死現象についての事例を紹介し、次にエルニーニョや乾燥化など地球規模で進む気候変動と熱帯地域の気象や気候との関連性について紹介する。最後にこうした気候変動が熱帯林の更新にどのような影響を及ぼすかについて、これまでの研究事例を紹介し、熱帯林の今後の行方などについて森林伐採などの人為的影響も含めて総合討論を行う。

- S05-1 シンポの背景 - マレーシア熱帯林にみる森林の衰退現象について
奥田敏統（広島大学）
- S05-2 東南アジア（マレーシア，インドネシア）での風害・乾燥化による森林衰退
米田 健（鹿児島大学）
- S05-3 エルニーニョに伴う強い乾燥と樹木の死亡
中川弥智子（名古屋大学）
- S05-4 熱帯地域でのダウンバースト現象について
大野久雄（高松地方気象台）
- S05-5 スマトラ及び周辺域の長期降水の季節・経年変動等について
濱田純一（海洋研究開発機構）
- S05-6 乾燥と樹木のフェノロジー（開花，展葉）
市栄智明（高知大学）
- S05-7 乾燥があたえる植食性昆虫個体群への影響
岸本圭子（京都大学）
- S05-8 まとめ - 今後の研究展開について
中静 透（東北大学）

S06 希少樹種の現状と保全

企画責任者：金指あや子（森林総研） 八坂通泰（北海道林試）・鈴木和次郎（森林総研）

希少樹種のそれぞれの地域集団において健全な次世代を確保するためには、遺伝的劣化を防止する集団間交配の可能性や、次世代の遺伝的多様性を維持する林分配置などを検討するとともに、湿地など特殊な生育地に分布し、特有の生活史特性をもつ希少樹種の更新サイトの創出や復元のための技術開発を行なう必要がある。特に希少樹種が生育する森

林において、生育環境の変化に伴って光環境が悪化している周辺林分の伐開や地表面の刈り払い、掻き起こしなどによる更新サイトの創出や復元などの森林管理の技術開発が求められている。希少樹種の保全のための技術指針をより有効なものとするため、さまざまな希少樹種の保全管理研究で得られたこれまでの成果をもとに、希少樹種の保全上の問題点と今後の課題について討議する。

コメンテーター：河野昭一（京都大学名誉教授）

- S06-1 希少樹種の保全研究プロジェクトの成果からみた現状と課題
金指あや子（森林総研）
- S06-2 シデコブシの生態遺伝学：遺伝子流動と近交弱勢の解析
戸丸信弘（名古屋大学）
- S06-3 ハナノキの保全・生態学的特性と更新のための森林管理
鈴木和次郎（森林総研）
- S06-4 北海道におけるクロミサンザシの生育実態と保全の取り組み
八坂通泰（北海道林試）
- S06-5 遺伝構造からみたコビソヤナギの保全と水辺管理
菊地 賢（森林総研）
- S06-6 ハナガガシの生態と保全
伊藤 哲（宮崎大学）

公募シンポジウム

3月21日 14:30-17:00

会場 Room D

S07 海洋性ベントスの生活史：成長と繁殖の生態学

企画責任者：入江貴博（九大・理・生物） 甲斐清香（琉大・理工・海洋環境）

生物と環境の関係を扱う生態学において、個体の生活史を把握することは必要にして不可避の研究過程である。潮間帯から潮下帯にかけての著しい環境勾配に沿って生息する海洋性ベントスは、移動性や固着性、単体性や群体性など、多様な生活史様式を示す。本シンポジウムでは、そのような海洋性ベントスの生活史を進化生態学の立場から説明する際に、主に昆虫や陸上植物を対象として発展してきた従来の生活史理論を適用することの限界を見極め、そのいっぽうで陸上生物の生活史が持つ特徴との共通性を明らかにしたい。海洋性ベントスの生活史研究は、その生息地環境から、陸上生物を対象とする研究者が直面し得ない研究上の困難を孕んでいる。このシンポジウムでは、野外調査やデータ解析の段で各々が抱える技術的な課題やその解決策を提示しあい、各講演者が研究対象とする分類群に留まらない議論を展開する場を提供したい。

- S07-1 群体サイズと群体年齢が群体性サンゴの成長や繁殖への資源配分に及ぼす影響
甲斐清香（琉大・理工・海洋環境）
- S07-2 ホンヤドカリ属の資源配分パターン：メスの交尾直前脱皮と産卵
和田 哲（北大・水産科学）
- S07-3 個体及び集団の成長が同種・他種に与える正の影響・負の影響
河井 崇（九大院・理・生態研）
- S07-4 アワビ類の初期生態と個体数変動
河村知彦（東大・海洋研）

S07-5 雌雄同体性ウミシダ Antedonidae sp.の生活史

小淵正美（東工大・生命理工）

S07-6 生活史研究における問題点：海洋性ベントスの場合

入江貴博（九大・理・生物）

公募シンポジウム

3月21日 14:30-17:00

会場 Room E

S08 植物生態学のための山地地形の扱い方

企画責任者：若松伸彦（横浜国大・院・環境情報） 川西基博（立正大・ORC）

植物の生態やその分布を理解するには、環境要因の一つとして生育立地の成り立ちや性格といった地形に対する認識が不可欠である。地形地質環境が植生に与える影響には、風、気温、積雪分布といった微気候、栄養塩、水環境を通じてもたらされる間接的な影響と、地形形成プロセスでもある物質の移動が植物に攪乱を及ぼす直接的な影響がある。地形が複雑な山地では、地形が植物に及ぼす作用が大きく、特に直接的な影響を正しく理解する必要性が高い。しかし、生態学研究においては丘陵地の地形に対する考え方をそのまま山地に当てはめることが多く、地形的要因との因果関係を十分に説明していないと考えられる。こうした問題を打開するためには、地形学の成果に基づいて山地と丘陵地の共通点および相違点を留意し、山地地形を成因から理解することが不可欠である。

本シンポジウムでは、植物に及ぼす山地地形の影響に関する研究を紹介し、さらに地形・植生を総合的に理解するためには、どのような点に着目し山地斜面の地形を扱うべきかを地形学サイドからの発言を得て討議する。

S08-1 地形の形成・維持・更新と山地の地形分類

田村俊和（立正大・地球環境）

S08-2 空間スケールの違いによる地形と植生の対応関係と立地解析の留意点

増澤 直（地域環境計画）

S08-3 山地の斜面発達史を考慮した植生構造研究

高岡貞夫（専修大・文）

S08-4 霧島山系小池の小扇状地における照葉樹林の群集構造と地形の関係

井藤宏香（鹿児島大・院・農）

S08-5 シオジ・サワグルミ林における林床植生の種組成分化と地形の影響

川西基博（立正大・ORC）

公募シンポジウム

3月21日 14:30-17:00

会場 Room F

S09 流域の保全：大規模な止水域が流域環境に与える影響解析

企画責任者：大森浩二（愛媛大学沿岸環境科学研究センター） 山岸 哲（山階鳥類研究所）

五十嵐崇博（ダム水源地環境整備センター）

今日、流域環境の保全で最も重要な問題の一つは、堰・ダム湖などの大規模な止水域が流域全体に与える影響をどのように捉えるかである。ダム湖上流域の土地利用がダム湖に

影響を与えるとともに、ダム湖自身がアオコ発生などの現象を引き起こす。更にダム湖の存在やその運用が、水質・流況・土砂供給など下流の河川環境に多様な影響を与えている。更に、流域に生息する水生生物に対しても、個体群の分断や生息場所の減少など生物の生息に多大な影響を与えていることが予想される。堰・ダム湖などの大規模な止水域が流域環境に与える多様な影響を考えると、まず、個々の問題点を明らかにするとともに、種レベルにおける個体群存続確率解析や生態系レベルでの機能解析による流域全体の健全性保持という観点からこれらの問題を総合化する必要がある。本シンポジウムでは、これらの問題について、現状を把握する研究発表とともに今後の保全のあり方について総合的に検討する。

総合討論司会：辻本哲郎（名古屋大学工学研究科）

- S09-1 ダム湖が下流水生昆虫群集に与える影響
片野 泉（自然共生センター）
- S09-2 ダム湖が下流環境に与える影響解析
竹門康弘（京都大学）
- S09-3 ダムのフラッシュ放流が下流環境に与える影響
谷田一三（大阪府立大）
- S09-4 安定同位対比 C-N マップに基づいた流域内におけるダム湖群の特性解析
山田佳裕（香川大学農学部）
- S09-5 流域生態系の健全性に基づく流域保全 - 個体群存続解析及び生態系機能解析による統合化 -
大森浩二（愛媛大学沿岸環境科学研究センター）
- S09-6 ダム下流の環境改善を目的とした取り組みの評価
河口洋一

公募シンポジウム

3月21日 14:30-17:00

会場 Room H

S10 人間活動がもたらす生態系の変化：常識のウソを探る

企画責任者：椿 宜高（京大生態研センター） 奥田 昇（京大生態研センター）

自然生態系が人間活動によって大きく変化しつつあることは紛れもない事実だろうが、このことが客観的なデータに基づいて語られることは意外に少ない。例えば、地球の温暖化によって生物の北上が起きていると言われているが、説得力のあるデータによって温暖化影響が示された例は少ない。土地開発によって希少生物が減少したとされる場合も、必ずしも信頼できる過去のデータに基づいているわけではない。また、生物の種構成を生態系の健全性を示す指標にすることがあるが、それがどの程度信頼できるものかは曖昧なことが多い。生態系の保全には、人間活動によって生じている変化を正しく把握する必要がある。このシンポジウムでは生態系の変化を把握するさまざまな手法の理論的基盤と弱点を明らかにし、どのような改善が可能であるかを議論したい。

- S10-1 森林生態系の持続的な利用と保護：持続性の指標としての生物多様性
北山兼弘（京大生態研センター）

- S10-2 生物の分布北上は温暖化によって説明できているか？
椿 宜高（京大生態研センター）
- S10-3 生物標本はタイムマシン：安定同位体分析から過去の生態系を復元する
奥田 昇（京大生態研センター）
- S10-4 外来植物上の昆虫群集の特徴とその変遷
安東義乃（京大生態研センター）
- S10-5 Investigating synergistic effects of human disturbance and climate change on aquatic ecosystems
Chih-hao Hsieh（京大生態研センター）

公募シンポジウム

3月22日 9:00-11:30

会場 Room B

S11 高山・亜高山帯における生物集団の維持機構 遺伝子流動という視点から

企画責任者：亀山慶晃（北大・地球環境）・平尾 章（北大・地球環境）・河田雅圭（東北大・生命科学）

生物集団は個体から個体へと遺伝子が受け継がれることによって維持されている。このような遺伝子の動き、即ち遺伝子流動は、生育環境の時空間変動や生物間相互作用、各々の種の生活史特性によって大きく変化する。では、厳しい環境条件と明瞭な季節性、空間的な不均質性によって特徴付けられる高山・亜高山生態系において、生物集団はどのように維持されているのだろうか？本シンポジウムでは、時間的側面として植物の開花フェノロジーやポリネータ活性、埋土種子といった数ヶ月～数年単位の現象から、数千年にわたる集団の歴史までを議論する。また、空間的側面としては様々なスケールの水平距離に加え、土壌中の埋土種子や標高差の影響について取り扱う。生物の繁殖様式や生物間相互作用、集団の環境応答について、遺伝子流動という視点から幅広く議論したい。

趣旨説明：河田雅圭（東北大・生命科学）

コメンテータ：鷲谷いづみ（東大・農学生命科学）、曾田貞滋（京大・理学研究科）

- S11-1 高山・亜高山と低地に生息するミジンコ2種間における遺伝子流動
高橋彰子，*松島野枝，横山 潤，占部城太郎，河田雅圭（東北大・生命科学）
- S11-2 連続分布するトドマツ個体群における標高に対する適応反応 - 1976年に設定された標高別相互移植試験の結果から -
*後藤 晋（東大・北海道演習林）
- S11-3 ツガザクラ属植物における交雑現象 雪解け傾度を反映した生物間相互作用
*亀山慶晃，工藤 岳（北大・地球環境）
- S11-4 開花フェノロジーの異相が高山植物の遺伝子流動に及ぼす影響
*平尾 章，工藤 岳（北大・地球環境）
- S11-5 ユキワリソウの空間的遺伝構造 埋土種子の時空間的動態
*下野綾子（国立環境研究所），上野真義（森林総合研究所），津村義彦（森林総合研究所），鷲谷いづみ（東大・農学生命科学）

S12 観測からモデリングへの新たな流れ：地球生態学のデータ利用

企画責任者：伊藤昭彦（国立環境研究所） 加藤知道（海洋研究開発機構）・稲富素子（海洋研究開発機構）

地球温暖化をはじめとする環境問題に対し、環境科学としての（地球）生態学には、より定量的な解析と予測が求められている。そこで用いられる生態系モデルを高度化できるかどうかは、観測データの取得・集積・利用が鍵となる。このシンポジウムでは、観測研究とモデル研究からそれぞれ数人の演者に、観測データがモデリングでどのように使われているか（使われるべきか、使って欲しいか、あるいは不十分か）について、自身の研究と意見を発表していただく。特に注目する研究分野としては、温暖化と深く関係する物質循環、生理生態、植生動態があげられる。観測研究から得られた情報のデータベース化に関する現状の紹介も内容に含まれる。そして、モデルの精度をより上げていくには今後どのような観測データ整備が必要か、どのような観測とモデルの協力が望ましいかを議論したい。

コメンテータ：

現地観測とモデル研究の協力について 村岡裕由（岐阜大学）

地球観測および地球環境データセンターについて 和田英太郎（海洋研究開発機構）

S12-1 趣旨説明と炭素循環モデルにおけるデータ利用

伊藤昭彦（国立環境研究所）

S12-2 植生動態モデルにおけるデータ利用

佐藤永（海洋研究開発機構）

S12-3 衛星観測から生態系モデリングへ

西田顕郎（筑波大学）

S13 チョウ類とその生息環境の保全をめぐる問題

企画責任者：藤井 恒（日本チョウ類保全協会・京都学園大学非常勤講師） 石井 実（大阪府立大学大学院）

日本には 240 種近いチョウ類が生息しているが、生息環境の変化等により、衰亡したり地域絶滅してしまった個体群も多く、環境省のレッドデータブックには、25%に相当する 62 種ものチョウが掲載されている。各地で保護・保全活動も行われているが、活動を行う上での問題も少なくない。また、近年、外来種が侵入したり、放蝶されて分布を拡大したり、人為的な放蝶による国内外来種の問題も、各地で報告されている。

チョウ類の保全活動は、特定の希少種の保護活動ではなく、チョウ類も含めた生態系の保全や種の多様性の保全につながるものであることを、本シンポジウムでの以下の講演や議論を通じて示したい。

- 1．日本のチョウ類の衰亡と現状：多くのチョウ類が衰亡している現状とその原因について概説する。
- 2．チョウ類の保護活動の事例：大阪府三草山で行われた保全の実例を、生態学的なデー

タに基づいて紹介する。

- 3．法律や条例をめぐる問題点：保全活動を行うための法整備の現状と問題点について、自治体へのアンケート調査結果に基づいて述べる。
- 4．放蝶問題：岡山県下で明らかになったギフチョウの放蝶について、その実態を紹介し、問題点を述べる。
- 5．個体群生態学の理論から：標識再捕獲およびラインセンサス法の理論と技術などについて概説する。
- 6．外来種問題：神奈川県に定着したアカボシゴマダラについて紹介し、国外・国内外来種の問題について検討する。
- 7．今後のチョウ類の保全の方向性：チョウ類の保全活動の現状を概観し、今後の保全活動の方向性について、生態学的観点から述べる。
- 8．総合討論
 - S13-1 日本のチョウ類の衰亡と現状
中村康弘（日本チョウ類保全協会）
 - S13-2 里山林「三草山ゼフィルスの森」のチョウ類群集とその保全
西中康明（大阪府立大学大学院）
 - S13-3 保全に関する法律や条例とその問題点 - 自治体へのアンケート調査から
藤井 恒（日本チョウ類保全協会・京都学園大学）
 - S13-4 ギフチョウの放蝶の実態とその問題点
伊藤國彦（岡山県立大学）
 - S13-5 個体群生態学の理論から
渡辺 守（筑波大学大学院）
 - S13-6 神奈川県に定着したアカボシゴマダラからの展望
高桑正敏（神奈川県立生命の星・地球博物館）
 - S13-7 蝶類の生物多様性保全の現状と課題
石井 実（大阪府立大学大学院）

公募シンポジウム

3月22日 9:00-11:30

会場 Room F

S14 京都盆地における環境変遷と人間活動 - 様々な手法によるアプローチ

企画責任者：高原 光（京都府大・農）・湯本貴和（総合地球環境学研究所）・大井信夫（ONP 研究所）

われわれをとりまく景観は、人間社会の変化と共に移りかわってきた。近年、里山の保全など、失われつつある植生景観を保全するための様々な取り組みがおこなわれているが、このような植生景観の保全をおこなう際には、現在の植生についての検討だけでなく、その植生景観がいつどのように変化してきたかという歴史的な側面が明らかにされる必要がある。このシンポジウムでは、1200年間にわたって都市が維持されてきた京都盆地をモデルケースとしてとりあげる。まず、様々な手法によって復元された京都盆地の植生景観とその変化について報告し、植生景観の復元の方法論について、他地域への応用可能性を含め、時間・空間スケールを考慮しつつ議論する。その上で、これらを時間軸に沿って俯瞰し、景観保全を考える上での基本的な知見を生態学がいかにかに与えるのか、提示したい。

- S14-1 植生景観の復元と時間・空間スケール
高原 光（京都府大・農）
- S14-2 花粉分析による植生復元 - 京都盆地北部での森林の変化
佐々木尚子（総合地球環境学研究所）
- S14-3 絵図・古地図からみた室町時代以降の植生景観の変化
小椋純一（京都精華大・人文）
- S14-4 空中写真判読による京都盆地周辺における過去数十年間の森林の変化
奥田 賢（京都府大・農）
- S14-5 里山景観の保全における歴史的な地域研究の必要性
深町加津枝（京都府大・人間環境）

W01 生物群集と生態系をつなぐ：群集生態学の新たな挑戦

企画責任者：仲岡雅裕（千葉大・自然科学）

生態系は生物と環境の相互作用系である。生態系における物質・エネルギー循環は、生物群集の構成種の相互作用の構造やその様式によって規定される。一方、生物群集の構造や動態もまた、生態系におけるエネルギーや物質の量、構成比に強く影響される。このように生物群集と生態系は密接に関連しているにもかかわらず、両者の研究は、研究の目的や研究者の興味の相違から、接点はほとんどなかったといっても過言ではない。しかし現在、地球環境問題、生物多様性と生態系機能の保全に対する気運の高まりなど、さまざまな契機により、両者の統合の必要性が認識され始めた。本自由集会では、「生物群集と生態系をつなぐ」というテーマの下に、両分野を統合的に扱う最先端の研究について話題提供していただくと共に、今後の課題と研究の展望について議論する。

総合討論 司会：仲岡雅裕（千葉大・自然科学）

コメンテータ：近藤倫生（龍谷大・理工）・大串隆之・加賀田秀樹（京大）・工藤 岳（北大）・野田隆史（北大）・吉田丈人（東大）

生態系機能を支える群集の進化：群集の進化速度を決める要因は何か？

三木 健（京大・生態研センター）

地上系と土壌系をつなぐ生物間相互作用：捕食被食、物理的改変、ヒステリシス

宮下 直（東大・農）

生物群集を介した水界生態系の物質循環：安定同位体解析と生態学的化学量論によるアプローチ（仮題）

土居秀幸（愛媛大・農）

W02 外来植物の侵入実態と生態系に及ぼす影響 ～外来植物対策をめぐる課題～

企画責任者：村中孝司（東京大学）・川田清和（農業環境技術研究所）

江戸時代末期以降、膨大な質・量の物資が海外から日本国内に持ち込まれ、それと同時に国外からの外来植物の種数も増加した。意図的に導入された外来植物は観賞、食、牧草・緑肥、緑化など多岐の用途にわたっているが、その内容は時代によって異なる。さらに、特に戦後、非意図的に移入された外来雑草の種数も増加した。そのため、現在では2,000種にも及ぶ外来維管束植物が国内に野生化しており、近年では、それらが蔓延して在来生物や生態系に悪影響を及ぼしていることが報告されるようになった。2005年6月には外来生物の被害を防止するための外来生物法が施行され、現在まで合計12種の外来植物が「特定外来生物」に指定されており、侵略的外来生物の輸入の規制や防除等がすすめられつつある。しかし、現在でもなお、緑化、観賞用等として利用される一方で、逸出・野生化して生態系に多大な被害をもたらす、防除が必要なまでになっている場合もある。さらに、輸入物資等に混入して持ち込まれた雑草の蔓延による被害も大きい。

自由集会では、まず「外来植物」の渡来（確認）年代による外来種の範囲や侵入経路について整理し、さまざまな用途として持ち込まれた外来植物の利用および逸出・野生化における実態、非意図的に移入された外来雑草の侵入の状況および生態系に及ぼす影響について議論し、有効な防除策等を含めた今後の展望についても検討したい。

趣旨説明：村中孝司（東京大学）

外来植物の渡来（確認）年代と侵入経路 - 外来植物の指す範囲について

村中孝司（東京大学）

外来観賞用水草の導入と野生化の実態

角野康郎（神戸大学）

緑化植物（牧草）の播種による問題

澤田佳宏（兵庫県立人と自然の博物館）

外来樹木の侵入と分布拡大による問題

橋本佳延（兵庫県立人と自然の博物館）

外来雑草の非意図的移入と侵入特性

川田清和（農業環境技術研究所）

自由集会

3月19日 18:00-20:00

会場 Room C

W03 地域生態系の保全・再生に関する合意形成とそれを支えるモニタリング技術の開発

企画責任者：松田裕之（横浜国立大学・環境情報）・矢原徹一（九州大学・理）

地域生態系の保全・再生事業においては、目標設定をめぐるしばしば意見の対立がある。我々は2004年から2006年度にかけて、環境省環境技術開発等推進費により、「全野生種を存続させる」という基本目標と、事業立案から合意形成・事業実施の各段階において保全・再生事業が守るべき諸原則を提起し、これらの目標・原則によって、意見の対立をいかに解消しえるかを検討してきた。

合意形成には、基本目標が達成できるという保証が必要であり、そのためのモニタリング技術（調査方法と評価モデル）の開発、モニタリング調査そのものを異なる価値観を持つ利害関係者の間で協働で担う体制が重要である。その具体事例として(1)植物・水生生物・哺乳類の全野生種の保全を基本目標とする九大移転用地問題、(2)外来魚の駆除と集水域の管理事業を実施する深泥池、そして(3)シカの食害が深刻化し植物種の絶滅リスクを高めている屋久島の3つを選んで調査研究ならびに合意形成を進めてきた。その結果、合意形成における科学者の役割、客観的な調査結果に基づく共通認識の構築ならびに利害関係者の振る舞いに関する社会学的取組みの重要性についての諸原則をまとめつつあるので、本自由集会で報告し、参加者と意見交換を行う。

趣旨説明と九大新キャンパス・屋久島における全植物種モニタリング

矢原徹一（九州大・理）

屋久島のシカと植物の保護管理計画案

立澤史郎（北大・文）

深泥が池の外来魚防除事業：安部倉完

竹門康弘ほか（京大・防災研）

深泥池における生態水文学的管理手法の開発

*田中賢治・嶋村鉄也ほか（京大・防災研）

風力発電にかかわる合意形成と理念共有の差違

丸山康司（産総研）

小清水花園自然再生事業

津田 智（岐阜大・流域圏研セ）

知床世界遺産登録をめぐる合意形成の経緯

松田裕之（横浜国大・環境情報）

コメント：心理学的観点からのコメント

長谷川真理子（総合大学院大）

W04 生態から種分化に迫る

企画責任者：細 将貴（京大・理）・高橋鉄美（京大・理）

いま我々が目にしている生物の種多様性は、膨大な回数で繰り返された種分化の産物である。種分化とは、互いに交配可能な個体の集まりの中で、集団間に生殖隔離が進化するプロセスを指す。そして生殖隔離の多くは物理的に隔てられることで集団間に生じた遺伝的分化の副産物であるという考え方が、一般に受け入れられている。しかし、生殖隔離の進化は偶然の産物に過ぎないのだろうか。物理的障壁が解かれたあとも生殖隔離が維持され続けているのは、たまたまなのだろうか。近年、生態的な分化が生殖隔離を促進し、維持するという考え方（生態的種分化：ecological speciation）にそって、多くの研究が展開されている。本自由集会では、植物、植食性昆虫、淡水魚、巻き貝を材料に、生態からの視点で種分化のプロセスを解明しようとする、さまざまなアプローチを紹介する。

生息分布の境界領域での適応と分化

河田雅圭（東北大・生命科学）

寄主植物への特殊化と同時に生じた生殖隔離

松林 圭（北大・理）

Resource polymorphism が導く急速な種形成

小宮竹史（京大・理）

種分化は繰り返す：巻き貝の殻に住むシクリッドの適応進化

高橋鉄美（京大・理）

カタツムリの巻きが逆転するとき、しないとき

*細 将貴（京大・理）, 亀田勇一（京大・人環）, 呉 書平（台湾大・生命科学）

W05 ゼロからわかるセイヨウオオマルハナバチ外来種問題

企画責任者：国武陽子・今藤夏子（国立環境研究所）

ユーラシア原産のセイヨウオオマルハナバチが、2006年9月に外来生物法（通称）の規制対象となる特定外来生物に指定された。本種は授粉昆虫としての有用性が高く、その流通量は1991年に導入されて以来増加の一途を辿ってきた。しかしその一方で、在来生態系に対する攪乱が危惧されはじめ、本種の使用の是非を問う議論が巻き起こった。これらの背景をふまえた上での今回の特定外来生物への指定は、人間の農業活動と生態系保護の両立を図るという究極的命題に対する1つの象徴的な答えといえるだろう。

本集会では、今回の法指定を機に、本問題の歴史を振り返り、この問題に関わった様々な研究を整理したうえで、最近の法律指定の科学的根拠となった研究成果を紹介する。続いて、法律指定に伴う今後の野生化防除に向けて進められている研究や、マルハナバチの利用に関する意識調査に関する研究を紹介する。さらに、在来マルハナバチ種利用が新たにもたらす問題などにもふれ、農業利用と生態系保護の狭間に生じた問題の実際的な解決に、研究者として如何に貢献できるのかを議論したいと考えている。多くの方々の参加をお待ちしています。

セイヨウオオマルハナバチ問題の概要

五箇公一（国立環境研究所）

北海道におけるセイヨウオオマルハナバチの野外での目撃地域拡大の現状

横山 潤（東北大・生命科学）

外来 - 在来種の交雑問題：たとえこどもができなくても

今藤夏子（国立環境研究所）

セイヨウオオマルハナバチがエゾエンゴサクの種子生産に与える影響～野外集団の実態
堂園いくみ・横山 潤（東北大学・生命科学）

セイヨウオオマルハナバチの野外分布とその規定要因
国武陽子（国立環境研究所）

マイクロサテライト DNA によるコロニー数推定手法の開発
*小久保望，徳永幸彦（筑波大学・生命環境科学研究科）

マルハナバチ女王誘引巣箱の開発
*小出哲哉（愛知県農業総合試験場），山田佳廣（三重大院生物資源），山下文秋（愛知県農業総合試験場）

マルハナバチの農業利用に関する意識調査
（Opinion surveys of agricultural use of Bombus species）
*Su Baoqi，徳永 幸彦（筑波大学・生命共存）

自由集会

3月19日 18:00-20:00

会場 Room F

W06 化学物質の生態影響評価に対して生態学者ができること

企画責任者：池田浩明（農業環境技術研究所）・五箇公一（国立環境研）

環境の世紀と唱われる昨今、化学物質による環境負荷低減は環境保全における最重要課題の一つであり、化学物質の生態影響評価の必要性は世界的にも認識されている。我が国でも化学物質関連の国内法の整備が急務となっており、2004年度には化学物質審査法、2005年度には農薬取締法が改正され、それぞれ化学物質の登録申請にあたり生態リスク評価データの取得が義務づけられることとなった。

一方、これらの生態影響評価は室内毒性評価を機軸としており、実際場面での生態影響あるいは生物多様性影響の概念からはまだ大きく乖離したものと云わざるを得ない。何より、生態学分野において化学物質が生態系を攪乱している実態を詳細に捉えた研究例は極めて乏しく、その根底には、国内の生態学者のほとんどが化学物質に対する知識も乏しく、関心も薄いという実態がある。

本集会では、現在国内外で行われている法的規準に基づいた生態リスク評価の実態、実際の野外での影響調査結果、モデルによるリスク評価の可能性などを紹介して、化学物質による生態影響に対して生態学者がどのように関わるべきかを議論する。

農生物多様性と農薬影響評価-今、どのような影響評価を急ぐべきか？ -
日鷹一雅（愛媛大・農）

化学物質審査法・農薬取締法で生物多様性は守れるか？～室内試験・メゾコズム試験による検証～

五箇公一（国立環境研）

水田除草剤による絶滅危惧植物への生態影響
池田浩明（農環研）

化学物質の生態影響を野生生物集団の絶滅リスクで評価する試み
巖佐 庸（九州大院・理）

自由集会

3月19日 18:00-20:00

会場 Room G

W07 病原体と人間社会、生態系を結ぶマルチスケールデータベース構築に向けて

企画責任者：長 雄一（道環境研）・金子正美（酪農大・環境）・浅川満彦（酪農大・獣医）

地理情報システム（GIS）の急速な発展・普及により、動植物の分布あるいは人間社会の空間構造といった地球全体から地域レベルまでの景観生態学的な情報を取り扱うことが可能となった。

一方では、野生動物の大量死等を引き起こし人獣共通感染症の候補となり得る病原体に関する調査研究の観点からは、人間のみならず野生動物を含めた空間疫学的解析のニーズが高まりつつある。さらには、一般的にいわれる「開発行為等による生息地破壊・縮小」あるいは「地球温暖化等の長期変動」と「野生動物における疾病の発生様式」との因果関係を調べるためには、病原体情報（遺伝子情報を含む）と、GISにより蓄積された地球環境情報を結びつけるデータベースあるいは情報システムが必要となろう。

本自由集会では、病原体等の遺伝子情報から地球環境情報まで、様々なレベルの情報をどのように取扱い、異なったスケールの情報を、どのように統合管理し解析していくのか、についてディスカッションを深め、将来的な融合・創成領域研究につなげていきたいと考える。

マルチスケールデータベースの概念説明と将来展望

長 雄一（道環境研）

GISを中心としたマルチスケール情報統合技術

*金子正美（酪農大・環境）、田中克佳、赤松里香（Envision）

バイオインフォマティクスによる生物分類および遺伝子情報の一元管理

遠藤大二（酪農大・獣医）

病原生物と人間の相互作用環

川端善一郎（地球研）、*松井一彰（地球研）

感染症対策への視野の拡大 - 保全医学とマルチスケールデータベース -

*浅川満彦（酪農大・獣医）、長 雄一（道環境研）

自由集会

3月19日 18:00-20:00

会場 Room H

W08 世界自然遺産登録に向けての小笠原研究の現状と展望

企画責任者：堀越和夫（小笠原自然文化研究所）・可知直毅（首都大学東京）

小笠原諸島ではこの数年来、外来種によって攪乱された海洋島における生態系の保全と再生をめざして、多種多様な再生事業および調査研究が本格的に始動している。また、今年度に入り世界自然遺産登録に向かったの諸手続（協議会 および科学委員会設置など）が進行している。この自由集会では、小笠原諸島を後世まで自然遺産として残すという中長期的な枠組みの中で、現在その中核として進められている外来種駆除対策はもとより、希少野生生物の生息域内および生息域外の保全戦略、これまで再生・保全の対象とされなかった固有生物群の新知見などについて、最新情報の交換と広い視野からの議論を行なう。

防除の順番をどうするか：弟島ではノブタに先駆けウシガエルを排除すべし

戸田光彦（財団法人自然環境研究センター）

オガサワラシジミの保全戦略と課題：生息域内と生息域外

苅部治紀（神奈川県立生命の星・地球博物館）

小笠原諸島の陸水生物：保全区域に入りきらない野生生物種の現状と課題

佐竹 潔（独立行政法人国立環境研究所）

自由集会

3月19日 18:00-20:00

会場 Room I

W09 隠すな！ND（旧総合説）の論理破綻、結集しよう！新今西説を機軸とした“新総合説”へ

企画責任者：水幡正蔵

「既成進化論（ND）の起源論は生物学的には誤りである」。この事実は明白である。なにしろヒ

トを生物学的に定義すれば、「エピジェネティクス系も含むヒトゲノムの表現形(型)」となる。よって、生物学的なヒト起源はヒトゲノムの起源(最初の生命誕生)に一致し、NDのヒト起源とは一致しない。NDはヒトとチンパンジーとの差異化の起源を、誤ってヒト起源としたにすぎない。その結果「ヒト起源はヒト科の動物」という、まるで創造説のような起源論がまかり通った。そしてこのND起源論は生物学的「意識の起源」を隠蔽し、配偶者選択の内的機構をブラックボックスにしてきた。すでにこの新今西説の主張に多くの若手専門家が、匿名ではあれ賛同を表明している。一方、私がこのND起源論の誤りを「言語進化」の岡ノ谷一夫氏に公開質問したところ、evolveMLは私を除名した(8.22)。また進化学会大会でこの問題を人類学者に質問したが、答えはなかった(8.31)。明らかにND学会体制は、自らの“根源的誤り”を隠している。今こそ生物学的に正しい起源論に基づく“新総合説”を議論しよう!

“新総合説”へ! 「生物学的ヒト起源」と「生物学的クオリア意識モデル」
水幡正蔵

自由集会

3月19日 18:00-20:00

会場 Room J

W10 第二弾：陸域生態系におけるリン制限仮説と生物の適応

企画責任者：和穎朗太・北山兼弘

炭素・窒素の循環に比べるとリンについては不明な点が多く、生態系機能とリンの関係についても、今まで注目されなかった背景がある。昨年の自由集会では、マレーシア、キナバル山の熱帯林生態系を例に、土壌風化に伴い全リンや可給性リンの量が減少する地球化学的メカニズムとリン欠乏に対する植物・微生物の適応についての研究事例を紹介した。

風化の進んだ熱帯土壌以外にも、吸着性の高い火山灰土壌などリンが強く欠乏する生態系が温帯にも存在する。今回の集会では、温帯におけるリン欠乏やその緩和に伴う外来植物の侵入についての研究事例なども取り上げ、自然のプロセスでリンが欠乏した時の植物適応の他に、人為によって土壌リンの量が増減した時の植物や分解者群集の応答を紹介し、陸上生物とリン欠乏について幅広く討論したい。生態系生態学では樹木や微生物が注目されがちだが、リン循環における動物の役割(大型土壌動物、鳥)についての研究も紹介する。

幅広いテーマを扱うが、異なる分野間の対話を妨げる専門用語をできるだけ使わず、生態系について学ぶ多くの方々にとって勉強になる集会を目指す。

趣旨説明

和穎朗太(京大・生態研)

土壌中におけるリンの存在形態と植物による利用メカニズム(ミニレビュー)

平館俊太郎(農業環境技術研・生物多様性)

土壌リンおよびアルミニウムの生物有効性に及ぼす人間活動の影響と在来植物・外来植物の生育反応 - 北関東における草地植生の例 -

楠本良延・平館俊太郎・森田沙綾香・藤井義晴(農業環境技術研・生物多様性)

熱帯天然林生態系における樹木実生根の土壌低リン環境に対する適応：形態と酵素活性

藤木泰斗(京大・農), 北山兼弘(京大・生態研)

熱帯林土地利用の変化に伴う土壌微生物バイオマスと窒素・リン動態の関係性 - 東カリマンタンの例 -

喜多 智(東農工大・農), Cahyono Agus (Gadjah Mada 大林), 戸田浩人・生原喜久雄(東農工大・農)

大型土壌動物とリンとの関係

金子信博, 川口達也(横国・環境情報)

鳥類排泄物による栄養塩の運搬 - 都市林と山地林の比較 -

藤田素子, 小池文人(横国・環境情報)

自由集会

3月19日 18:00-20:00

会場 Room K

W11 陸水湿地の環境構造と生物多様性

企画責任者：西野麻知子（琵琶湖・環境科学研究センター）

古事記や日本書紀に「豊葦原瑞穂の国」と記されたように、水辺にヨシが豊かに生い茂る風景は、かつての日本の原風景であった。しかし日本の湿地面積は、明治・大正に比べて70%以上も消失した。また外来動植物の侵入等により、ヨシ群落などの陸水湿地に生息する在来生物の多くは、種の存続が危機的状況にある。

特に、日本最大の湖であり、また日本で最も豊かな淡水生物相を有する琵琶湖では、固有種をはじめ、多くの動植物が生存を脅かされる状況にある。一方、日本各地で自然再生の試みが実施されているが、そのための手法は確立しているとは言い難い。

この自由集会では、湿地再生の鍵となる生物多様性と環境構造との関係について、琵琶湖周辺の湿地を対象に、ヨシの遺伝的多様性、「原野（氾濫原）の植物」の分布を規定している要因、水鳥類による植物種子の運搬機能、在来魚と外来魚のブラックバス、ブルーギルとの繁殖環境の違いなどから解析を行い、在来の生物多様性を豊かにするための湿地再生のあり方について議論したい。

琵琶湖沿岸域に生育する寒地性湿性植物の分布様式

藤井伸二（人間環境大・環境保全）

西の湖周辺地域の航空3次元計測と貴重植物の分布解析

大野朋子，前中久行（大阪府大・生命環境）

琵琶湖および国内ヨシ集団の遺伝的構造と現状

金子有子（琵琶湖・環境科学研究センター），川瀬大樹（京大・生態研センター）

鳥類による植物の運搬機能解析

神谷 要（米子水鳥公園），西野麻知子（琵琶湖・環境科学研究センター）

魚類標本からみた内湖の原風景

藤田朝彦，西森英二，細谷和海（近畿大・農），西野麻知子（琵琶湖・環境科学研究センター）

西の湖における在来魚と外来魚の繁殖環境の違い

西森英二，藤田朝彦，細谷和海（近畿大・農），西野麻知子（琵琶湖・環境科学研究センター）

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room A

W12 データ解析で出会う統計的問題 - ベイズ統計学の考えかた・使いかた

企画責任者：久保拓弥（北海道大・地球環境）・粕谷英一（九州大・理）

これまでこのデータ解析自由集会では一般化線形モデル（GLM）・モデル選択・一般化線形混合モデル（GLMM）をあつかってきた。これらとの関連を検討しながら、今回はデータ解析の強力な道具として近年普及しつつある「ベイズ統計学」を生態学研究に役だてていく方法について参加者と議論したい。ベイズ統計学は事前分布と呼ばれる確率モデルを導入することで観測対象を現実的かつ柔軟に表現する統計モデリング手法である。計算機のハードウェア・ソフトウェアの発達によって、事前分布を「客観的」に規定できる階層ベイズモデルや経験ベイズ法が誰にでも手軽にあつかえるようになってきている。

この自由集会では「ベイズ統計、最初の一步」となるような、階層ベイズモデルと経験ベイズ法に

関する入門的な話題を提供し議論の材料としたい。最初に粕谷が（従来型）混合モデルと密接な関係のある経験ベイズモデルについて説明する。次に久保がごく簡単なデータ解析例題を階層ベイズモデル化する手順とマルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法による推定計算の方法を紹介する。
(この自由集会 web site) <http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~kubo/ce/>

簡単な例題で理解できる経験ベイズモデル
粕谷英一(九州大)

簡単な例題で理解できる階層ベイズ + MCMC 計算
久保拓弥(北海道大)

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room B

W13 群集生態学における適応：進化・可塑性と生物群集の相互関係

企画責任者：吉田丈人（東京大）・大串隆之（京都大）・近藤倫生（龍谷大）

生物は、生物間の相互作用や環境の変化に対応して、可塑的な反応や迅速な小進化により、表現型をダイナミックに変化させる。この短い時間スケールでの適応は、反対に、生物間相互作用や生物の環境への関わり方・生息地の構造を変え、これによって生物群集の構造や動態にまで波及する影響を及ぼす。また、長い時間スケールで生じる大進化のメカニズムは、本質的には小進化のメカニズムと同一である。小進化による形質変化が長時間にわたって継続して新しい種を生み出し、やがて多様な生物種を生み出す。この大進化による生物多様性の創出が、現在の生物群集を形づくる基盤になっている。このように、現在見られる生物群集は様々な時間スケールで見られる「適応」の所産であると考えることができる。生物の適応は、生物群集・個体群・表現型・遺伝子といった異なる生物学的階層をつなげる掛け橋となる。

以上のような生物群集と適応の相互関係を様々な視点から捉えることにより、その相互関係の全体像について共通意識を形成したい。集会の構成として、各視点からの話題提供と、それに続く総合議論を予定している。

適応による形質変化が個体群と群集の動態に影響する
*近藤倫生（龍谷大），吉田丈人（東京大）

間接相互作用への適応が生物群集を変える
*石原道博（大阪府立大），大串隆之（京都大）

敵対関係への適応 - 2種系から多種系へ -
*西村欣也（北海道大），岸田治（北海道大）

共進化の空間的モザイクと生物群集
*東樹宏和（九州大），曾田貞滋（京都大）

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room C

W14 氾濫原の自然再生に向けて

企画責任者：西廣 淳（東京大学）・河口洋一（九州大学）・萱場祐一（独）土木研究所）

「氾濫原の生物の保全」や「氾濫原の再生」といった言葉が日本でも聞かれるようになり、一部の地域では既に再生に向けた取り組みが始まっています。しかし、氾濫原の構造や機能、氾濫原に生育・生息する生物の生態についての知見は十分ではありません。そのため、再生に向けた取り組みを進める上では、先行研究の知見を踏まえ、事業を通じてこれらの理解を深めることが重要です。この自由集会では、生態学と河川工学の両面から、氾濫原に関するこれまでの研究を整理するとともに、現在開始されている氾濫原の再生の取り組みを紹介し、議論をおこないたいと思います。

内容

氾濫原の理解

- ・ 氾濫原の構造と機能 中村太士 (北大・農)
- ・ 日本における氾濫原の現状 萱場祐一 ((独) 土木研究所)
- ・ 植物からみた日本の氾濫原 西廣 淳 (東大・農)

氾濫原再生の取り組み

- ・ アザメの瀬自然再生事業 河口洋一 (九大・工)
- ・ 氾濫原だった新潟平野の放棄水田に出現する植物 紙谷智彦 (新潟大・農)

総合討論

- ・ コメンテーター 島谷幸宏 (九大・工)

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room D

W15 エンドユーザからみた DNA バーコーディング

企画責任者: 長谷川雅美 (東邦大学理学部)・伊藤元巳 (東大広域システム)・梨本 眞・松木吏弓 (電力中央研究所)

地球上の全ての生物を、遺伝子の「バーコード」で識別しようというプロジェクトが進行している。DNA バーコーディングとは、DNA の特定領域の塩基配列をデータベース化し、生物の検索・同定ツールとして用いることを目的とした手法である。DNA バーコード情報と既存の分類学的情報を組み合わせることで、迅速かつ正確な同定が可能になる。その主な活用分野は、生態学や応用昆虫学を始めとして多岐に渡り、各分野における生物種の正確な同定に対するニーズと技術発展に伴う塩基配列決定の簡便化が背景にある。国際的にも CBOL と呼ばれる国際イニシアティブが組織され、DNA バーコーディングの世界標準を発展させるための活動が行われている。その構想では、既知の生物分類群について分子バーコードインベントリーを作成し、生物多様性評価と分類群同定の基盤とすることが掲げられている。

昨年は、日本における先駆的な取り組みと世界の趨勢について情報交換を行ったが、今回は、日本における DNA バーコーディングの現状の概説と、さまざまな生態学研究に対するインパクト・可能性・意義や生態学研究コミュニティからの DNA バーコーディングに対する要望などについて議論を行う。具体的には、昆虫類や海産生物の DNA データベース作成に基づく幼生同定の取り組みを取り上げ、形態による種同定の難しい生活史ステージを対象とした研究の進捗状況、技術的進展、課題について情報交換を行いたい。

日本における DNA Barcoding ネットワークとシステム構築

伊藤元巳, 神保宇嗣 (東大・広域システム)

昆虫類の生物多様性研究における DNA Barcoding の有用性と限界

吉武 啓, 神保宇嗣 (東大広域システム)

DNA 情報を利用した海洋生物幼生の種判定と定量的解析の試み

松村清隆 (電力中央研究所)

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room E

W16 蜂合わせ ~ 蜂好き達の宴 ~

企画責任者: 鈴木ゆかり (九大・理)・徳永幸彦 (筑波大・生命環境科学)・永光輝義 (森林総研)

この自由集会では、「歌合わせ」をなぞった「蜂合わせ」を行いたいと思っています。歌合わせとは、甲(左)の歌と、乙(右)の歌とをつがわせて、その優劣を判定する文学的なゲームです。平安時代後期に生まれ、勝敗を決することにより歌論が高まり、多くの優れた和歌が生まれました。この歌合わせと同じ形式で、蜂を研究している方々に講演していただこうと思っています。あえて競技性

を入れることによって、蜂研究の議論を高めることを目的としています。

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room F

W17 生物の空間分布データから生態学的プロセスを推測する

企画責任者：角谷 拓（東大・農学生命） 天野達也（農環研・生物多様性）

生物の空間分布がどのように決まっているのかを明らかにすることは生態学の重要なテーマの一つであり、対象生物の保全や管理を行う際にも欠くことができない。そのため近年では生物の空間分布データを扱う機会はますます増加しているものの、多くの研究では空間分布と環境要因との関係を記載するにとどまっているのが現状である。

しかし、観察された生物の空間分布パターンには、そのパターンを生み出した行動、移動・分散、生物間相互作用といった生態学的プロセスに関する情報が、潜んでいる可能性がある。したがって、うまく潜んでいる情報を顕在化させることができれば、野外では直接測定することが難しい生態学的プロセスの影響を明らかにできるかもしれない。そのためには、空間分布データのサンプリング、空間分布データからのパターンの抽出、プロセスを組み込んだモデリング、モデルの予測と観察されたパターンとの比較といった一連の手続きが必要となる。

本集会では、野外で苦労して得た空間分布データをできるだけ有効に活用するための分析例を、演者らが主に大学院で行った研究を事例に、自らの試行錯誤の過程も踏まえてできるだけわかりやすく紹介したい。

コメンテーター：宮下 直（東大・農学生命）

鳥類群集の空間的自己相関構造の特定、解釈、重要性：空間明示型統計モデリング

山浦悠一（森林総研・昆虫生態）

外来植物アカギの分布適地と分布拡大を同時に推定する

深澤圭太（横国大・環境情報）

複数タイプのハビタット利用を考慮した移入ポテンシャルの予測：トンボ目昆虫を事例に

角谷 拓（東大・農学生命）

採食地について情報が不完全な個体の意思決定則 - 群れ採食を行うマガンの例 -

天野達也（農環研・生物多様性）

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room G

W18 植物における物質分配の生理生態学

企画責任者：種子田春彦（東大院・理）・齋藤隆実（東大院・理）・鍋嶋絵里（農工大）・宮沢良行（九大・熱帯農業研究センター）・小口理一（東大院・理）

光合成産物は各組織へと分配され、植物体の骨格として形を決めることで成長速度を左右する。植物は戦略的にこうした物質分配をコントロールして、生育環境に適応することが知られている。

物質分配のパターンを決めるしくみは大きく二つの方向で議論されている。ひとつは生理的な応答を中心にした研究で、生育環境に対する分裂組織の活性や植物ホルモンを介した応答を通じた形態形成の仕組みを探るものである。もうひとつは適応的な視点からの研究で、生育環境での各器官への資源の分配量が個体の機能と適応度にどのように影響するのかを検討するものである。種間・種内ではどれほどの多様な物質分配パターンがあるのか、そして物質分配にはどんな限界があるのかを系統的に理解するためには、前者の視点から明らかにできる定性的な反応経路と、後者の視点から明らかにできる応答の定量的なレンジとを同時に考慮することが必要だろう。

本集会では、以上のことを踏まえて、物質分配のパターンとその制御に関わるメカニズムについて理論的に研究されている方々と記載的に研究されている方々の両方に集まっていただき、話題を提供

していただく。さまざまな分野の方から議論に参加していただければ幸いです。

葉と茎、枝間の相互依存性：パイプモデル構造の構築・維持と力学的な樹形の形成
曾根恒星（東大院・理）

植物の地上部／地下部比はどう決まる？ 外的要因と内的要因
大曾根陽子（森林総研・樹木生理）

カンキツの高品質連年生産と物質分配
草場新之助（農研機構果樹研・四国）

物質分配の制御モデルと予備的なテスト
舘野正樹（東大院・理・日光植物園）

コメンテーター
竹中明夫（国立環境研）

自由集会

3月20日 18:00-20:00

会場 Room H

W19 特定外来生物防除の最前線～対策と問題点～

企画責任者：山田文雄（森林総合研究所）・五箇公一（国立環境研究所）・草刈秀紀（WWF ジャパン）

2005年6月に外来生物法が施行されてからこれまでに、90種類に上る外来生物が、規制対象種である「特定外来生物」に指定された。これらの特定外来生物の中には、既に日本国内で定着して、分布を広げ、在来生物や生態系、さらには人間生活にも深刻な被害を及ぼしている種が多数存在する。特定外来生物の野生化個体群防除は、外来生物対策の緊急課題と言える。本集会では、アライグマ、マングース、オオクチバス、アルゼンチンアリ、グリーンアノール、カミツキガメなど、特定外来生物の防除に関する研究や事業を実際の現場で推進している研究者の面々を揃え、現在の防除実態および将来予測、さらに現状の問題点について解説して頂き、会場の方々と交えて、外来生物防除の推進に生態学者が何をすべきかについて議論したい。

アライグマ防除の現状と課題
池田 透（北大・文）

各地のオオクチバス防除事業：新技術の開発と今後の課題
中井克樹（琵琶湖博物館）

外来アリ類の防除：低いリスクで高い効果を
*五箇公一（国立環境研）、杉山隆史（フマキラー）

グリーンアノールの防除：効率的なトラップを探せ
戸田光彦（自然環境研究センター）

外来種カミツキガメの個体群動態予測モデルと駆除シナリオ
*長谷川雅美（東邦大・理）、小林頼太（東大・農・院）

マングース駆除事業の現状と課題
山田文雄（森林総合研）

南西諸島と本州（越前市）の外来種に対する地域住民意識の比較
*草刈秀紀（WWF ジャパン）、長野義春（越前市エコビレッジ交流センター）

W20 タケは里山の厄介者か？ - 竹林の拡大と環境への影響 -

企画責任者：鳥居厚志（森林総研）・奥田史郎（森林総研）・豊田信行（愛媛県林業技術センター）

近年、西日本の里山地域を中心にモウソウチクなどのタケ類が自然に分布を拡大し、周囲の二次林や人工林、耕作地へ侵入する現象が顕著に観察されている。これまで、拡大の実態やその要因、拡大速度などに関して報告がなされ、次第に拡大の概略が明らかになってきた。しかしタケ類は、元々タケノコや竹材を採取するための栽培植物としての側面が強く、自然生態系の構成要素という見方が少なかったために、まだまだ生理・生態特性についての基礎データは不足している。

一方、竹林の拡大による周辺環境、とくに森林の持つ多面的機能への影響が懸念されているにもかかわらず、その影響を評価・予測する試みはほとんどなされていない。たとえば、周辺の植生、昆虫、動物相への影響や水源涵養機能、土砂崩壊防止機能への影響、景観に与える影響など解明すべきテーマは多岐に渡っている。

ここでは、これまで明らかになってきた竹林の拡大の実態を整理するとともに、拡大の影響について若干のアプローチ結果をもとに問題点の抽出や今後の研究の方向性について議論する。

タケ生態研究の現状と今後の方向性

鳥居厚志（森林総研四国）

竹林のバイオマス

奥田史郎（森林総研四国）

高知市における竹林の拡大実態

三宅 尚（高知大・理）

放置モウソウチク林に分布する撥水性土壌

豊田信行（愛媛県林技センター）

W21 侵入から四半世紀～ジャンボタニシは今どうなっているのか

企画責任者：伊藤健二（農業環境技術研究所）・日鷹一雅（愛媛大学）

スクミリングガイ（ジャンボタニシ）は稲を加害する有害な生物として、その防除が重要な課題となっている外来種である。その実害と目立つ姿からテレビ等で取り上げられる事も多く、「あのピンクの気持ち悪い卵」「田んぼにいるでっかい貝」としてお茶の間にもその存在が広く知られるようになってきた。本種は公的には「有害生物（農水省）」、「要注意外来生物（環境省）」にも指定されているが、国内での移動や放流は違法ではないため、農家が除草を目的として意図的に水田へ放流するケースすら出てきている。

そんな「身近になった」スクミリングガイだが、その生態には未だ明らかになっていないことは多い。特に、侵入地域における在来環境への影響については、懸念されつつも十分な研究が行われていないのが実情である。本集会では、様々な地域と分野でスクミリングガイに携わる研究者にその現状についての情報提供をして頂くと共に、なにが今問題なのか？何を明らかにするべきなのかについて、議論する場としたい。

趣旨説明と「スクミリングガイの分布拡大」

伊藤健二（農業環境技術研究所）

「農作物の有害動物としてのスクミリングガイ」

和田 節（九州沖縄農業研究センター）

「ジャンボタニシ個体群拡散によって、松山周辺の水田生態系で起こっている事」

*日鷹一雅、徳岡美樹、石井貴広（愛媛大学・農学部附属農場）

「実験動物としてのスクミリングガイ：性比変動と性決定メカニズムの解明」
遊佐陽一(奈良女子大・理)

自由集会

3月22日 18:00-20:00

会場 Room A

W22 博物館の生態学3 ~標本のチカラ~

企画責任者：石田 惣(大阪市立自然史博物館)・三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)・鈴木まほろ(岩手県立博物館)

博物館に収蔵されている標本は、生態現象を記録したタイムカプセルである。この記録をいかに読み解き、生態系の理解へと発展させるのか。最新の研究成果においても、標本の威力が再認識され、その方法論が再構築されつつある。その主な理由は、化学分析技術および情報処理技術の著しい向上と普及、過去の研究成果の蓄積と流通が挙げられる。今回の自由集会では、これら最新の知見をレビューする(企画者・鈴木)と同時に、具体的な事例を紹介する。1つ目は、過去100年間の琵琶湖産魚類標本から安定同位体を測定することで過去の生態系を復元する試み(京大生態研・奥田昇ら)について、2つ目は全国の博物館標本記録を集計し、沿岸域における外来生物の侵入動態を把握する試み(三重大・木村妙子ら)について取り上げる。これらの報告を受けて、コメンテーター(大学関係者1名を予定)から標本の活用とその成果の蓄積・流通について意見を伺い、会場参加者を交えて標本活用の有効性と今後の展開について議論する。本集会のディスカッションは博物館の標本収集・整理事業へフィードバックされることが期待され、博物館と生態学をつなぐ実践的な取り組みでもある。

博物館標本を使ってみたら ~生態学的活用事例集~

鈴木まほろ(岩手県立博物館)

生物標本が語る琵琶湖生態系100年史：安定同位体分析からのアプローチ

*奥田 昇(京大生態研), 小宮竹史, 加藤義和, 奥崎 穰, 堀 道雄(京大・理・動物), 陀安一郎, 永田 俊(京大生態研)

博物館・水族館の収蔵標本から見た日本の海洋移入ベントスの現状(2003年収蔵目録調査から)

*木村妙子(三重大院・生物資源), 岩崎敬二(奈良大・教養), 大越健嗣(石巻専修大・理工), 小菅丈治(西海区水研)

コメント：標本を活用した生態学研究の展望

未定(大学関係者1名を予定)

自由集会

3月22日 18:00-20:00

会場 Room B

W23 数理生態学はどこからきて、どこへゆくのか

企画責任者：山内 淳(京都大学)・巖佐 庸(九州大学大学院)・加藤元海(愛媛大学)・辻 宣行(北海道大学)・谷内茂雄(総合地球環境学研究所)

日本の数理生態学の黎明期からそれを支え築き上げられてきた2人の演者の話題提供を軸に、数理生態学のアイディアや方法が、(1)生態学諸分野にどのように影響を与え、逆に刺激を受け、学問として発展してきたか、(2)また今後、どのような問題にチャレンジしていくべきなのか、を広く議論する。

具体的には、システム論的な立場から群集生態学や生態系の研究を進めてこられた中島久男先生(立命館大学)と、行動生態学や共進化のご研究を大きなテーマとされて数理生態学の分野を開いてこられた山村則男先生(京都大学)に、「食物網・生態系の解析」と「生物の適応戦略・進化」という数理生態学の二つの大きな潮流の歴史的発展と、さらに近年、これら二つの流れが「進化を考慮した個体群動態」に融合してきた様子を解説していただく。また、同志社大学の重定南奈子先生にはお二人のこれまでの御研究についてコメントをお願いする。それらを踏まえて今後の数理生態学の方向性を探る。

これは、数理生態学者だけではなく生態学会に参加する多くの人に関連する話題でもあり、分野を問わず生態学会の関係者に広く自由に参加していただいて、今後の生態学を考えるきっかけとしたい。

生態系・群集の構造と安定性に関する数理的研究の発展

中島久男（立命館大・理工）

適応戦略理論からそれを考慮した個体群動態研究の発展

山村則男（京大・生態研センター）

コメント

重定南奈子（同志社大・文化情報）

自由集会

3月22日 18:00-20:00

会場 Room C

W24 生物の時間空間変動理解のための実証的・理論的アプローチ

企画責任者：小関右介（中央水産研究所） 原田祐子（中央水産研究所）

生物集団の時空間変動の研究では、周期的な変動や広域的な空間同調など特徴的なパターンに着目し、そのメカニズムの理解を目指してきた。近年、個体変異データの時系列解析への活用、大規模な長期時系列データの蓄積、時系列解析に関する統計的手法の発展、数理動態モデルの展開といった異なるアプローチからの新しい研究が進みつつある。今回は特に変動要因の違いに着目し、小関による「生活史から生じる変動」、山村氏による「環境による変動」、佐々木氏による「種間関係から生じる変動」の研究を紹介する。

またこの自由集会では、研究アプローチの違いにも着目する。現実の変動データから始まる実証的研究（山村、小関）と、背景にある個体群モデルを想定することから始まる数理モデル研究（佐々木、原田）という反対方向からのアプローチをとる研究者が集まることで、個体群の時空間変動のメカニズムの理解について、今後の研究の展望を議論したい。

コメンテーター：齊藤隆（北大・フィールド科学センター）

サケ二型頻度の時空間データ解析

小関右介（中央水産研究所）

昆虫の長期個体群動態の解析

山村光司（農業環境技術研究所）

疫学動態の非同調性・空間クラスタリングと病原体の進化

佐々木頭（九大・理・生物）

自由集会

3月22日 18:00-20:00

会場 Room D

W25 淡水産外来無脊椎動物の侵入実態と防除に向けた課題

企画責任者：竹門康弘・岩崎敬二（奈良大学教養部）・佐竹 潔（国立環境研究所生物圏環境研究領域）・西川 潮（国立環境研究所環境リスク研究センター）

近年、日本の淡水域では、ヌマエビ類、ヨコエビ類、プラナリア類、軟体動物、寄生・共生性環形動物、寄生性吸虫類などで新たな外来種が次々に発見され、急速に分布を拡大しつつある。これらの無脊椎動物については、日本生態学会編集の『外来種ハンドブック』に未掲載である上、組織的な情報収集が行われておらず、シンポジウムなどの集會も開催されることがない。そのため、専門家以外にはその存在さえも知られておらず、誤同定されたり見過ごされたりしている可能性も高い。2004年6月に施行された特定外来生物被害防止法では、淡水産外来無脊椎動物のうち8タクサが特定外来生物に指定されて対策が検討されつつあるが、上記のような新たな外来種は、要注意外来生物リストにも未掲載であり、導入手段の推定やリスク評価・防除のための基礎資料が十分に揃っていない。

本自由集会は、淡水産の外来無脊椎動物の現状をまとめて報告する日本初の試みであり、特定外来生物に指定された種と新たな外来種の現状を対比させながら、移入手段の管理(特に移入される釣餌やペットへの付着・混入)、分布拡大の阻止、防除の方策などについて議論する。さらに、淡水産外来無脊椎動物の情報収集・集約や対策の検討を組織的な進めるためのネットワーク構築のきっかけとしたい。

特定外来生物カワヒバリガイの分布と防除の現状

中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館/滋賀県自然環境保全課)

特定外来生物シグナルザリガニ:ミトコンドリアDNAに基づく遺伝的変異、生態系への影響および管理対策

西川 潮(国立環境研究所)

大型甲殻類に外部共生するヒルミズ類の分布の現状

大高明史(弘前大学)

外来カワリヌマエビ属の現状

西野麻知子(滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター)

外来プラナリア類の現状(予報)(ポスター講演)

*川勝正治(元藤女子大学), 西野麻知子(滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター), 大高明史(弘前大学), 山本清彦(元長崎純心高校), 佐々木玄祐(都立城南高校)

フロリダマミズヨコエビの分布の現状と侵入・拡散・定着の要因

金田彰二(日本工学院専門学校)

コモチカワツボ類の現状と課題

浦部美佐子(滋賀県立大学)

小笠原諸島の淡水産無脊椎動物(カワニナ)と在来種への影響

佐竹 潔(国立環境研究所)

自由集会

3月22日 18:00-20:00

会場 Room E

W26 樹木のモジュール構造は繁殖にどう関わっているのか

企画責任者:長谷川成明(北大・地球環境)・城田徹央(北大・低温研)・関 剛(森林総研東北)

樹木は枝分かれを繰り返すことで樹冠を拡張している。そのため、樹冠は基本単位となる枝の繰り返し構造とみなすことができる。この基本単位はシュートモジュールと呼ばれている。シュートモジュールは光合成生産を行う基本単位であると同時に有性繁殖を行う基本単位としても機能する。すなわち、一部のシュートモジュールには繁殖器官が配置される。

繁殖器官を配置された、すなわち繁殖器官をもつシュートモジュールは、もたないシュートモジュールと、樹冠形成の上で異なる役割を果たす。例えば、繁殖器官をもたないシュートモジュールは、枝系が今後伸長していく上で土台となる構造を発達させるのに対し、繁殖器官をもつシュートモジュールは以降の枝系の伸長を抑えてしまうことが多い。そのため、繁殖器官をどのように配置するかによって、樹形は変化すると予想される。

また、資源が有限であることから、繁殖器官をもつシュートモジュールの形成は、間接的に、繁殖器官をもたないシュートモジュールの挙動に制約を与えるだろう。加えて、繁殖器官の生産あるいは成熟には、光合成産物の輸送が必要である。繁殖器官に対して、どのシュートモジュールで生産された光合成産物が、どのように輸送されるかという点にも、目を向ける必要があるだろう。

この自由集会では、これらの問題を踏まえて、樹木のシュートモジュールと繁殖の関係について取り扱った3つの研究を紹介する。その上で、シュートモジュールから樹木個体へのスケールアップ、あるいは生活史戦略の解明といった、将来的な課題に対する研究の方向性について議論していきたい。

集会ウェブページ <http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~shasegaw/shoot/>

趣旨説明

長谷川成明(北大・地球環境)

樹冠内での果実の分布は個体サイズによって違うのか？

鈴木 新(東大・理)

コバノミツバツツジにおいて開花が変える分枝構造

吉村謙一(神戸大・院・自然科学)

果実への資源分配経路をシュートレベルで追跡する

宮崎祐子(奈良県森林技術セ)

コメント

久保拓弥(北大・地球環境)

コメント

石井弘明(神戸大・院・自然科学)

自由集会

3月22日 18:00-20:00

会場 Room F

W27 パラサイト・パラダイス～日本にやってくる侵入寄生生物～

企画責任者：五箇公一・今藤夏子（国立環境研）

体長 1mm にも満たない微小なダニ等の無脊椎動物や菌類、細菌類、ウイルス等の寄生生物は、非意図的かつ恒常的に国内に持ち込まれていると考えられる。これら寄生生物は原産地においては長い共進化プロセスを経ているため、宿主生物に対する負の影響が顕在化することは少ない。しかし、これまでに人類自身はその歴史の中で経験してきた悪性の伝染病のように、本来の宿主から新しい宿主に乗り換えるホストスイッチが起こると、寄生生物は新たな宿主に対して重大な被害を与える恐れがある。

これまで我が国においては感染症予防法や家畜伝染病予防法、植物防疫法により外来寄生生物の侵入を阻止してきたが、これらの法律では、ヒト、家畜および農林作物に対して有害な寄生生物のみが規制対象であり、生態系影響は考慮されていない上に、爬虫類や昆虫類の寄生生物はほとんどが規制対象外となっている。さらに外来生物法では目視で種の識別が可能な外来生物種のみが規制対象となっており、事実上、外来生物に随伴して侵入してくる寄生生物の規制システムは無いに等しい。

本集会では、輸入植物、輸入昆虫、輸入爬虫類等とともに日本に持ち込まれている寄生生物の実態と生態リスクについて、実証データを交えて紹介し、侵入寄生生物の対策を議論・検討する。

ダニ輸入大国日本～植物寄生・昆虫寄生ダニを例として～

五箇公一（国立環境研）

ペット用爬虫類に寄生するマダニ

*高野 愛（岐阜大・獣医）、川端寛樹（国立感染研）

ペットとともにやって来る感染症

宇根有美（麻布大・獣医病理）

Wolbachia ～細胞内寄生細菌による新しい生態リスク～

今藤夏子（国立環境研究所）

W28 群落談話会 - 種多様性概念と地域の生物多様性保全

企画責任者：吉川正人（東京農工大学）

「生物多様性」の保全は、いまや地域の自然を守るための最大の根拠となっている。「生物多様性」には、生態系レベル、種レベル、遺伝子レベルの多様性が含まれるとされるが、現実の保全の現場では「種多様性」をどのように理解するかが、対象地域の「生物多様性」の評価に大きく影響する。その意味で、植生調査やフロラ調査で得られたデータをどのように利用すれば適切な種多様性評価ができるのかは、植生学の新たな重要課題である。こうした問題について、我々は誌上討論を通じて議論を重ねてきたが、最近になって植物群落や地域を対象として、種多様性の構造を理解しようとする研究がおこなわれるようになってきた。そこでこの自由集会では、こうした課題に取り組んでいる2人の若手研究者から話題提供をいただき、種多様性評価と空間スケールの問題や、植物群落の多様性と種多様性との関連について議論を深めたい。

孤立照葉樹林の種多様性評価に必要な視点
石田弘明（兵庫県立人と自然の博物館）

里山地域における植物の種多様性と群落多様性
根本真理（東京農工大・連合農学研究科）

W29 生態学者よ、街に出よ！Part4 研究活動と企業環境活動の架け橋

企画責任者：石川真一（群馬大学社会情報学部）・足立直樹（株式会社レスポンスアビリティ）・可知直毅（首都大学東京）

本自由集会はこれまで、いくつかの企業のCSR（企業の社会的責任）部門にご所属の方々を招き、企業による緑地保全や生物多様性保全活動の現状をご報告いただいた。これらの報告で、環境方針に緑地の創生や生物多様性の保全を明確に掲げ、具体的な環境活動としてすでに実行している企業が多くあることがわかった。

その一方で、これらの企業の方針や活動は必ずしも学術的に裏付けられたものでない場合があることと、企業はそのような「学術的裏付け」を大いに欲していることも明らかになった。まさしく、今後は企業と学術研究者の「協働」が不可欠となっていくといえる。

そこで今回は、企業が現在実際に行っている緑地の創生や生物多様性の保全の取組みに対して、研究の現場にいる方々から専門的立場からのコメントやご提案をいただくため、パネルディスカッション形式で意見交換を行う。また参加者からも、学術的見地からのコメントをいただく時間を設定する。企業の環境活動にご関心、ご意見のある研究者、学生の方々、どうぞ多数ご参加ください。

話題提供企業：サラヤ株式会社 ほか2社

パネリスト：可知直毅（首都大学東京） ほか

詳しくは、以下のホームページをごらんください。

<http://www.si.gunma-u.ac.jp/t/ishikawa/part4.html>

W30 南西諸島における亜熱帯林の動態と生態系保全

企画責任者：榎木勉（九州大学・農）・久保田康裕（鹿児島大学・教）・辻和希・高嶋敦史（琉球大学・農）

南西諸島は、固有種の豊富さから生物地理学的に古くから注目されてきた地域であるが、近年では、島嶼生態系の脆弱性と様々な人為攪乱（森林伐採・外来生物等）により崩壊の危機に瀕している。これまで第53回、54回大会で企画された自由集会「南西諸島における森林生態系保全に関する研究の現状と今後の展望」では、南西諸島で行われている「生物多様性損失の阻止」を目指した研究事例を話題とし、応用的な保全研究を展開するための方向性について議論してきた。そこでは、個別の基礎研究課題の追求だけでなく、「生態系保全」という応用的問題にも対処するためには、サイトやデータの共有等も含めた、生態学的基礎情報の共有に基づく共同研究の重要性が再認識された。

現在沖縄島北部で展開されている研究では、このような共同研究の枠組みが構築されつつある。本自由集会ではこれらの研究事例を紹介する。

亜熱帯林の再生過程に伴う生産量の動態とその時系列変異

*山田島崇文，久保田康裕（鹿大教）

育成天然林整備事業と植物群集構造

阿部 真（森林総研）

やんばるにおける森林攪乱がアリ群集に与える影響について

*諏訪部真友子，大西一志，菊地友則，辻 和希（琉球大学・農）

個体ベースモデルによる亜熱帯林の再生過程と林木種遷移の解析

*藤井新次郎，久保田康裕（鹿大・教）

亜熱帯常緑広葉樹林におけるツル植物の空間分布パターン

*楠本間太郎，榎木勉（九大生資環学府）

W31 第13回 Matter Flow and Ecosystems

企画責任者：別宮（坂田）有紀子（都留文科大学）・大塚俊之（茨城大学）

テーマ「土の中の生きものたち：生態現象からフラックスを考える」

土壌生態系は非常に多様で複雑である。しかも目に見えない。それゆえ炭素循環研究では土壌中の生物活動を極端に単純化した形で取り扱ってきた。近年、観測技術の発達により土壌からのCO₂フラックスの季節変動・年変動が詳細に追えるようになり、同時に根や微生物のバイオマスの変動と合わせて議論ができるようになってきた。しかし、複雑かつ微細で多様な土壌中の生きものたちの世界について私たちはまだほんの一部しか知り得ていない。土の中で起こっている生態現象の理解なくしては、炭素循環研究の生態学的な発展はあり得ない。

そこで今回は、土壌中の生きものたちの生態を研究している若手研究者に、土壌中の生きものの生態が物質循環に及ぼす影響について話題を提供していただく。そしてコメンテーターと演者そして参加者との間で、土壌中の生きものたちの動態が土壌炭素フラックスにどのような影響を与えているのかについて議論してゆきたい。

コメンテーター：内田雅己（国立極地研究所）・李 美善（岐阜大学・流域圏科学研究センター）

植物体地下部の動態はどの程度土壌炭素フラックスに寄与しているのか？

里村多香美（北大・北方生物圏フィールド科学センター）

三重苦にあえぐ菌類生態研究は生態系機能の研究にインテグレートできるのか？

大園享司（京大・農・森林生態）

種子散布研究会・フェノロジー研究会

企画責任者：大野啓一（千葉県立中央博物館）・福井晶子（日本野鳥の会）・山口恭弘（中央農業総合研究センター）

果実フェノロジーと種子散布者の不思議な関係

～液果と冬の渡り鳥をめぐって

液果の生産量には豊凶があり、冬期の渡り鳥の餌資源量と果実の消費速度に大きく影響する。また、果実食の渡り鳥が増加する時期に実を熟す液果植物が多いと言われてきたが、南北に長い日本列島において、両者のタイミングにどのような地理的・時間的変異があるのかは明らかでない。そこで、液果と渡り鳥に関する4つの研究例を紹介し、それらの長所短所から「理想的な調査方法」を議論し、全国規模での「液果と渡り鳥」調査の参加者を募りたい。

日時：3月22日（木）19:30～22:00

会場：玉菊荘（松山市道後湯ノ町 4-47）Tel. 089-921-5395 大会会場より東へ徒歩約 20 分
（http://www11.ocn.ne.jp/~tamagiku/index_1.html）

* 会場での宿泊を推奨（二食付き 7500 円、先着 20 名）

* 参加申込は不要ですが、宿泊申込は、大野啓一（oonok@chiba-muse.or.jp）に、2月末日までに願います。

ミズキ果実の豊凶と結実フェノロジーの長期定点調査

正木 隆（森林総研）

果実の豊凶と鳥による果実消費の長期定点調査

和田 岳（大阪市立自然史博物館）

秋季におけるヒヨドリの渡り全国調査

山口恭弘（中央農業総合研究センター）

アカメガシワを消費する鳥類に関する全国調査

福井晶子（日本野鳥の会）

アグロエコロジー研究会 在地・在野の農生態系インタープリター大集合 - 生態学の学究と農村現場をいかに結ぶか？ -

企画責任者：嶺田拓也（農村工学研究所）・日鷹一雅（愛媛大・農・附属農場）

9回目を迎えるアグロエコロジー研究会では、今回、愛媛大農学部附属農場内会場を借り最終日3月23日（金）～24日（土）の登録予約制サテライト企画として開催する。近年、生態学の成果や理論が様々な応用場面に活かされる機会が増えてきており、ますます基礎科学の知見とその応用を図る現場とを結ぶ職人（インタープリター）の重要性は高まっている。例えば、各地で実施されている自然再生事業の現場においても、市民と専門家集団との協働関係を結ぶ生態系インタープリターの役割は無視できない。農村の生物多様性の重要性が広く認識されつつある今、里地里山の農村現場において活躍する農生態系インタープリターが求められている。今回は、里地・里山・海辺にある大学農場フィールドの中で、インタープリター合戦も交えて、学者とインタープリターの両者の協働をテーマに自由闊達な交流・議論を展開する。招待講演者には、NPO法人でインタープリター職人として、食農を通じた自然教育や「田んぼの生きもの調査」等で先駆的な活動を行っている在地・在野の農生態系インタープリターを招聘する。さらに、生態学会からの代表としては、最近流行しはじめている「共生関係のゲーム理論」（松田裕之著 環境生態学序説 7章 共立出版）のパフォーマンスを予定している。愛媛大学からは現代的教育ニーズの環境教育・ESDプロジェクトから、附属農場、演習林などのスタッフやOBからも参加する予定。研究活動の傍らにインタープリターとしても活躍されている方々も揃え、農場内にてインタープリターぶりを披露していただきたい。パフォーマンスは飛び入り参加大歓迎！

スケジュール：3月23日（金）前半 午後3時半開始～7時頃

懇親会（宿泊代は500円）

3月24日（土）後半 午前

予定講演者および実践講座講師

岩淵成紀（NPO法人田んぼ） 田んぼの生態系をどう伝えるか

浜本奈鼓（NPO法人環境教育事務所くすの木自然館） 日本の食農と自然教育

松田裕之（横浜国大） 協働とは？ 共生関係が見えてくる「囚人板挟みゲーム」

コメンテーター：森本信生（中央農業総合研究センター）

山本勝利（農業環境技術研究所）

嶺田拓也（農村工学研究所） 草花にもっと寄り添う 初春の田の草花ガイド

また、そのほか生態学会代表選手、愛媛大学農学部および附属農場・演習林スタッフらも多数参加予定

なお、会場の愛媛大農場は松山市街から離れているため、宿泊込みの参加者も募集する予定（先着50名程度、ただし野営も可能なので、人数はこの限りではない）。宿泊施設があるため、子連れ参加も歓迎。会場は、学会会場（城北地区）から20km、松山市八反地498 JR伊予北条駅から3km

（参照地図<http://web.agr.ehime-u.ac.jp/~farm/hojomap-expand-j.html>）

本企画は予約制で行うため、事前申し込みが必要。申込者には、追って交通の便やその他詳細についてご連絡いたします。

申込先：愛媛大附属農場 日鷹一雅（sunhwkaz@agr.ehime-u.ac.jp）2月28日（水）まで

田んぼの生態系をどう伝えるか

岩淵成紀（NPO法人田んぼ）

日本の食農と自然教育

浜本奈鼓（NPO法人環境教育事務所 くすの木自然館）

草花にもっと寄り添ってみませんか 初春の田の草花ガイド

嶺田拓也（農村工学研究所）

本当の協働とは？ 共生関係が見えてくる「囚人板挟みゲーム」

松田裕之（横浜国大）

参加登録者一覧

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P3-101	相川 慎一郎	神戸大・理・生物	P3-140	○ 池田 浩明	(独) 農業環境技術研究所
P3-148	○ 相崎 香帆里	奈良女子大学	P3-184	○ 池田 紘士	東大・院・農学生命
P1-199	饗庭 正寛	京大・生態学研究センター	P3-252	池田 史枝	横浜国立大学
P2-083	青山 圭一	北大・院・環境	P3-220	○ 井坂 友一	信州大・理
P1-148	○ 赤坂 宗光	国立環境研究所	S02-1	○ 井鷲 裕司	京都大学農学研究科
C1-01	○ 明石 信廣	北海道林試	P1-127	石井 潤	東京大院・農
G3-02	○ 赤松 伸祐	徳島大学	P3-042	石井 翔	弘前大学
C1-12	赤松 良久	琉球大学工学部	P1-231	石井 弘明	神大院・自然科学
P3-052	秋野 淳一	自然共生研究センター	P3-056	石井 博	University of Calgary
P1-031	○ 秋山 耕治	京大院・農・昆虫生態	P3-178	石井 宏昌	横浜国大・院・環境情報
P2-178	秋山 克	幌延地圏環境研究所	S13-7	○ 石井 実	大阪府立大学大学院
P3-173	秋山 美樹	筑波大学 生物資源学類	P1-238	石井 義朗	岡山大院・環境学研究科
P1-078	○ 秋山 吉寛	北大地球環境科学	G1-11	石井 励一郎	地球環境フロンティア
P1-080	揚妻 直樹	北大・苫小牧研究林		石神 唯	東京都立大学
P3-007	浅川 満彦	酪農大・獣医	P2-106	○ 石川 笑子	岡山理大院・総情・生地
P2-223	浅原 宏子	弘前大学大学院	P1-113	○ 石川 真一	群馬大学社会情報学部
	○ 浅見 崇比呂	信州大学理学部生物科学科	P2-034	○ 石川 尚人	京大・生態研
P2-033	○ 安立 美奈子	農業環境技術研究所	P1-068	○ 石川 幸男	専修大学北海道短期大学
P1-040	阿部 寧	水産総合セ西海水研	P3-126	○ 石崎 智美	北大・院・環境科学
P2-145	○ 阿部 真	森林総合研究所		○ 石田 厚	森林総合研究所
P1-085	○ 安部 哲人	森林総合研究所	P3-200	○ 石田 清	森林総合研究所関西支所
P2-005	○ 阿部 俊夫	森林総研	P2-237	石田 健太郎	筑波大・生命共存
P3-059	阿部 晴恵	東邦大学	P2-118	○ 石田 真也	新潟大学院自然科学研究科
P1-166	阿部 佑平	京都大学大学院農学研究科	P2-180	○ 石田 惣	大阪市立自然史博物館
P3-149	○ 安部倉 完	京大・理・動物生態	P2-175	○ 石田 孝英	東大院農
P1-020	○ 天野 達也	農環研・生物多様性	P3-029	○ 石田 裕子	京都大学防災研究所水資源
P2-078	○ 天野 百々江	神戸大学自然科学研究科	P2-113	○ 石塚 航	東大・演習林
P2-036	新井 宏受	京大院・農	P2-086	石橋 聰	森林総研北海道
P1-172	○ 荒木 希和子	北大・院・環境科学		○ 石濱 史子	国立環境研究所
	○ 荒木 良太	財) 自然環境研究センター	F1-13	○ 井関 高平	大阪府大・理学系研究科
H3-06	荒西 太士	宮崎大学農学部	P3-213	○ 井関 智裕	東京植生研究会
P1-058	安 榮相	北海道大学農学研究院	P1-027	○ 磯村 尚子	琉球大・理工
	○ 安溪 貴子	山口大学非常勤講師	P1-170	○ 井田 崇	北大・院・環境科学
	○ 安溪 遊地	山口県立大学		井田 秀行	信州大・教育・志賀高原
P1-063	○ 安藤 大介	東大・院・農	P2-105	○ 位田 真弓	岡山理大院・総情・生地
S10-4	安東 義乃	京大生態研センター	P1-174	板垣 智之	東北大・院・生命科学
P2-002	○ 李 美善	岐阜大流域圏科学研究セ	P1-091	○ 井澗 美希	岐阜大学
P1-214	飯尾 淳弘	静岡大学農学部	S05-6	○ 市栄 智明	高知大学
P2-084	○ 飯島 勇人	北大院・農		○ 市岡 孝朗	京都大学人間環境学研究科
P3-079	五十嵐 聖貴	道環境科学研究センター	P2-162	市河 三英	財) 自然環境研究センター
P2-166	五十嵐 知宏	東北大・農	S03-2	市川 昌広	総合地球環境学研究所
P3-074	○ 井川 拓也	北大・院・水産科学	P1-115	市川 陽子	日本大学
P3-226	井口 恵一郎	中央水産研究所	P3-230	一ノ瀬 友博	兵庫県立大学
P2-205	○ 池内 敢	京大・理・動物	P1-216	市原 優	森林総研東北
F1-09	池田 和子	財) 自然環境研究センター	P2-206	○ 井出 純哉	京大・農
P3-137	池田 重人	森林総合研究所	P1-188	伊藤 愛	愛媛大・農
P3-160	○ 池田 透	北海道大学文学研究科	S12-1	○ 伊藤 昭彦	国立環境研究所
P3-196	○ 池田 啓	京大 人間・環境	P3-212	○ 伊東 明	大阪市大・院・理
			P2-185	○ 伊藤 兼敏	首都大学・理工・生命科学
			S13-4	○ 伊藤 國彦	岡山県立大学短大部
				○ 伊藤 健二	農業環境技術研究所
			P2-160	○ 伊藤 浩二	東大院・農

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
S06-6	伊藤 哲	宮崎大学農学部	F3-01	丑丸 敦史	神戸大学発達科学部
P3-167	伊藤 千恵	横浜国大・院・環境情報	P3-242	○ 牛山 克巳	美唄市
P1-037	伊藤 哲治	日本大学	S01-5	○ 内井 喜美子	京大・生態研
P2-077	伊藤 紀貴	北大・院理・生物科学	P3-094	○ 内田 悟	千葉大園芸
S08-4	井藤 宏香	鹿児島大・院・農	P2-012	内田 雅己	国立極地研究所
P3-189	○ 伊藤 洋	東大・総合文化	B3-07	○ 内八重 智史	徳島大学大学院
P3-023	○ 伊藤 正仁	森林総研北海道・学振PD	P1-032	○ 宇津野 宏樹	信州大学
P2-025	○ 伊藤 雅之	京大・院・農	H1-02	内海 俊介	京大生態学研究センター
	○ 伊藤 元己	東大・院・総合文化	B1-08	○ 梅木 清	千葉大・自然科学
P2-028	○ 稲垣 善之	森林総研四国	P3-095	浦川 裕香	香川大学農学部
P2-110	稲田 哲治	愛媛県林業技術センター	T02-2	○ 浦口 あや	三菱総合研究所
P3-222	○ 稲継 理恵	University of Zurich	P1-235	○ 浦田 悦子	横浜国立大学
	○ 稲富 素子	FRCGC-JAMSTEC	P3-225	○ 占部 城太郎	東北大学生命科学
C3-07	犬塚 直寛	京大・生態学研究センター	T01-1		
P2-109	井上 章子	東大院・新領域	P3-170	○ 浦部 美佐子	滋賀県立大学環境科学部
S04-2	○ 井上 栄壮	信州大・繊維・応用生物	H3-09	○ 江草 佐和子	京大院・農・昆虫生態
P2-112	井上 貴文	九州大・生物資源	B1-02	○ 江口 則和	北大院農
	井上 武亮	岩手県立大・院	P2-064	○ 江副 日出夫	大阪府大・理・生物
P2-132	井上 智美	国立環境研究所	P1-101	○ 江成 広斗	東京農工大学大学院
P3-141	井上 真紀	東大・農・保全生態	P3-125	榎木 勉	九州大・農
D3-09	○ 井上 みずき	京大院・農・森林生物		榎本 大輔	明治大学
P1-045	井上 欣勇	大阪府大院・生命	P3-021	恵良 拓哉	千葉大学自然科学研究科
P2-131	今井 伸夫	京都大生態学研究センター		○ 遠藤 彰	立命館大学理工学部
P2-050	今井 義仁	京都大学工学研究科	P3-224	○ 遠藤 真太郎	信州大・理・生物
P1-153	○ 今治 安弥	東北大・農	P2-243	遠藤 千尋	京都大学理学部動物生態
P1-210	○ 今田 省吾	鳥取大学乾燥地研	P3-040	遠藤 知二	神戸女学院大・人間科学
	井本 郁子	(株)緑生研究所	P2-245	遠藤 菜緒子	立教大学・院・理
P2-219	○ 入江 菫子	筑波大学・生物科学	P2-240	遠藤 暢	京都大学農学部森林生態
S07-6	入江 貴博	九大・理・生物	B3-03	及川 真平	東北大・院・生命
P1-192	岩井 隆昌	金沢大学大学院自然科学研	P2-199	及川 真里亜	東京農工大学・院
P2-089	岩泉 正和	林木育種センター	P1-119	御池 俊輔	信州大学農学部森林科学科
C1-14	○ 巖佐 庸	九州大学・院理・生物	P1-227	○ 追立 浩貴	大阪大学理学研究科
P1-167	岩崎(葉田野) 郁	岡山県生物科学総合研究所	P2-103	大饗 嘉子	滋賀県立大・院 環境科学
P1-047	○ 岩崎 亘典	(独)農業環境技術研究所		大井 信夫	ONP研究所
P3-080	○ 岩崎 洋樹	筑波大・生物科学系	P2-020	大井 美沙	愛媛大学大学院 理工学部
P1-036	岩田 典子	岐大・応用生物	P1-143	大家 理絵	神戸女学院大・人間科学
G3-05	○ 岩田 繁英	静岡大学		○ 大串 隆之	京大・生態研
P1-197	○ 岩永 史子	鳥取大学連合農学研究科	P1-120	大窪 久美子	信州大学農学部森林科学科
C1-09	岩淵 藍子	東北大学大学院工学研究科	P2-100	大迫 武治	鹿児島大学教育学部
P1-186	岩淵 祐子	東京農工大学女性センター	E1-08	大沢 晃	京大農学研究科森林科学
P3-044	岩本 二郎	北大・苫小牧研究林		○ 大澤 啓志	慶應義塾大学
P3-142	○ 上杉 哲雄	東大・院・農	P3-105	大澤 隆文	東大・農
	○ 上田 恵介	立教大学理学部	P3-239	○ 大澤 剛士	兵庫県立人と自然の博物館
P3-228	○ 上田 昇平	信大院・総工・山環	G3-01	大澤 正嗣	山梨県森林総合研究所
P1-206	上田 実希	京都大学大学院農学研究科	P1-222	○ 大曾根 陽子	森林総合研究所
P2-170	上野 健	国立極地研究所	D1-08	大園 享司	京都大学大学院農学研究科
P1-081	上野 晴子	栃木県林業センター	C1-13	太田 碧海	横浜国大院・環境情報学府
E1-06	○ 上野 裕介	北海道大学大学院・水産		○ 太田 謙	岡山理科大院・総情・環境
P2-070	○ 上原 隆司	九州大・理	P3-075	○ 太田 直友	阿南高専・建設システム
P2-255	○ 植松 圭吾	東大院・広域システム		○ 太田 陽子	なし
	上村 章	森林総研 北海道		大田 朝子	東京都立大学
P2-121	植村 滋	北海道大学・FSC	○ 大館 智志	北海道大学低温科学研究所	
P1-209	宇梶 徳史	北海道大学低温科学研究所	P2-161	大谷 達也	森林総合研究所九州支所
B1-01	宇佐美 哲之	産総研	P1-130	大谷 雅人	東大
P2-177	○ 潮 雅之	京大・生態学研究センター	P2-041	大塚 泉	京都大学大学院農学研究科

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P2-039	大塚 俊之	茨城大・理	P2-148	○ 小田倉 碧	(独) 国立環境研究所
P3-088	大塚 裕之	京都大学大学院	P1-225	小野 清美	北大低温研
E1-10	大手 信人	東京大学		○ 小野 逸人	筑波大生命環境科学研究科
T02-1			B1-06	小野田 雄介	ユトレヒト大学植物学科
C1-05	○ 大西 智佳	岡山大・院・環境		小野寺 賢介	北海道立林業試験場
P3-156	○ 大西 一志	琉球大学理工学研究科	P1-112	○ 小幡 和男	茨城県自然博物館
P2-167	○ 大西 義浩	鹿児島大院連合農	S07-5	小淵 正美	東京工業大学生命理工
P2-062	大野 愛子	大阪府大院・理	S07-1	甲斐 清香	琉球大学大学院理工
	○ 大野 啓一	千葉県立中央博物館	C1-04	甲斐 貴光	長野県長野地方事務所
S05-4	大野 久雄	気象庁高松地方気象台	T01-3	○ 加賀田 秀樹	京大・生態研センター
P2-136	○ 大場 健太郎	東京農工大学院		○ 加賀谷 隆	東大院・農学生命
P3-064	○ 大橋 一晴	筑波大学 生命環境科学	H3-02	○ 梶 光一	東京農工大学農学部
B3-05	大橋 伸太	京都大学農学部		梶本 卓也	森林総研
P1-072	○ 大橋 春香	東京農工大学大学院	P2-066	○ 粕谷 英一	九大・理・生物
	大橋 賢	明治大・農	P3-135	粕谷 絵美子	明治大・院・農
P2-006	○ 大橋 瑞江	フィンランド森林研究所	P3-035	賀勢 朗子	北大・苫小牧研究林
P1-010	○ 大秦 正揚	京大院・農・昆虫生態	P3-083	○ 嘉田 修平	京大院・農・昆虫生態学
	大原 尚子	明治大学 農学部	P3-171	○ 片岡 博行	津黒いきものふれあいの里
	○ 大原 雅	北大・院・環境科学	P3-248	片岡 美和	京大・院・ASAFAS
P3-179	○ 大東 健太郎	農業環境技術研究所		○ 片岡 陽介	信州大学・理・生物
S09-5	大森 浩二	愛媛大学沿岸センター	C1-07	○ 片桐 浩司	北大院・農
P3-172	○ 大森 威宏	群馬県立自然史博物館	S09-1	○ 片野 泉	土木研・自然共生研セ
P2-159	○ 岡 怜奈	新潟大学院自然科学研究科	P2-048	○ 片山 歩美	九州大学大学院
P1-250	小笠 真由美	岡山大・農	P3-027	○ 片山 昇	京大・生態学研究センター
P1-151	○ 岡崎 純子	大阪教育大教員養成課程		片山 雅男	夙川学院短期大学教養教育
	○ 岡島 有規	東大理学部・植物学科		○ 可知 直毅	首都大院・生命科学
	岡田 直紀	京都大学農学研究科	P3-195	○ 加藤 聡史	東北大・院・生命科学
	岡田 真樹	東京農工大学		加藤 剛生	人間環境大学人間環境専攻
P2-216	岡野 淳一	東北大学生命科学研究科	P2-043	加藤 知道	海洋研究開発機構
P3-219	岡部 貴美子	森林総合研究所	S04-4	○ 加藤 真	京都大学・人間・環境
P3-058	岡本 朋子	京大院 人間・環境	P1-123	○ 加藤 雅之	三重大学・院・生物資源
P1-074	○ 小川 安紀子	京都大学	H1-09	加藤 元海	愛媛大学
T02-3			P1-159	○ 加藤 優希	北大・院・環境科学
B1-05	小川 一治	名古屋大学大学院生命農学	P3-011	加藤 義和	京大・院・理
P2-015	小川 遼	京大院農学研究科		○ 角野 康郎	神戸大・理・生物
P3-053	荻野 恭子	玉川大学農学研究科	P3-234	角谷 拓	東大・農学生命科学
G3-08	沖本 宜音	宮崎大学農学部	P3-001	○ 門脇 浩明	京都大学農学研究科
P2-218	○ 奥 圭子	岡大院・環境・進化生態		門脇 正史	筑波大・生命環境科学
P3-019	奥崎 穰	京大・院・理・動物生態学	S04-1	金井塚 務	広島フィールド博物館
P3-017	○ 奥田 武弘	北海道大学環境科学院	S06-1	金指 あや子	(独) 森林総合研究所
S05-1	○ 奥田 敏統	広島大学大学院総科	C3-03	金田 彰二	日本工学院・環境
S10-3	○ 奥田 昇	京大生態研センター	D1-12	金谷 弦	東北大・東北アジア研究セ
S14-4	奥田 賢	京府大院・農	P1-093	○ 兼子 伸吾	広島大・院・国際
P2-236	○ 奥野 正樹	京大院・農・昆虫生態	P2-019	○ 金子 信博	横浜国大・環境情報
G1-05	小熊 宏之	国立環境研究所	A3-09	金子 有子	琵琶研センター
P1-048	○ 奥村 栄朗	森林総合研究所 四国支所	P1-160	○ 金子 洋平	新潟大・院・自然科学
	○ 奥村 みほ子	新潟大学自然科学研究科	P3-210	○ 鹿野 雄一	京都大学大学院理学研究科
S14-3	小椋 純一	京都精華大学	P1-109	○ 鹿野 陽太	北海道大学 水産学部
P1-191	○ 小黒 芳生	東北大・院・生命	B1-03	鎌倉 真依	奈良女子大学大学院
P1-090	○ 長 雄一	北海道環境研	D3-01	○ 鎌田 直人	東京大学演習林
P3-206	尾崎 泰哉	横浜国大・環境情報		○ 鎌田 磨人	徳島大学
P1-005	○ 尾崎 有紀	奈良女子大学大学院	P2-088	神岡 新也	愛媛大・農
P1-204	○ 長田 典之	東北大・院・生命科学	P2-095	○ 上條 隆志	筑波大学生命環境
P1-100	○ 尾関 雅章	長野県環境保全研究所	P2-124	○ 紙谷 智彦	新潟大・農
P2-026	小田 智基	東京大学大学院		○ 上村 了美	瀬戸内海区水産研究所

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P1-213	神山 千穂	東北大学・院・生命科学	P2-079	北西 滋	北大・院・地球環境
P3-018	神山 壘	北大 環境科学院	P3-139	北野 聡	長野県環境保全研究所
	亀井 裕幸	東京都北区役所		北村 淳一	京都大学
	○ 亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館	P2-151	○ 北村 俊平	立教大学理学部
P1-099	○ 亀山 哲	国立環境研究所	P2-104	北村 知洋	北海道大・院・地球環境
S11-3	○ 亀山 慶晃	北海道大学 地球環境科学	S10-1	北山 兼弘	京大生態学研究センター
P1-060	○ 加茂 将史	産総研・リスクセンター		城所 碧	神戸大学 理学部
P2-158	○ 鴨井 環	愛媛大学		衣浦 晴生	森林総合研究所関西支所
P2-101	○ 香山 雅純	森林総合研究所九州支所	P2-058	○ 衣笠 利彦	鳥取大・乾地研
	唐沢 重考	琉球大学・熱生研・西表	P1-028	儀間 朝宜	琉球大学 農学研究科
P1-054	○ 苅部 甚一	京大・生態研	P2-053	金 元植	NIAES
S07-3	○ 河井 崇	九大院・理・生態研	P3-249	○ 金 在恩 (KIM, Jae-Eun)	広島大学
P1-158	川合 由加	北大環境科学院	P2-165	木村 一也	金沢大学自然計測センター
P3-071	○ 川喜多 愛	大阪女大・理	P3-136	○ 木村 勝彦	福島大・理工
P3-055	川北 篤	京大・院・人環		木村 妙子	三重大学生物資源学部
P2-037	川口 達也	横国大院・環境情報	P3-067	○ 木村 恵	東大・ア生セ
P1-189	川口 英之	鳥根大・生物資源	P3-024	○ 木村 幹子	北大院・環境科学
S09-6	○ 河口 洋一	九州大学工学研究院		桐谷 圭治	伊東市
P2-214	○ 川口 利奈	筑波大・生命環境科学	P2-208	○ 九鬼 なお子	信州大院・農
P3-112	川越 哲博	神戸大・理・生物	P1-064	○ 草加 伸吾	滋賀県立琵琶湖博物館
P2-091	川越 みなみ	筑波大学生物資源学類	P3-131	○ 楠本 間太郎	九大・生物資源
F3-09	○ 川崎 廣吉	同志社大学	P2-254	沓掛 展之	理化学研究所・脳科学
P1-107	○ 川崎 菜実	東京大学・農・生物多様性	P1-178	○ 工藤 岳	北海道大学・地球環境科学
P2-093	川瀬 悟	北大苫小牧研究林	P3-119	工藤 洋	神戸大学理学部生物学科
P3-211	○ 川瀬 大樹	京都大学理学研究科		○ 国武 陽子	国立環境研究所
P3-166	川田 清和	農業環境技術研究所	P1-155	○ 久保 拓弥	北大・地球環境
	○ 河田 雅圭	東北大学生命科学研究科	P3-216	久保 満佐子	山梨県森林総合研究所
P1-012	○ 川津 一隆	京大院・農・昆虫生態	F1-01	○ 久保 陽子	大阪府大院・理・生物科学
P1-001	○ 川名 国男	一般	P1-181	○ 久保田 涉誠	北大・院・環境科学
S08-5	○ 川西 基博	立正大・ORC	P2-182	窪山 恵美	横浜国立大学大学院
S04-7	河野 昭一	国際自然保護連合	P3-048	○ 熊谷 直喜	千葉大・自然
P1-079	○ 河野 円樹	東大・院・新領域	P1-002	○ 熊野 了州	沖縄病害虫防除センター
P1-044	○ 川之辺 素一	長野県水産試験場諏訪支場	P1-205	○ 久米 篤	富山大学理学部生物圏
P1-008	○ 川平 清香	九大・理・生態科学	P2-049	○ 久米 朋宣	九州大学福岡演習林
P1-179	河村 耕史	森林総研・関西	P1-095	○ 倉本 宣	明治大学農学部
S07-4	河村 知彦	東京大学海洋研究所	A1-10	栗原 晴子	長崎大学
P3-128	河原崎 里子	新領域融合研究センター	H1-11	○ 栗元 美代子	九州大学・理・臨海
P3-215	神田 房行	北海道教育大学・釧路校	P1-007	○ 栗和田 隆	九州大・理・生態
A3-10	○ 菅野 学	東北大学大学院農学研究科	P2-128	○ 黒須 麻由	筑波大・院・生命環境
B1-07	○ 菊沢 喜八郎	石川県立大	P1-104	黒田 英明	東大院・農
G1-02	○ 菊池 亜希良	広島大・院・国際協力	P2-195	桑江 朝比呂	(独) 港湾空港技術研究所
S06-5	菊地 賢	森林総合研究所	P2-155	小池 伸介	東京農工大・院・連農
	○ 菊池 多賀夫	なし	G1-06	○ 小池 文人	横浜国立大学
P1-150	菊地 哲理	明治大・農		○ 小泉 博	岐阜大・流域圏センター
P3-089	菊地 友則	琉球大学農学部亜熱帯動物		○ 合田 幸子	京大生態学研究センター
P2-082	木佐貫 博光	三重大大学生物資源	P1-108	幸田 良介	京大・生態学研究センター
P3-197	○ 岸 茂樹	京大院・農・昆虫生態	P2-003	○ 河内 香織	北海道工業大学
	○ 岸田 治	北大・院・水産科学		○ 河内 直子	北海道大学厚岸臨海実験所
S05-7	○ 岸本 圭子	京大院・人環		○ 甲山 隆司	北大地球環境
	○ 岸本 光樹	愛媛大・農・森林	C3-06	○ 郡 麻里	国立環境研究所
P2-029	○ 喜多 智	東京農工大・院・農	C3-05	○ 五箇 公一	国立環境研究所
	北川 淑子	東京大学	H1-12	○ 古賀 庸憲	和歌山大・教育・生物
P2-241	○ 北島 幸恵	東大・農・生物多様性	P3-077	○ 小北 智之	福井県立大学生物資源学部
F3-05	○ 北出 理	茨城大学理学部		○ 小久保 望	筑波大 生命環境
P2-018	木谷 好希	筑波大学院環境科学研究科			

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
H1-03	小暮 慎一郎	北海道大学低温科学研究所		○ 酒井 陽一郎	京大生態研
A1-08	小島 望	川口短期大学	D3-06	○ 坂江 格	東京薬大学生命科学研究科
P2-144	小嶋 紀行	横国大院・環境情報	P2-069	○ 坂田 はな	東京大学広域システム
	小嶋 雄太	横浜国立大学大学院	H1-07	坂戸 克匡	龍谷大学理工学部
H1-10	○ 小関 右介	中央水研		○ 阪本 真吾	筑波大 院 生命環境
P1-190	小谷 二郎	石川県林業試験場	P2-252	○ 坂本 信介	都立大・院・理
S11-2	後藤 晋	東京大学北海道演習林	P1-146	○ 佐川 志朗	自然共生研究センター
P3-066	○ 小沼 明弘	農業環境技術研究所	P2-225	佐川 鉄平	琉球大学大学院
P2-238	小沼 順二	東北大学・生命	S04-3	○ 崎尾 均	埼玉県農総研
F3-04	○ 小林 亜玲	京都大学大学院理学研究科	P1-094	○ 佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館
B3-09	○ 小林 悟志	新領域融合研究センター	P2-137	○ 佐久間 智子	中外テクノス(株)
P1-003	○ 小林 哲	佐賀大学農学部	P2-232	桜井 玄	九州大学生態科学研究室
P2-117	○ 小林 祥子	宇都宮大学・農学部	P2-149	櫻井 悠	岩手大院・人社
P2-032	○ 小林 草平	京都大学防災研究所	P1-066	○ 佐々木 晶子	産総研・中国センター
P1-076	○ 小林 隆人	宇都宮大学農学部	E1-04	○ 佐々木 顕	九大・理
P2-076	小林 拓	東薬大・生命	P2-147	佐々木 雄大	東大院・農学生命科学
P3-194	○ 小林 知里	京大・院・人環	S14-2	佐々木 尚子	地球研
P2-085	○ 小林 剛	香川大学農学部	A1-05	佐々木 由実	阿南工業高等専門学校
P3-237	小林 秀樹	JAMSTEC-FRCGC	P3-235	○ 笹木 義雄	京都大学地球環境学堂
P2-094	小林 誠	北大・環境科学	P1-247	佐々木 梨華	岡山大学農学部
	○ 小林 まや	首都大・院・生命	E1-09	○ 佐竹 暁子	プリンストン大学
S01-1	○ 小林 由紀	京大大学生態研センター	P3-155	○ 佐竹 潔	国立環境研究所
P3-199	○ 小林 豊	京大・生態研	P2-192	○ 佐藤 綾	琉球大学理学部
P3-251	小林 慶子	横浜国立大・院・環境情報	F3-08	佐藤 一憲	静岡大学・工学部
P3-169	○ 小林 頼太	東大・農・生物多様性	F1-05	佐藤 晋太郎	弘前大学
P3-209	○ 小松 貴	信州大学理学部生物科	S12-3	○ 佐藤 永	(独) 海洋研究開発機構
P2-156	○ 小南 陽亮	静岡大学教育学部	P3-180	佐藤 方博	生態工房
P2-207	小宮 竹史	京都大・院理・動物生態	P2-184	佐藤 真弓	京大・生態学研究センター
P3-218	小柳 知代	東京大学大学院農	P3-161	佐藤 視帆	横浜国立大学
P2-098	小山 明日香	北大・環境科学院	P1-118	佐藤 友香	福井市自然史博物館
P1-226	○ 小山 耕平	石川県立大(京大・農院)	P3-050	佐藤 竜一	東大・農・森林動物
P1-243	○ 小山 晋平	京大・農		○ 里村 多香美	北海道大学 FSC
P1-232	小山 里奈	京大・情報	P1-043	○ 鮫島 弘光	兵庫県立大学
F3-07	○ 今 隆助	九州大学大学院理学研究院	F1-02	○ 鮫島 由佳	京大・生態学研究センター
P1-236	○ 近藤 祥子	京大生態研	P3-082	更井 紀一	滋賀県立大・院
S02-6	○ 近藤 俊明	広島大・院・総合科学	P2-154	澤 綾子	筑波大・生物
	○ 今藤 夏子	国立環境研究所		○ 澤田 みつ子	筑波大修士環境科学研究科
	○ 近藤 倫生	龍谷大学理工学部	P1-142	○ 澤田 佳宏	兵庫県立人と自然の博物館
B1-12	○ 今野 浩太郎	農業生物資源研究所	P1-134	澤邊 久美子	大阪府立大学大学院
	紺野 康夫	帯広畜産大学	P1-019	○ 三田 瞬一	秋田県立大学
	齊藤 かお里	島根大学 生物資源(院)	P1-161	三宮 直人	茨城大・理
P2-163	斎藤 茂勝	財) 自然環境研究センター	P1-218	塩寺 さとみ	北大・地球環境
P1-147	齋藤 星耕	京大・院・農・森林生態	P2-097	○ 塩見 修平	大阪市立大学・院理
P1-062	○ 齋藤 大輔	広島大学院国際協力	P1-056	鹿野 秀一	東北大・東北アジア
H3-01	○ 齋藤 隆	北大フィールド科学センタ		重田 麻衣	北海道大学大学院
P2-125	○ 齋藤 達也	信州大院・農	P2-009	四軒家 省三	広島大学大学院生物圏
P3-038	○ 齋藤 裕美	北海道東海大 工学部	P2-022	○ 志津 庸子	岐阜大学流域研究センター
P2-181	○ 齋藤 昌幸	横浜国大・環境情報	P1-061	○ 柴田 淳也	京大大学生態研センター
	○ 三枝 舞	茨城県自然博物館	P2-200	柴田 智広	岐大・応用生物
B3-04	○ 酒井 暁子	横国大・環境情報	P2-007	柴田 英昭	北海道大学
H3-05	○ 酒井 一彦	琉球大・熱生研		○ 芝田 史仁	和歌山信愛女子短期大学
D3-10	○ 酒井 聡樹	東北大学生命科学研究科	G3-10	○ 渋谷 浩之	東薬大・生命
P1-096	酒井 絢也	北海道大学大学院	P1-137	○ 嶋崎 暁啓	日大・院・森林動物
	酒井 章子	京都大学・生態研センター		○ 島田 和則	森林総合研究所
P2-057	酒井 徹	森林総合研究所	P2-096	島田 博匡	三重県科技セ・林

発表	懇	名	前	所 属	発表	懇	名	前	所 属
P3-108	○	島谷	健一郎	統計数理研究所	S06-3		鈴木	和次郎	森林総合研究所
P2-099	○	島村	崇志	道環境科学研究センター	P3-084		須島	充昭	東大総合文化
P2-023		嶋村	鉄也	京大院・AA研	P3-198	○	角(本田)	恵理	東京大学
P3-229	○	島本	晋也	信州大学理学部生物科学科	P3-104	○	隅田	明洋	北海道大学低温科学研究所
	○	清水	啓介	信州大学・理・生物	P2-061		角谷	夏子	大阪府大院・理
P3-181	○	清水	健	京大院・農・昆虫生態	P2-171	○	住吉	千夏子	広島大学総合科学部
S02-7	○	清水	健太郎	University of Zurich	S02-2	○	陶山	佳久	東北大院・農
		清水	孝昭	愛媛県中予水産試験場	P3-159		諏訪部	真友子	琉球大学・農
P2-247	○	下岡	ゆき子	京都大学理学研究科	D1-01	○	清野	達之	筑波大・生命環境
P2-016		下田	星児	近畿中国四国農研センター	G3-06	○	清和	研二	東北大学大学院農学研究科
S11-5	○	下野	綾子	国立環境研究所	P1-102		関	貴史	九州大学理学府生物科学科
C3-10	○	下野	嘉子	農業環境技術研究所	P1-168	○	関	剛	森林総研・東北
A3-03	○	朱	衛紅	京都大学大学院		○	関	諒一	信州大・理・生物
A3-06		小路	敦	九州沖縄農業研究センター	P2-027		関川	清広	玉川大学農学部
D1-07		上村	真由子	神戸大学			曾田	貞滋	京都大学大学院理学研究科
P1-106		庄山	紀久子	北大・環境科学	P3-028		曾根	伸	愛媛県立北宇和高等学校
C1-03		白井	洋一	農業環境技術研究所	P3-246		園田	陽一	明治大学農学部
E3-05		白石	拓也	千葉大学理学部			埜田	宏	
P1-128	○	白川	勝信	芸北 高原の自然館	P3-176	○	高井	孝太郎	北海道大学 環境科学院
P1-245	○	白旗	学	岩手大・農			高井	裕美	島根大学
P2-215	○	白枝	直子	九大・理	S08-3		高岡	貞夫	専修大・文
B1-09	○	城田	徹央	北海道大学低温研	P3-081	○	高木	俊	東大・農
	○	蘇	保ちい	筑波大・生命共存	H3-07	○	高木	義栄	森林総研・北海道
P2-107	○	菅原	敬	鳥取大・院・農	P3-152	○	高倉	耕一	大阪市立環境科学研究所
	○	菅原	菜穂	北海道大学水産学部	S13-6		高桑	正敏	神奈川県生命の星地球博
P2-198		菅原	光	東海大学 海洋学研究科	P2-146		高嶋	敦史	琉球大学農学部
P1-187		菅原	未知登	愛媛大・農	E1-02	○	高須	夫悟	奈良女子大学 理学部
P2-222	○	杉	緑	信州大・理・生物	P1-200	○	高瀬	智洋	都島しよ農水総セ八丈
P3-078	○	杉浦	真治	森林総合研究所	P2-063	○	高田	壮則	北大・地球環境
P1-241	○	杉浦	大輔	東京大学理学部生物学科	P1-052	○	高田	まゆら	東大院・農
P1-021		杉浦	秀樹	京都大学霊長類研究所	P1-244		高梨	聡	京大・農
P3-096		杉阪	次郎	神戸大・院・自然科学	P2-168	○	高橋	明子	京大院・農
P2-244	○	杉田	典正	立教大院・理・生命	P2-173	○	高橋	和成	岡山理科大学総合情報
A1-09		杉村	乾	森林総合研究所	D1-06		高橋	克明	京都 理
G3-11	○	杉本	太郎	北海道大学大学院環境科学	P2-044		高橋	健太	茨城大学理学部
P1-111	○	鈴木	克哉	京都大学霊長類研究所	G1-10		高橋	耕一	信州大学理学部
P3-106	○	鈴木	智之	首都大院・理工・生命	B3-02	○	高橋	さやか	京都大学農学研究科
P2-067	○	鈴木	清樹	九大・理・生物	P1-030	○	高橋	明香	福井県立大学生物資源学部
P2-135	○	鈴木	重雄	広島大・国際協力	P1-136		高橋	淳子	京大生研センター
	○	鈴木	準一郎	首都大院・理工・生命	P2-197	○	高橋	大輔	京大・理
P2-164		鈴木	俊介	滋賀県立大学大学院	P3-231	○	高橋	俊守	宇都宮大学
P2-133		鈴木	伸一	国際生態学センター	G3-07	○	高橋	誠	林木育種センター
P1-126	○	鈴木	節子	名古屋大院・生命農	P1-050		高橋	まゆみ	北海道大学
		鈴木	孝男	東北大学生命科学研究科	P2-209	○	高橋	佑磨	筑波大・院・生命環境
	○	鈴木	惟司	首都大・生命科学	P2-188	○	高原	輝彦	京都工芸繊維大学大学院
P1-132		鈴木	透	EnVision	S14-1	○	高原	光	京都府立大学農学研究科
P2-047	○	鈴木	希実	東工大総合理工学研究科	E3-03		高伏	剛	九州大学
	○	鈴木	信彦	佐賀大・農	P1-202	○	田上	公一郎	広島大学・生物圏科学
P1-122	○	鈴木	規慈	三重大学大学院生物資源	P3-221	○	高見	雄太	徳島大学大学院
F1-12	○	鈴木	紀之	京大農・昆虫生態学	P1-092	○	高村	健二	(独)国立環境研究所
		鈴木	晴美	東京農工大学	C1-10		高村	典子	国立環境研究所
P1-049		鈴木	牧	東大千葉演習林	P1-131	○	田川	哲	九大・院・理
P1-180	○	鈴木	まほろ	岩手県立博物館	P3-032	○	滝	若菜	筑波大学 生物科学
F3-12	○	鈴木	ゆかり	九大・理	P1-175		滝谷	美香	北海道林試道東支場
P3-122		鈴木	亮	奈良女子大・共生センター	P3-236	○	田口	勇輝	大阪府立大・生命環境科学

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
D3-04	○ 竹内 やよい	総合地球環境学研究所	P3-054	辻村 希望	京大生態研センター
P3-015	○ 竹内 勇一	京大院・理・動物生態	○ 津田 智		岐阜大学流域圏科学研究七
P3-165	竹下 毅	北海道大学 文 院	P3-010	○ 土田 琢水	東大農緑地植物実験所
P2-226	○ 武智 玲奈	首都大	P1-182	○ 土松 隆志	東大・広域システム
P2-080	○ 竹中 明夫	国立環境研究所	P2-045	堤 正純	低温科学研究所
P3-057	○ 竹中 宏平	長崎大学	S10-2	○ 椿 宜高	京大生態研センター
P3-099	武野 真也	神大院・自然科学	F1-04	○ 鶴井 香織	京大院農昆虫生態
P1-077	竹原 明秀	岩手大・人文社会	P3-041	寺尾 明紀	京都大学 農学部
S09-2	○ 竹門 康弘	京都大学防災研究所	P3-241	○ 寺田 佐恵子	東大・院・生物多様性
P2-221	○ 田島 裕介	筑波大・生命共存	P1-105	寺田 千里	筑波大学 生物資源学類
P1-229	○ 田代 直明	九州大学演習林	P1-144	○ 寺本 悠子	筑波大学院・環境科学
A1-07	○ 立川 賢一	流域総合研究会	P2-024	○ 土居 秀幸	University of Washington
P1-055	○ 立澤 史郎	北大・文・地域システム	P2-116	土井 裕介	京大・農
P1-219	○ 館野 正樹	東大・院・理・日光植物園	P3-227	○ 唐 艶鴻	生物圏環境研究領域
P3-068	○ 田中 篤	筑波大生命環境	P3-183	○ 東樹 宏和	九大・院理
P2-187	田中 啓太	立教大院・理・生命理学	P3-025	東條 達哉	近畿大・農
F1-03	○ 田中 晋吾	京大・農・昆虫生態	C3-09	堂園 いくみ	東北大学大学院生命科学
P1-196	田中 格	山梨県森林総合研究所	P1-015	東保 しょう子	京都大学理学研究科
P1-141	田中 夏美	山形大学大学院農学研究科	P3-073	遠野 竜翁	阿南工業高等専門学校
P2-072	田中 洋之	京大・霊長研	P3-217	○ 遠山 弘法	九州大学
P3-129	田中 正之	宇都宮大学・雑草セ	P3-031	○ 梶井 龍一	信州大・理・生物
P1-024	田中 美希子	京大・霊長研	P3-090	富樫 朱美	北海道大学 院理
P2-152	田中 美那	金沢大学	P3-026	富樫 博幸	東北大・院・生命科学
P2-191	○ 田中 裕美	兵庫県立大学	F1-07	戸金 大	明治大・院・農
P2-250	○ 田中 陽介	茨城大学・理	P3-203	○ 土岐 和多瑠	東大院農学生命科学
F3-11	田中 嘉成	国立環境研究所	P3-086	○ 常田 邦彦	財)自然環境研究センター
P2-042	○ 棚橋 薫彦	東大・農学	E3-02	○ 時田 恵一郎	阪大サイバー
	○ 田辺 晶史	東北大・院・生命科学	D1-02	○ 徳岡 良則	(独)農業環境技術研究所
	田辺 沙知	北大・環境科学	P1-183	○ 徳永 幸彦	筑波大学生命共存科学専攻
P3-103	○ 田辺 慎一	森の学校キョロコ	○ 徳納 真高		横浜国立大学植生学研究室
P3-110	○ 谷 友和	東大日光植物園	C3-04	○ 戸田 光彦	自然環境研究センター
P3-049	○ 谷垣 岳人	龍谷大学・法学部	P2-233	刀祢 淳也	帯広畜産大学昆虫学研究室
	○ 谷垣 悠介	徳島大学院 環境保全工学	P3-202	○ 土畑 重人	東大・広域システム
D1-05	谷川 敦子	東京農工大学院	S06-2	○ 戸丸 信弘	名古屋大学生命農学研究科
P3-092	谷川 哲朗	大阪府大院・生命	○ 富田 啓介		名古屋大・院・環境
S09-3	谷田 一三	大阪府立大学理学系研究科	P1-194	富田 美紀	静岡大学 理学部 生物
P1-228	種子田 春彦	東大院・理	P2-139	富田 瑞樹	東京情報大学環境情報学科
P1-211	田畑 あずさ	北海道大学低温科学研究所	P3-118	○ 富田 基史	東北大・院・農
P3-006	○ 田淵 研	学振PD/ 森林総研北海道	P3-116	○ 富永 彩恵	鳥取大・院
P3-134	玉井 朝子	静岡大学大学院	P3-204	○ 富松 裕	首都大・理工
P3-037	○ 玉井 玲子	琉球大・院・海洋自然	P2-202	○ 富山 清升	鹿児島大学理地球環境
A1-04	玉置 昭夫	長崎大学水産学部	P3-047	○ 豊田 鮎	自然環境研究センター
P1-087	○ 玉田 克巳	道環境研	C1-06	鳥居 厚志	森林総合研究所四国支所
S08-1	田村 俊和	立正大学地球環境科学部	C3-01	内藤 馨	大阪府水生生物センター
	○ 田村 裕	琉球大学理工学研究科	P1-139	内藤 和明	兵庫県立大・自然研
D1-11	○ 陀安 一郎	京大・生態学研究センター	P3-117	○ 内藤 弥生	北大・院・環境科学
P2-054	千葉 幸弘	森林総合研究所	D3-05	内藤 洋子	京都大学大学院農学研究科
P3-043	張 光玄	愛媛大学 CMES	P1-201	中井 亜理沙	三重大生物資源
P2-060	○ 沈 海花	東大院・農学生命科学	P2-231	○ 中井 静子	東北大・生命科学
	○ 辻 宣行	北海道大学 SGP	F1-08	○ 中井 真理子	富山大学理学部
H3-03	辻 大和	東京大学大学院		永井 佑佳	明治大学 農学部
D3-07	辻沢 央	東北大・院・生命科学		永井 理菜	日本大学 生物資源科学部
E3-04	辻野 昌広	北大・環境科学院	P2-081	長池 卓男	山梨県森林研
P2-174	辻野 亮	地球研	E3-01	○ 中岡 慎治	静岡大学大学院
	辻村 東國	山形大・理・生物	○ 仲岡 雅裕		千葉大学・自然科学研究科

発表	懇	名	前	所	属	発表	懇	名	前	所	属
S05-3	○	中川	弥智子	名古屋大学	生命農学研究科	P3-130	○	西尾	孝佳	宇都宮大学	・雑草セ
P3-208	○	中桐	齊之	兵庫県立大	・環境人間	P3-143	○	西川	潮	国立環境研究所	
G1-01	○	中越	信和	広島大	・院・国際協力	P2-196		西川	真理	京都大学	・理
P1-017	○	仲澤	剛史	京大	生態研センター	P1-059		西沢	徹	国立環境研究所	
P1-246		中路	達郎		国環研			西澤	まり	千葉大学	自然科学研究科
S05-8		中静	透	東北大学	生命科学研究科	A1-02		西田	一也	東京農工大学	大学院
P1-039		中下	留美子	東京農工大学		S01-6	○	西田	貴明	生態学研究センター	
		中島	亜利	横浜国立大学		D3-08	○	西田	隆義	京大農	・昆虫生態
P2-059		中島	弘起	京大	・農・森林生態学	S12-4		西田	顕郎	筑波大学	農林工学系
P1-046		中島	徹	東京大学		P1-207		西谷	里美	日本医大	・生物
P1-070	○	中嶋	美冬	国立環境研究所		P3-185		西出	真人	首都大学	東京大学院
P3-114	○	中嶋	幸宏	鳥取大	・院・教育	S13-2	○	西中	康明	大阪府大院	・生環・昆虫
		仲島	義貴	帯広畜産大学				西野	麻知子	琵琶湖環境科学研究センタ	
D3-03		中島	啓裕	京大	大学生態研センター	A3-05		西廣	淳	東京大学	・農学生命科学
P1-173	○	長瀬	ほなみ	名古屋大院	生命農		○	西村	欣也	北海道大学	水産科学研究院
P2-213	○	中田	兼介	東京経済大		P2-090	○	西本	孝	岡山県自然保護センター	
P1-195	○	中田	望	首都大学	東京大学院	P3-087		西森	大樹	佐賀大	・農
P2-074		長太	伸章	京大	・院・理・動物生態		○	西脇	亜也	宮崎大学	農学部
P3-223	○	永田	尚志	国立環境研究所		P3-065	○	新田	梢	九州大学	理学府生物
	○	中田	将人	岡山理大	・総情・生地	H1-06		二宮	邦彦	龍谷大学	理工学部
G1-04		中谷	曜子	北大	・院・農	P3-063	○	沼野	直人	東北大学	大学院農学研究科
P2-011	○	中坪	孝之	広島大	・院・生物圏	E3-07	○	根岸	淳二郎	自然共生研究センター	
P1-022	○	中寺	由美	信州大	・理	P2-040		根岸	正弥	茨城大	・理・生態
P1-193		中西	麻美	京都大学	フィールド研			根本	真理	東京農工大学	連合大学院
A3-07	○	中根	周歩	広島大学院	生物圏科学		○	野口	航	東京大	・理・生物科学
P1-233		永野	聡一郎	東邦大学	大学院理学研究科			野崎	玲児	神戸女学院	大学
P1-156	○	中野	真理子	石川県立大学	環境科学科	P1-004	○	野澤	洋耕	黒潮生物研究所	
P2-229	○	中野	亮	東大院	・農学生命			野副	健司	東京大学	保全生態学研究室
P3-115	○	永松	大	鳥取大	・地域	E3-08	○	野田	隆史	北海道大学	地球環境
S03-5	○	中丸	麻由子	東京工業大学		P2-013	○	野田	響	東大	・院・農学生命
P1-041	○	中道	康文	筑波大学	生命共存科学専攻	P2-141		野田	浩	東京農工大	・院・連農
P1-164	○	永光	輝義	森林総研		P2-248	○	野原	翔	茨城大学	理学部
P2-239	○	中村	智	筑波大	・生命共存	G1-11	○	野原	精一	国立環境研究所	
P3-008		中村	隆志	東北大	・院理・地学	S04-5	○	野間	直彦	滋賀県立大学	・環境
P2-122	○	中村	隆俊	東京農大	生物産業学部	S04-6	○	野村	泰弘	島根県立大学	
	○	中村	琢磨	横浜国大	・院・環境情報	P3-085		萩原	久子	滋賀県立大学	大学院
P3-016	○	中村	雅子	琉球大学	理工学研究科	P3-162	○	萩原	陽二郎	静岡大学	大学院農学研究科
H1-04		中村	誠宏	北海道大学	苫小牧研究林	P3-107	○	萩原	陽介	首都大院	・理工・生命
S13-1		中村	康弘	日本チヨウ類保全協会		H3-04	○	箱山	洋	中央水研	・東京海洋大
		中村	幸人	東京農業大学		P3-187	○	橋口	康之	東京大学	海洋研究所
P3-109	○	中村	亮二	首都大	・院・理	P2-010		橋本	徹	森林総合研究所	
P1-086	○	永山	滋也	北海道大学	農学研究科	P3-245		橋本	恵	高知大学	大学院
P2-246	○	中山	新一朗	東大	・理		○	橋本	佳延	兵庫県立	人と自然の博物館
P2-127	○	中山	俊聡	北海道教育大学	・札幌	P2-108	○	ハス	其木格	鳥取大	・院・農
	○	仲山	真希子	筑波大	・院・環境科学	P1-152	○	長谷川	成明	北大	・院・地球環境
	○	夏原	由博	京都大学	地球環境学大学院		○	長谷川	誠	鳥取大	・農
P3-113	○	名波	哲	大阪市立大学	・院・理	E1-03	○	長谷川	雅美	東邦大学	理学部
P2-126	○	並川	寛司	北海道教育大学	・札幌	P3-100	○	長谷川	万純	静岡大学	農学研究科
D1-04		奈良	遥	東京農工大学院		P3-002		長谷川	元洋	森林総研	・木曾試験地
	○	難波	利幸	大阪府大院	・理	S02-4	○	長谷川	陽一	東北大院	・農
		南波	興之	北海道大学	低温科学研究所	P2-114		畑	尚子	東大	・農・森園管理
P2-230		南保	亜哉児	弘前大学	大学院	F3-02	○	畑	啓生	京大	・院・理・動物生態
		新部	一太郎	島根大	生物資源研究科		○	波田	善夫	岡山理科大	・総情・生地
		西	修平	生命科学研究科		P2-203		畑瀬	英男	東京大学	海洋研究所
P1-025	○	西	友香理	新潟大学	大学院	P1-116	○	畑田	彩	総合地球環境学研究所	

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
P2-249	畑野 俊貴	琉球大学大学院農学研究科		○ 平山 大輔	大阪市大・院理
P3-132	波多野 肇	静岡大学大学院	P2-189	○ 平山 寛之	九大・理・生態
A3-02	○ 服部 昭尚	滋賀大・教育・理数情報	P1-248	廣川 純也	東農大 生物産業学研究科
P1-034	○ 服部 充	信州大学理学部生物科学科	P1-057	○ 広木 幹也	国立環境研究所
P2-134	花岡 若奈	信州大学大学院農学研究科	P3-192	廣瀬 恭祐	神戸・理・生物
	○ 幅 拓哉	信州大・理・生物科学	P2-008	広瀬 大	筑波大院・生命環境
P2-194	○ 馬場 友希	東大院・農・生物多様性	F1-06	○ 廣田 忠雄	山形大学理学部生物学科
P3-121	浜 一朗	東大・農	P2-046	廣田 充	筑波大生命環境科学研究科
P2-190	濱尾 章二	国立科博・自然教育園		広永 拓男	北海道大学苫小牧研究林
P1-097	浜崎 健児	農業環境技術研究所	P2-150	○ 深澤 圭太	横浜国大・環境情報
S05-5	○ 濱田 純一	独) 海洋研究開発機構	P2-172	○ 深澤 遊	京大院・農・森林生態
P2-169	濱田 知宏	会社	S14-5	深町 加津枝	京都府立大学
P2-193	○ 早石 周平	琉球大・教育センター	P2-051	○ 福井 眞	東大・広域システム
P3-247	林 江里子	神戸女学院大・人間科学	P2-035	福島 慶太郎	京大院・農
P3-012	林 珠乃	京大・生態学研究センター	P1-114	福島 敬彦	信州大学大学院農学研究科
P3-133	林 寿則	(財) 国際生態学センター		福嶋 司	東京農工大学院
P2-068	林 素行	京都大学生態研	F1-10	福森 香代子	愛媛大学 CMES
P1-013	林 義雄	大阪府大院・理	P1-145	○ 福山 欣司	慶応大学生物学教室
P3-009	林 芳弘	高知水試	○ 藤井 伸二	人間環境大学・環境保全	
P2-115	早瀬 進	茨城大・理	P1-121	藤井 新次郎	鹿児島大学大学院教育
	端山 武	島根大学	S13-3	○ 藤井 恒	京都学園大学人間文化学部
E1-07	原 真司	京大農学研究科熱帯林環境	P2-038	藤井 芳一	横浜国大院・環境情報
P2-140	○ 原 正利	千葉県立中央博物館	A1-06	藤岡 エリ子	汐川干潟を守る会
P2-176	○ 原紺 勇一	基町高校・九州大学院		藤岡 正博	筑波大学・井川演習林
G1-03	○ 原田 悦子	徳島大学	P2-031	藤木 泰斗	京大・農
	○ 原田(箱山) 祐子	中央水産研究所	P1-033	○ 藤田 剛	東大・農・生物多様性
P1-220	原山 尚徳	森林総合研究所		○ 藤田 志歩	山口大学 農学部
	伴 修平	滋賀県立大学	P1-149	○ 藤田 卓	九州大学
	韓 慶民	森林総合研究所	P3-174	○ 藤田 朝彦	近畿大学農学部
P3-163	韓 美德	筑波大学 生命環境研究科	S03-3	○ 藤田 昇	京大生態研
H1-01	半田 千尋	京都大学人間環境学研究科	A3-04	富士田 裕子	北海道大学植物園
P1-224	○ 半場 祐子	京都工繊大・生物資源セ	G1-02	○ 藤田 正雄	自然農法セ・農試
P3-207	○ 日浦 勉	北大・苫小牧研究林	P1-177	○ 藤田 真梨子	奈良教育大学
	○ 比嘉 基紀	横国大・院・環情	D1-13	藤田 素子	横浜国大院・環境情報
P1-133	東 敬義	三重県埋蔵文化財センター	○ 藤谷 佳代	岡山理大・院・総情・生地	
H3-10	○ 東浦 康友	東京薬大生命科学	藤沼 潤一	東京都立大学理学部	
P1-140	○ 樋口 伸介	神戸大学大学院自然科学	P1-237	藤巻 玲路	横浜国大・環境情報
P2-092	肥後 睦輝	岐阜大学地域科学部	P2-111	藤村 善安	北大植物園
P1-234	彦坂 幸毅	東北大・院・生命科学	P1-006	○ 布施 名利子	九大・理・生態
H1-05	菱 拓雄	京大・院・農	P2-201	○ 降旗 初佳	九大・理・生態
P1-198	日高 周	京大・生態学研究センター	B1-04	古川 昭雄	奈良女・共生センター
	○ 日鷹 一雅	愛媛大学・農・附属農場	P2-138	○ 古川 拓哉	横浜国立大学植生学研究室
P3-076	人見 奈緒子	大阪女大・理・環境理学	P2-004	別宮(坂田) 有紀子	都留文科大学
P1-069	○ 日野 貴文	北大 苫小牧研究林		○ 別所 直樹	筑波大・生命環境
P2-234	○ 日室 千尋	京大院・農・昆虫生態	P3-158	保崎 有香	東大・院・農
P1-053	○ 兵藤 不二夫	総合地球環境学研究所	P2-186	○ 細 将貴	京都大学 理学研究科
P1-082	平井 利明	東北大・院農	P2-052	○ 細川 真也	(独) 港湾空港技術研究所
	○ 平井 規央	大阪府大・生命・昆虫	P3-182	○ 細川 貴弘	東大・総合文化
S11-4	○ 平尾 章	北大・地球環境	P3-186	保谷 彰彦	(独) 農業環境技術研究所
P3-034	平尾 聡秀	北大・苫小牧研究林	P3-022	○ 堀 正和	瀬戸内海区水産研究所
P1-026	平川 浩文	森林総合研究所北海道支所		堀 良通	茨城大学理学部生態研
	○ 平田 和彦	北海道大学 水産学部	P3-177	堀越 和夫	小笠原自然文化研究所
P3-123	平田 聡之	北海道大学 FSC	P2-212	○ 堀部 直人	東大・総文
P2-224	平松 和也	大阪府水生生物センター		○ 堀 道雄	京大・院・理・動物生態学
P3-127	平山 貴美子	森林総研・関西	P1-165	○ 本田 裕紀郎	東大・院・農学生命科学

発表	懇	名	前	所 属	発表	懇	名	前	所 属
P2-071	○	本間	淳	京大農院昆虫生態	P1-162	○	三宅	尚	高知大学理学部
	○	前川	光司	北大フィールド科学センタ	P3-238		宮坂	隆文	東京大学大学院
		前迫	ゆり	奈良佐保短大・生態	H1-08		宮坂	仁	愛媛大学
P1-011		前田	玄	大阪教育大学大学院			宮崎	祐子	奈良県森林技術センター
P2-030	○	眞壁	明子	東京工業大学・総理工			宮崎	由佳	
P3-069		槇	えりな	首都大・理	P1-215	○	宮沢	真一	地球環境産業技術研究機構
P3-062	○	牧野	崇司	筑波大・生命環境	P1-223	○	宮沢	良行	九大・熱農研
P2-073		牧野	渡	東北大・生命科学研究科		○	宮下	直	東大・農
G1-07	○	真坂	一彦	北海道立林業試験場	P1-157		宮田	理恵	北大・環境科学
	○	正木	隆	森林総合研究所	P3-072	○	宮地	俊作	日本大学生物資源科学
S08-2	○	増澤	直	(株)地域環境計画	P1-169		宮本	尚子	林木育種センター
P1-075		増田	理子	名工大・都市社会	C1-08	○	宮本	康	鳥取県衛生環境研究所
S01-3	○	松井	一彰	総合地球環境学研究所	P3-164		宮本	裕美子	高知大学大学院理学研究科
P1-089	○	松井	淳	奈良教育大学	P2-075		三好	和貴	北大・地球環境
	○	松岡	暢宏	大阪府大院・理・生物科学	B3-01		三好	林太郎	京都大学農学部
S02-3	○	松木	悠	広島大学国際協力研究科		○	向井	宏	北海道大学厚岸臨海実験所
P1-016	○	松崎	慎一郎	東京大学・農学生命科学	A3-08		宗田	一男	横浜国大・院・環境情報
	○	松下	彩	信州大学 生物科学科	P3-111	○	宗原	慶恵	林木育種センター
P1-184	○	松下	通也	名大院・生命農	P2-014	○	村岡	裕由	岐阜大・流域圏センター
S11-1		松島	野枝	東北大・院・生命科学			村上	裕	愛媛県立衛生環境研究所
		松田	尚子	都立大・理			村上	真樹	大阪府立大学
F3-06	○	松田	裕之	横浜国立大学環境情報学府	P3-046		村上	正志	北大・苫小牧研究林
		松林	圭	北大・院理・生物科学	P3-014	○	村上	宜之	京府大・院・農・森林環境
P1-084	○	松林	尚志	東京農業大学	P2-129		村上	雄秀	国際生態学センター
P1-042		松本	歩	岐阜大学応用生物科学部	P1-124		村田	浩平	九州東海大学農学部
P2-211	○	松本	浩司	愛媛県立長浜高等学校	P3-144		村中	孝司	東大・農
F1-11	○	松本	崇	京都大学人間環境学研究所	P2-142		目黒	伸一	国際生態学センター
P2-120		松本	隆史	北海道大学 環境科学院	P2-065	○	舞木	昭彦	北大水産
	○	松本	忠夫	放送大学教養学部	P2-242		持田	浩治	京大・理・動物行動
P1-171		松山	周平	京大院・農		○	桃川	尚子	神戸大学 角野研究室
P2-087	○	真鍋	徹	北九州市立自・歴博	P1-065		森	章	Simon Fraser University
P2-251	○	真野	浩行	筑波大学生命共存科学専攻	P3-145	○	森	生枝	岡山県自然保護センター
P2-183	○	馬谷原	武之	日本大院・生物資源科学	D1-10		森	茂太	森林総研東北
P3-070		真弓	翔	北海道大学苫小牧演習林	P3-020	○	森	照貴	北大・苫小牧研究林
P3-030		丸山	敦	龍谷大学理工学部	P2-253	○	森	英章	東北大学生命科学研究科
F3-03	○	萬歳	明香	九大・理	P1-035	○	森	洋輔	日本大学大学院
S01-4	○	三木	健	京大・生態学研究センター	P2-130	○	森井	悠	横浜国立大学
P2-143	○	箕口	秀夫	新潟大・農	P3-124		森下	和路	京大院・農
P2-001	○	三島	慎一郎	(独)農業環境技術研究所	P1-249	○	森田	沙綾香	(独)農業環境技術研究所
P3-093	○	水崎	大二郎	千葉大園芸	P1-023	○	森田	博之	東大・農
		水澤	玲子	東邦大学理学部生物学科	P3-205		森広	信子	なし
P2-220		水谷	杏子	帯広畜産大学昆虫学研究室	P2-227	○	森本	元	立教大・院理・生命
P3-188	○	水野	晃子	東北大学生命科学研究科	P1-135		森本	直子	琉球大学・理工
P2-235		水野	敦	信州大学大学院農学研究科	P3-039	○	森本	信生	中央農業総合研究センター
		水幡	正蔵	在野の研究者	P1-138		森本	正俊	茨城大・理・生態
P1-009		水町	衣里	京都大学大学院農学研究科	B3-08	○	師井	茂倫	横浜国立大・院・環境情報
P2-228	○	道前	洋史	北海道大学	P3-150	○	諸澤	崇裕	筑波大・院・生命環境
	○	三橋	弘宗	兵庫県立人と自然の博物館	S03-4		諸富	徹	京都大学大学院
A1-01		皆川	明子	東京農工大学大学院	B1-10		門田	有佳子	岡山大学大学院
P1-073		皆川	朋子	独立行政法人土木研究所	H3-08		八尾	泉	北大院・理・新自然史
G1-08		南	佳典	玉川大学農学部	D1-03		矢ヶ崎	朋樹	国際生態学センター
	○	嶺田	拓也	農村工学研究所	P1-230		八木	貴信	森林総研・東北支所
P3-154		美濃和	駿	東京大学生物多様性	S06-4		八坂	通泰	北海道立林業試験場
P2-056		宮内	大策	横浜国立大学環境情報学府	P1-208		矢崎	健一	森林総合研究所
	○	宮木	雅美	北海道環境研	P2-017	○	八代	裕一郎	岐阜大・流域センター

発表	懇名前	所属	発表	懇名前	所属
	安岡 宏和	明治学院・国際	○ 遊佐 陽一		奈良女子大・理
P2-210	八杉 公基	京都大学大学院理学研究科	○ 湯本 貴和		総合地球環境学研究所
H3-11	安田 弘法	山形大学農学部	P3-061 ○ 横井 智之		京大院・農・昆虫生態
P1-083	安田 雅俊	森林総合九州	S01-2 ○ 横川 太一		京大生態研
	○ 安田 泰輔	山梨県環境科学研究所		横川 昌史	滋賀県立大学環境科学部
P1-203	○ 安村 有子	森林総合研究所	S12-2	横沢 正幸	農業環境技術研究所
P1-185	○ 安元 暁子	九州大・理・生物		○ 横畑 泰志	富山大学理学部
G3-04	○ 谷内 茂雄	総合地球環境学研究所	P3-151	横山 潤	東北大・生命科学
A1-03	○ 柳井 清治	北海道工業大学	P3-147	○ 吉江 春子	奈良女子大学
	○ 柳 真一	岡山大学環境学研究科	P1-018	○ 吉尾 政信	東京大学大学院生物多様性
P1-088	柳沢 直	岐阜県立森林文化アカデミ		吉川 正人	東京農工大学・農
P3-098	○ 矢野 慶介	林木育種センター	P3-153	吉田 和弘	鳥取大学大学院連合農学
P3-168	○ 矢野 初美	東京大大学院農学生命科学		吉田 勝彦	国立環境研・生物
P2-123	○ 矢部 和夫	札幌市立大学	P1-071	吉田 聡子	横浜国立大環境情報学府
B3-06	矢部 徹	国立環境研究所・生物圏	B3-10	○ 吉田 丈人	東京大・総合文化
F3-10	○ 山内 淳	京都大学・生態研センター	P2-153	吉田 俊也	北海道大学兩龍研究林
P3-233	○ 山浦 悠一	森林総合研・昆虫生態	P1-129	○ 吉田 康子	筑波大・生命環境
	○ 山尾 僚	岡山理科大・総情・生地	P2-119	○ 吉竹 晋平	広島大・院・生物圏
P1-154	○ 山岸 洋貴	北大・院・環境科学	P1-014	吉野 元	東北大学生命科学
E3-06	○ 山北 剛久	千葉大院自然科学	P3-232	吉原 佑	東京大学農学部生物多様性
G1-09	○ 山口 健太	横浜国立大学大学院	P1-240	吉村 謙一	神戸大学自然科学研究科
P2-021	山口 貴広	北大 低温科学研究所	G3-03	○ 吉村 仁	静岡大創造院
G3-09	○ 山口 博史	東薬大・生命	P3-201	吉村 真弥	筑波大学共生生物学研究室
P3-191	山口 正樹	神戸大・理・生物	P3-005	吉村 真由美	森林総合研究所 関西支所
P2-204	○ 山口 恭弘	中央農研・鳥獣害研	P1-176	吉本 敦子	金沢大院自然計測応用研究
P3-214	山口 和香子	東北大・院・生命科学	G3-02	米倉 竜次	岐阜県河川研
P2-102	○ 山崎 実希	東北大院・農	S05-2	○ 米田 健	鹿児島大学・農学部
	山崎 理正	京大・農	G3-08	○ 米田 昌浩	国立環境研究所
P1-217	山路 恵子	筑波大院・生命環境	P3-193	○ 米谷 衣代	京大・生態学研究センター
P3-004	○ 山下 聡	総合地球環境学研究所	P3-003	萬屋 宏	北海道大学低温科学研究所
P1-051	山下 英恵	東大院・農学生命	D1-09	梁 乃申	国立環境研究所
P1-163	山城 明日香	徳島大学院自然環境研究科	P1-067	林 彬勲	産総研
P2-217	山田 亜希美	筑波大学	P1-103	○ リグホフー 萌奈美	東大・農・生物多様性科学
P1-110	○ 山田 彩	京都大学霊長類研究所	P2-179	○ 和穎 朗太	生態学研究センター
P3-033	山田 勝雅	千葉大学自然科学研究科	P3-120	○ 若菜 勇	阿寒湖畔EMC
P3-157	山田 健四	北海道立林業試験場		○ 若松 伸彦	横国大・院・環境情報
P1-098	山田 晋	(独) 農業環境技術研究所	S07-2	和田 哲	北海道大学大学院水産科学
P3-045	山田 文雄	森林総合研・関西	P1-125	渡辺 健太郎	千葉大学自然科学研究科
P1-239	○ 山田 雅仁	北海道大学低温科学研究所	E1-01	○ 渡邊 俊	東京大学海洋研究所
S09-4	山田 佳裕	香川大学農学部	P1-029	○ 渡邊 淳之介	北海道大学環境科学院
B1-11	山田 義裕	岡山大学環境学研究科		○ 渡邊 園子	広島大院・国際協力
P2-055	山田島 崇文	鹿児島大学教育学研究科		渡辺 肇	高岡法科大・教養
	○ 山名 郁実	大阪市大・院・理	S13-5	○ 渡辺 守	筑波大生物科学系
A3-01	○ 山中 裕樹	京大生態研	S02-5	○ 綿野 泰行	千葉大学理学部
P2-157	山中 みのり	滋賀県大院 環境科学		○ Ahimsa Campos-Arceiz	The University of Tokyo
P1-038	○ 山道 真人	東大・農	P3-190	○ Amporn Wiwegweaw	Dept. of Biol. Shinshu U.
	山村 光司	農業環境技術研究所	P3-240	Ana Jagui Perez Kuroki	Hiroshima University
S03-1	○ 山村 則男	京大生態学研究センター	P1-117	○ Azam Miandoab Haidary	Grad.Sch.Biosphere,Hiroshima Univ.
	山村 靖夫	茨城大学理学部	E1-05	Ben Adams	Kyushu University
	山本 貴仁	愛媛県総合科学博物館	P3-250	○ Byomkesh Talukder	Hiroshima University
P3-146	山本 俊昭	日本獣医生命科学大学		CHEN SiewFong	京都大学大学院
P3-051	○ 山本 智子	鹿児島大学水産学部	S10-5	○ Chih-hao Hsieh	
P1-221	○ 山本 福寿	鳥取大学農学部	T01-2	○ Christopher A Klausmeier	Michigan State Univ.
P1-242	山本 牧子	乾燥地研究センター		○ Dipak Adhikari	Media forum for Res. & Dev.
D3-02	○ 山元 得江	秋田県立大学		○ DULAYANURAK ARUMPA	SHINSHU U. Dept Biology

発表	懇	名前	所属
P3-097		Erna S. Poesie	Ehime University
P3-013		Ida Kinasih	Kanazawa University
P3-138	○	Jeom-Sook Lee	Kunsan National Univ
		Kong-Ju Kim	Kunsan National Univ
	○	Lee Hyo-jin	Hiroshima Univ.
P3-091	○	Munidasu Dulee	筑波大学命環境科学研究科
P3-036		Napakwan Whanpetch	千葉大学自然科学研究科
E1-12	○	Nguyen Minh Nguyet	Hiroshima Univ.
		Nguyen Van Quang	Hiroshima University
P3-102		Nicolas Delbart	JAMSTEC FRCGC
P1-212		Onno Muller	Tohoku University
P3-243		PAN Yun	IDEC,Hiroshima Univ.
P3-244		Pham Duc Uy	Hiroshima University
P3-060		Ramadhani Eka Putra	Kanazawa University
E1-11	○	Sun-Kee Hong	Mokpo National Univ.
P3-175	○	TELSCHOW Arndt	CER, Kyoto University
T01-4	○	William Fagan	University of Maryland

(2006年12月18日現在)

第 55 回日本生態学会大会（2008 年 3 月 福岡）のご案内

来年度の第 55 回日本生態学会大会は、福岡市で開催されることになりました。1994 年に九州大学で開催された第 41 回大会以来、14 年ぶりの福岡市での開催となります。この 14 年間に、日本生態学会は大きく発展し、大会の規模も拡大したため、九州大学のキャンパスではなく、福岡国際会議場を会場として開催する計画です。

九州大学(箱崎地区)の日本生態学会会員は 27 名、うち教員は 10 名(理学研究院 5 名 + 農学研究院 5 名)です。日本生態学会の大会をお世話するスタッフとしては、いささか力不足ではないかと危惧していますが、関連分野の方々にもご協力をお願いして、充実した大会となるよう、準備にあたるつもりです。大会企画委員会の方々と相談しながら、特色のあるプログラムを企画したいと考えています。

大会実行委員会一同、皆様のご来福を心よりお待ちしております。

大会会長 巖佐 庸

大会日程：2008 年 3 月 14 日(金)～3 月 18 日(火)

会 場：福岡国際会議場

〒812-0032 福岡市博多区石城町 2-1

TEL：(092)262-3898 FAX：(092)262-4701

問い合わせ連絡先：

巖佐 庸 Tel:092-642-2639 Fax:092-642-2645

E-mail: yiwasscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

粕谷英一 Tel:092-642-2624 Fax:092-642-2645

E-mail: ekasuscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

九州大学理学部生物学教室

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1